

727-23

48  
4

法令全書

臺灣總督府令

○臺灣總督府令第一號 (官報一月十七日)

明治三十一年六月府令第四十號警察管區中臺南縣六都總署廢止ス

○臺灣總督府令第二號 (官報一月二十三日)

明治三十一年十二月府令第百一十一號臺灣公學校教員檢定期則中左ノ通改正ス  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但國語學校師範部卒業生及同校所定ノ講習ヲ修了シ即時檢定ヲ請フ者ハ國語學校ヲ經由スル  
ノトス

第三條中地方長官ノ下ニ及國語學校長ノ六字ヲ加フ

〔參照〕

臺灣總督府令第百一十一號臺灣公學校教員檢定期則(明治三十一年一月六日官報抄録)

第二條 檢定ヲ請ハント欲スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ地方長官ヲ經テ臺灣總督府ニ提出スヘシ

○臺灣總督府令第三號 (官報一月二十三日)

明治二十九年六月府令第八號臺灣公學校規則第四條二項左ノ通改正ス  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十三年二月 臺灣總督府令 第一號 第二號 第三號



公醫ニハ出向赴任轉地其他特ニ官廳ヨリ旅行ヲ命シタルトキハ旅費ヲ給ス其給額ハ別ニ定ムル所ニ依ル

〔參照〕

臺灣總督府令第八號臺灣公醫規則(明治二十九年七月十日官報)抄錄  
第四條第二項  
公醫ニハ出向赴任轉地ニ限リ旅費ヲ給ス其給額ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○臺灣總督府令第四號(官報二月二日)  
保稅倉庫ニ關スル律令施行細則左ノ通相定ム

明治三十三年一月十七日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

保稅倉庫ニ關スル律令施行細則

第一章 貨物ノ藏置及運搬

第二條 官設保稅倉庫ニハ左ノ各項ニ觸レザル物品バ之ヲ藏置スルコトヲ得

一 無稅品

二 巨大ナルモノ及重量ナルモノ

三 損傷腐敗セシモノ又ハ損傷腐敗シ易キモノ

四 發火質燃燐質又ハ爆發質ノモノ

五 倉庫又ハ他ノ貨物ヲ汚損スベキモノ

六 動物及植物

七 不潔物

第三條 私設保稅倉庫ニ藏置スル貨物ノ種類ハ臺灣總督ノ認可ヲ得タルモノニ限ル

第四條 保稅倉庫ニ貨物ヲ藏置セントスル者ハ庫入願書ヲ倉庫所在地ノ稅關又ハ稅關出張所ニ差

出シ貨物ノ檢査ヲ經庫入免狀ヲ受クヘシ但回送貨物ナルトキハ第七條ノ回送免狀ヲ添付スヘシ

第五條 藏置貨物ノ全部又ハ一部ヲ引取ラントスル者ハ輸入願書ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ

輸入稅ヲ納メ輸入免狀ヲ受クヘシ

第六條 藏置貨物ヲ庫移セントスル者ハ庫移願書ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ庫移免狀ヲ受ク

ヘシ但庫移ノ爲回送ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第六條 藏置貨物ヲ外國ニ積戻サントスル者ハ積戻願書ヲ船積港ノ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ積戻免狀ヲ受クヘシ但回送貨物ナルトキハ第七條ノ回送免狀ヲ添付スヘシ

第七條 保税倉庫ニ庫入又ハ庫移ノ爲輸入手續未済貨物ヲ運搬セントスルトキハ回送願書一通ヲ其發送地ノ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ檢査ヲ經回送免狀ヲ受クヘシ

保税倉庫ニ藏置ノ貨物ヲ外國ニ積戻ス爲運搬ヲ要スルトキ亦前項ニ同シ

第八條 稅關又ハ稅關出張所ニ於テ必要アリト認ムルトキハ貨主ヲシテ回送貨物ニ對スル輸入稅金ヲ假納セシムヘシ

第九條 回送貨物仕向地ニ到達スルトキハ其回送免狀ニ仕向地ノ稅關又ハ稅關出張所ノ證明ヲ受ケ發送地ノ稅關又ハ稅關出張所ニ差出スヘシ其稅金ヲ假納シタルモノハ其際之ヲ拂戻スモノトス

第十條 回送貨物仕向地ニ到達セサルモノアルトキハ其貨物ニ對スル稅金ヲ徵收ス但假納金アルトキハ其假納金ヲ以テ稅金ニ充ツルモノトス

第十一條 稅關又ハ稅關出張所ニ於テ必要ト認ムルトキハ貨物運搬ノ途中稅關官吏ヲシテ之ヲ監督セシムルコトアルヘシ

第十二條 官設保税倉庫藏置ノ貨物引取ノ權利ニ付訴訟アル場合ニ於テ其當事者ヨリ藏置期限ノ延期ヲ請ハントスルトキハ其期限ヲ豫定シ出訴ノ年月日事由及出訴シタル法院ノ名稱等ヲ記シタル藏置期限延期願書ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ認可ヲ受クヘシ但延期豫定期限内ニ訴訟事件終結セサルトキハ更ニ延期ヲ求ムルコトヲ得

第十三條 包裝ノ完全ナラサル貨物ハ改装シタル上ニアラサレハ庫入スルコトヲ得ス

第十四條 庫入シタル貨物ハ稅關官吏ノ指定シタル場所ニ藏置スヘシ稅關官吏ノ許可ヲ受クルニアラサレハ其場所ヲ變更スルコトヲ得ス

第十五條 他ノ貨物ヲ傷害若ハ汚損スヘキ虞アル貨物ハ他ノ貨物ト混同シテ藏置スルコトヲ得ス

第十六條 藏置貨物ノ見本ヲ取出サントスル者ハ其品名及數量ヲ記シタル書面ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ承認ヲ受クヘシ

第二章 預證券

第十七條 官設保税倉庫ニ貨物ノ庫入ヲ了シタルトキハ稅關又ハ稅關出張所ハ稅關長若ハ稅關出張所長ノ署名捺印シタル預證券ヲ貨主ニ交付スベシ

預證券ニハ左ノ事項ヲ記入スヘシ

- 一 貨物ノ品名記號番號簡數數量
- 二 陸揚申告及庫入ノ年月日
- 三 貨主ノ住所氏名
- 四 倉庫所在地及番號
- 五 輸入稅額
- 六 庫敷料

第十八條 預證券ハ每品一通トス但貨主ノ請求ニ依リ分割スルコトアルヘシ

第十九條 預證券讓渡ノ裏書ハ其讓受人ノ氏名及讓渡ノ年月日ヲ記シ讓渡人之ニ署名捺印スヘキ

モノトス但便宜ニ依リ裏書ニ讓渡人ノ署名捺印ノミヲ以テ讓渡ヲ爲スコトヲ得

第二十條 預證券ニ記載シタル貨物ノ一部ヲ引取りタル者ハ其殘留スル貨物ニ對シ預證券ノ再渡ヲ請フヘシ

第二十一條 預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其證券ヲ發シタル稅關又ハ稅關出張所ニ届出ツヘシ

前項ノ預證券發見ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十二條 預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキ新證券ノ交付ヲ請ハントスル者ハ再渡願書ニ除權判決ノ謄本ヲ添ヘ其證券ヲ發シタル稅關又ハ稅關出張所ニ差出スヘシ

第二十三條 預證券ノ分割再渡又ハ書換ヲ請フ者ハ手数料トシテ一通ニ付金三十錢ヲ納ムヘシ

第三章 私設保稅倉庫營業ノ特許及庫主ノ責務

第二十四條 保稅倉庫法ニ依リ保稅倉庫ヲ設ケ輸入手數未濟貨物ヲ保管スルノ業ヲ營マントスル者ハ其倉庫ノ位置構造棟數坪數藏置スヘキ貨物ノ種類營業年限ヲ記シタル書面及倉庫並附近ノ圖面ヲ添ヘ其倉庫ヲ設立セントスル地ノ管轄地方廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ出願スヘシ但會社ニ在テハ別ニ契約書又ハ定款ノ謄本ヲ添フヘシ

會社ヲ組織シテ本業ヲ營マシトスル者ハ前項書類ノ外合名會社合資會社ニ在テハ其契約書ノ謄本ヲ添ヘ社員ヨリ株式會社ニ在テハ發起認可書ノ謄本及假定款謄本ヲ添ヘ發起人ヨリ出願スヘシ

第二十五條 私設保稅倉庫營業ノ特許ハ二十箇年以内ニ於テ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ與フルモノトス

ス但特許期限ノ延期ヲ出願スル者アルトキハ調査ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十六條 私設保稅倉庫營業ノ特許ヲ得タル者ハ少クモ開業ノ日ヨリ十日前ニ擔保物ヲ供託シ其供託受領證ノ寫ヲ添ヘ稅關又ハ稅關出張所ニ届出ツヘシ

供託物ハ保稅倉庫法ニ依リ庫主ニ屬スル義務ノ解除ニ至ルトキハ其旨ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ申出テ稅關長又ハ稅關出張所長ノ證明ヲ得テ之カ返戻ヲ求ルコトヲ得

第二十七條 擔保ハ左ノ割合ニ依リ之ヲ徵ス但石油ヲ藏置スル倉庫ハ半額トス

平家建總坪數五十坪マテ 金 千 圓

以上五十坪マテヲ増ス毎ニ金千圓ヲ加フ

二階建總坪數五十坪マテ 金千五百圓

以上五十坪マテヲ増ス毎ニ金千五百圓ヲ加フ

第二十八條 私設保稅倉庫坪數ノ増加若ハ構造ノ變更ニ依リ擔保ノ増加ヲ要スルトキハ庫主ハ稅關長又ハ稅關出張所長ノ指揮ニ從ヒ其増加額ニ相當スル擔保物ヲ供託スヘシ

第二十九條 私設保稅倉庫坪數ノ減少若ハ構造ノ變更ニ依リ擔保ニ過剩ヲ生スルトキハ庫主ハ稅關長又ハ稅關出張所長ニ申出テ其減少ヲ求ムルコトヲ得

第三十條 私設保稅倉庫ヲ改築シ又ハ構造ヲ變更シ若ハ之ヲ増設シ又ハ減少セントスルトキハ庫主ハ稅關又ハ稅關出張所ニ申出テ認許ヲ受クヘシ

第三十一條 私設保稅倉庫營業ノ特許ヲ得タル者ハ其開業前ニ又倉庫ノ改築構造ノ變更若ハ増減ノ認許ヲ得タル者ハ工事落成ノトキ稅關又ハ稅關出張所ニ申出テ其倉庫ノ検査ヲ受クヘシ

第三十二條 私設保稅倉庫ノ修繕又ハ造作ノ變更ヲ爲サントスルトキハ庫主ハ稅關又ハ稅關出張所ニ申出テ其倉庫ノ検査ヲ受クヘシ

所ニ申出テ承認ヲ受クヘシ

第三十三條 庫主私設保稅倉庫ノ營業特許期限內ニ營業ヲ廢セントスルトキハ其旨ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ届出ツヘシ

第三十四條 私設保稅倉庫營業特許消滅ノトキ其業務ヲ引繼カントスル者ハ第二十四條ノ規定ニ準據シ臺灣總督ニ出願スヘシ但此場合ニ於テ其使用スル倉庫ニ異動ナキモノハ圖面ヲ添付スルヲ要セス

第三十五條 私設保稅倉庫藏置ノ認可ヲ得タル貨物ノ種類ヲ變更セントスルトキハ臺灣總督ノ認許ヲ受クヘシ

第三十六條 發火質、燃燒質又ハ爆發質ノ貨物ハ特ニ其貨物藏置ノ爲設ケタル倉庫ノ外之ヲ藏置スルコトヲ得ス

第三十七條 私設保稅倉庫又ハ其藏置貨物ニ異狀アリタルトキハ直ニ其旨ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ申出テ稅關官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

第三十八條 私設保稅倉庫藏置ノ貨物盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ庫主ハ其貨物ニ對スル輸入稅ヲ納ムヘシ

第三十九條 私設保稅倉庫藏置ノ貨物藏置期限ヲ經過シ貨主其貨物ヲ引取ラサルトキハ稅關又ハ稅關出張所ハ庫主ヲシテ納稅其他輸入ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第四十條 私設保稅倉庫ノ庫主自身ニ業務ヲ擔當スル能ハサルトキハ相當ノ代理者ヲ置キ其業務ヲ擔當セシムヘシ

第四十一條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關長又ハ稅關出張所長ノ指揮ニ從ヒ貨物検査上必要ノ場所

ヲ設ケ器具機械ヲ備ヘ其他相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第四十二條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ貨物ノ検査ヲ受クルトキ検査上一切ノ利便ヲ與フルノ義務アルモノトス

第四十三條 私設保稅倉庫ニハ二重鎖鑰ヲ設ケ其鑰一箇ハ稅關又ハ稅關出張所ノ保管ニ付スヘシ

第四十四條 私設保稅倉庫ノ開閉又ハ貨物出入ヲ爲ストキハ稅關官吏ノ立會ヲ受クヘシ

第四十五條 私設保稅倉庫ノ業務ニ從事スル者ノ氏名ハ其庫主ヨリ稅關又ハ稅關出張所ニ届出ツヘシ其變更アルトキ亦同シ

第四十六條 庫主ノ雇人及其使用スル人夫ニシテ私設保稅倉庫內若ハ其構內ニ出入スル者ニ付テハ庫主ハ相當ノ取締方法ヲ設クヘシ

第四十七條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ藏置貨物ニ關スル帳簿ヲ設ケ其出入ヲ明カニスヘシ

第四十八條 私設保稅倉庫ノ庫主ハ稅關又ハ稅關出張所ノ命令ニ從ヒ其營業ニ關スル諸般ノ報告書ヲ差出スヘシ

第四章 雜則

第四十九條 保稅倉庫ノ開扉ハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルモノトス

第五十條 稅關ノ休日ニ於テ保稅倉庫ノ開扉ヲ要スルトキハ臨時開庫願書ヲ稅關又ハ稅關出張所ニ差出シ特許ヲ受クヘシ

第五十一條 稅關ノ休日ニ於テ保稅倉庫ノ開扉ヲ要スルトキハ一時間ニ付金一圓ノ手数料ヲ納ムヘシ

第五十二條 保稅倉庫法第十六條第十七條及第二十七條ノ公告ハ關係ノ稅關又ハ稅關出張所ニ掲

示スルノ外三日以上府報又ハ新聞紙ヲ以テ公告スヘキ

第五十三條 貨物庫入ノ日ヨリ起算スル期間ハ庫入免狀交付ノ日ヨリ計算ス

第五十四條 貨主其搬置貨物ノ調査ヲ爲サントスルトキハ税關又ハ税關出張所ニ申出テ承認ヲ受ケル

第五十五條 庫内ニハ火氣ヲ入ル、コトヲ得ス但燈火ヲ要スルトキハ軍艦用ノ提燈ヲ用フヘシ  
第五十六條 此規則ニ依リ左ノ願書ヲ税關又ハ税關出張所ニ差出ストキハ其取扱ノ手数料トシテ每件金三十錢ヲ納ムヘシ

- 一 庫入願書
- 一 庫移願書
- 一 積戻願書
- 一 搬置期限延期願書
- 一 回送願書

第五十七條 官設保税倉庫ニ搬置ノ貨物ニ係ル運搬費公告料其他貨物取扱ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

前項ノ諸費ニシテ政府ニ辨償スヘキモノハ貨物庫出ノトキ税關又ハ税關出張所ニ納ムヘシ  
第五十八條 此規則ニ依リ税關又ハ税關出張所ニ差出スヘキ願書及屆書ハ税關一定ノ書式ニ依リ

○臺灣總督府令第五號(官報二月二日)  
明治三十二年七月七府令第五十四號ニ左ノ一號ヲ追加ス

明治三十二年一月二十一日

六 刑法附則

臺灣總督男爵兒玉源太郎

(參照)

明治三十一年八月二日臺灣總督府令第五十四號ハ明治三十一年律令第八號民事商事及刑事ニ關スル律令第一條ニ定メタル附屬法律ノ名稱ナリ

○臺灣總督府令第六號(官報二月一日)  
明治三十二年一月二十五日限臨時法院ヲ廢止ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七號(官報二月七日)  
明治二十九年八月府令第二十五號及同三十年一月府令第一號税關出張所名稱左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

蘇澳基隆税關出張所	後壠淡水税關出張所	鹿港淡水税關出張所	媽宮安平税關出張所
梧棲淡水税關出張所	梧棲淡水税關出張所	東港打狗税關出張所	東石港安平税關出張所

○臺灣總督府令第八號(官報二月七日)  
明治二十九年八月府令第二十五號税關出張所ノ配置及其名稱中臺中縣管下鹿港ノ次ニ臺中縣管下下湖口ヲ鹿港淡水税關出張所ノ次ニ下湖口安平税關出張所ヲ加フ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第九號(官報二月七日)  
明治三十年一月府令第四號特別輸出入港臺中縣管下鹿港ノ次ニ臺中縣管下下湖口ヲ加フ  
本令ハ明治三十二年二月十五日ヨリ施行ス

明治三十二年一月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十號(官報二月二十三日)

明治三十二年二月律令第三號第四條ニ依リ在監人某代ハ一日金二錢五厘以下トス  
明治三十二年二月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十一號(官報三月三日)

明治三十二年勅令第二十六號ニ依リ收入印紙ヲ以テ納ムルノ手續料種目左ノ如シ

明治三十二年二月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

- 一 樟腦營業仕入出賣鑑札料
- 一 糖業鑑札料
- 一 鑛業手續料
- 一 醫業免許證手續料
- 一 訴訟代人登錄手續料
- 一 刑事ノ判決正本謄本抄本手續料
- 一 私書證書確定日附請求手續料
- 一 執達規則第三條ノ差押及假差押請求手續料
- 一 執達規則第四條ノ物ノ明渡及引渡請求手續料
- 一 執達規則第七條ノ謄本請求手續料
- 一 外國旅券手續料
- 一 上陸許可證及證明書再下付手續料
- 一 船籍證書及船鑑札下付手續料
- 一 茶工券下付手續料

○臺灣總督府令第十二號(官報三月三日)

明治三十二年二月府令第十一號ニ依リ收入印紙ヲ以テ手續料ヲ納ムルトキハ其金額ニ相當スル印紙

ヲ願書其他ノ書類ニ貼用スヘシ

明治三十三年二月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十三號 (官報 三月三日)

收入印紙賣下賣捌規則左ノ通相定ム

明治三十三年二月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

收入印紙賣下賣捌規則

- 第一條 收入印紙ハ此規則ニ依リ賣下賣捌ヲ爲スモノトス
- 第二條 印紙ハ官廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム但賣捌所ナキ地方ニ在テハ辦務署ニ於テ賣下ケシムルコトヲ得
- 第三條 印紙賣捌所ノ數及區域ハ地方長官之ヲ指定スヘシ
- 第四條 印紙ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ指定ノ地ニ賣捌所ヲ定メ地方廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第五條 賣捌人賣捌所ヲ變更セントスルトキハ更ニ地方廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第六條 賣捌人ハ地方廳ニ願出テ印紙ノ賣下ヲ受クヘシ
- 第六條 印紙ノ賣下ハ其額面ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ爲スヘシ
- 印紙ハ其代金納付ノ上之ヲ下渡スヘシ
- 第七條 賣捌人ハ印紙損傷又ハ汚染シタルトキ若ハ不用ニ歸シタルトキハ其額面ニ對シ百分ノ七ノ割引ヲ以テ交換又ハ買戻ヲ地方廳ニ請求スルコトヲ得
- 第八條 印紙ハ許可ヲ得タル場所ノ外ニ於テ賣捌クコトヲ得ス
- 印紙ハ定價ヲ以テ需用者ニ賣捌クヘシ

前二項ノ規定ニ違フ者ハ印紙賣捌ノ許可ヲ取消スモノトス

第九條 賣捌人ハ別記離形ノ標札ヲ調製シ官廳ノ檢印ヲ受ケ戶外ニ掲出スヘシ

第十條 賣捌人廢業スルトキハ其旨届出檢印ノ削除ヲ請フヘシ

賣捌人其許可ヲ取消サレタルトキハ前項ニ準シ檢印ノ削除ヲ請フヘシ

第十一條 賣捌人ハ印紙受拂帳ヲ調製シ印紙受拂ノ都度其員數及年月日ヲ記載スヘシ

附則

第十二條 明治三十一年六月府令第三十四號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十三條 此規則施行ノ日ニ現在スル印紙賣捌人ニシテ指定地ニ在ルモノハ更ニ願出ツルヲ要セ

ス將來此規則ニ從ヒ繼續シテ賣捌ヲ爲スコトヲ得

(別記離形) 木製縦二尺五寸横八寸

檢印
收入印紙賣捌所
住所
賣捌人
何之誰

〔參照〕

明治三十一年六月府令第三十四號 (官報 三月十七日)

○臺灣總督府令第十四號 (官報 三月十七日)

官有森林原野產物賣渡及官有森林原野貸渡ニ用井ル極印規則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎



官有森林原野產物賣渡及官有森林原野貸渡ニ用井ル極印規則

第一條 官有森林原野產物賣渡及官有森林原野貸渡ニ用井ル極印ハ查印及交印ノ二種トス其雛形左ノ如シ



直徑曲尺一寸  
脚ノ幅曲尺五厘  
字體楷書

第二條 查印ハ林野產物ノ賣渡又ハ地所貸渡其他總テ林野產物ノ檢查ニ用井交印ハ引渡ノ證トシテ之ヲ用フヘシ

第三條 極印使用手續ハ地方長官之ヲ定ム

○臺灣總督府令第十五號(官報 四月四日)

明治三十一年六月府令第三十九號辨務署名稱位置及管轄區域中宜蘭廳宜蘭辨務署管轄區域ノ欄民壯圍堡ノ下ニ(東霧罕庄ヲ除ク)ノ七字同羅東辨務署管轄區域ノ欄利澤簡堡及ノ下ニ「民壯圍堡」ノ四字ヲ追加ス

明治三十二年三月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第十六號(官報 四月四日)

明治三十年六月府令第二十八號中尋常中學科ヲ總テ「中學科」ニ改ム

明治三十二年三月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十年六月二十五日臺灣總督府令第二十八號ハ臺灣總督府國語學校第四附屬學校規程ナリ

○臺灣總督府令第十七號(官報 四月四日)

臺灣總督府文官服制施行規則左ノ通相定ム

明治三十二年三月二十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣總督府文官服制施行規則

第一條 明治三十二年勅令第三十九號臺灣總督府文官服制ハ明治三十二年五月一日ヨリ施行ス本屬長官ニ於テ止ムヲ得スト認ムル者ニハ明治三十二年十月三十一日マテ制服ノ着用ヲ猶豫スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル者ハ劔及劔帶ヲ佩用スヘシ

- 一 收稅事務其他廳外ニ於テ人民ニ直接スル職務ニ服スル者
- 二 其他本屬長官ニ於テ必要トスル職務ニ服スル者

○臺灣總督府令第十八號 (官報 四月四日)

明治二十九年九月府令第三十八號直轄國語學校規則中左ノ通改正ス

明治三十三年三月二十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第五條中「尋常」ノ二字ヲ削ル

第七條第二項中「歴更」ノ下ニ「本邦法令」ノ四字ヲ加フ

第二十二條修身ノ項中「ケ兼テ重要ナル府令及告諭ノ大要ヲ授」ノ十七字ヲ削リ地理歴史ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

一 本邦法令ハ憲法及諸法規ノ大要ヲ授ク

本邦法令ヲ授クルニハ務テ法意ノ大要ヲ理會セシメ又律令府令等ハ成ルヘク詳密ニ了解セ

シメ兼テ理財ノ大要ニ通曉セシメンコトヲ要ス

第二十三條教授課程表修身ノ欄中「重要ナル府令告諭等」ノ九字ヲ削リ同欄及習字ノ欄第三學年ノ

每週教授時間ヲ「二」ニ改メ地理歴史ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

本邦法令

三 憲法ノ大要  
諸法規ノ大要

〔參照〕

臺灣總督府令第三十八號臺灣總督府國語學校規則(明治二十九年九月二十五日)抄録

第五條第一項 師範部ノ生徒ハ年齢十八歳以上三十歳以下ノ内地人ニシテ尋常中學校ノ第四年生以上ノ學力アルモノトシ國語部ノ生徒

ハ年齢十五歳以上二十五歳以下ニシテ高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スル内地人及國語學校附屬學校公學校又ハ國語傳習所ノ卒業生以上ノ學力アル本島人トス

第七條第二項

土語學科ノ教科目ハ修身土語讀著作文字算術簿記地理歴史唱歌體操トス

第二十二條 土語學科ノ教科ノ程度左ノ如シ  
一 修身ハ教育ニ關スル 勸諭ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ケ兼テ重要ナル府令及告諭ノ大要ヲ授ク(下略)

○臺灣總督府令第十九號 (官報 四月八日)

臺灣總督府ニ差出スヘキ願届書等ハ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外總テ其管轄地方廳ヲ經由スヘシ

明治三十三年三月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第二十號 (官報 四月八日)

地方ニ便宜郵便及電信局ノ出張所ヲ置キ郵便物ノ集配及郵便切手賣下ノ事務ヲ取扱ハシム

前項ノ外特ニ指定シタル出張所ニ於テハ小包郵便物ノ集配郵便爲替郵便貯金及電信ノ事務ヲ取扱ハシム

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

明治二十九年九月府令第三十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十三年二月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治二十九年九月二十日臺灣總督府令第三十四號ハ樞要ノ地ニ郵便受取所設置ノ件ナリ

○臺灣總督府令第二十一號 (官報 四月八日)

郵便及電信局管轄區内樞要ノ地ニ郵便受取所ヲ置キ郵便物(小包共)ノ受付郵便切手賣下ノ事務及郵便爲替郵便貯金受拂ノ事務ヲ取扱ハシム

郵便受取所ニ關シ特ニ規定セサル事項ハ總テ内地郵便受取所ノ規程ヲ準用ス  
本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十二年三月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第二十二號(官報四月八日)

明治三十一年六月府令第三十九號辨務署名稱位置及管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十二年三月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

一 臺中縣臺中辨務署管轄區域ノ欄猫羅堡ノ下ニ(田中央庄、快官庄、竹巷庄、風吹厝庄、大)ノ二十九字ヲ加フ

二 同彰化辨務署同欄線西堡ノ下ニ「猫羅堡ノ内臺中辨務署所屬ヲ除キ」ノ十五字ヲ加フ

三 同斗六辨務署同欄打猫東頂堡(舊雲林支廳管)ノ下ニ「西螺堡、打猫北堡(舊雲林支廳管)ノ十九字ヲ加フ

四 同北港辨務署同欄「西螺堡、打猫北堡(舊雲林支廳管)ノ十九字ヲ削ル

○臺灣總督府令第二十三號(官報四月八日)

明治三十年律令第一號第一條ニ依リ特別輸出入港當分ノ内左ノ通指定ス

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

明治三十年一月府令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十二年三月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺北縣管下荖港  
臺中縣管下後壠  
臺中縣管下梧棲  
臺中縣管下下湖口  
臺南縣管下東港  
澎湖廳管下媽宮

〔參照〕

明治三十年一月四日官報(一)臺灣總督府令第四號ハ特別輸出港指定ノ件ナリ

○臺灣總督府令第二十四號(官報四月八日)

明治三十二年一月府令第七號中蘇灣基隆稅關出張所ヲ明治三十二年三月三十一日限廢止ス

明治三十二年三月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第二十五號(官報四月十三日)

明治三十一年四月勅令第五十一號臺灣鹽務局官制第八條ニ依リ鹽務局ノ名稱位置及其管轄區域ヲ左ノ通相定ム

明治三十二年四月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

位 置	名 稱	管 轄 區 域
臺北縣	鹽務局	臺北、三角湧、景尾、桃仔園、水返脚、辨務署管內
臺北縣	酒尾	酒尾辨務署管內
臺北縣	基隆	基隆、頂雙溪、辨務署管內
臺北縣	新竹	新竹、新埔、辨務署管內
臺中縣	後壠	苗粟辨務署管內
臺中縣	大甲	大甲辨務署管內
臺中縣	鹿港	臺中、南投、辨務署管內
臺中縣	鹿港	鹿港、梧棲港、彰化、北斗、員林、辨務署管內
臺中縣	埔里	埔里社辨務署管內
臺中縣	雲林	斗六辨務署管內
臺南縣	嘉義	嘉義、店仔口、打猫、辨務署管內
臺南縣	布袋	樸仔脚、北港、辨務署管內
臺南縣	北門	麻豆、鹽水港、辨務署管內
臺南縣	鹽務局	臺南、大港、辨務署管內

- 臺南縣打狗 打狗鹽務局
- 臺南縣鳳山 鳳山鹽務局
- 臺南縣恒春 恒春鹽務局
- 臺南縣宜蘭 宜蘭鹽務局
- 臺南縣臺東 臺東鹽務局
- 澎湖廳媽宮 澎湖鹽務局
- 向公庄、潮州庄、東港、辨務署管内
- 鳳山、蕃薯寮、阿猴、辨務署管内
- 恒春、辨務署管内
- 宜蘭、羅東、辨務署管内
- 臺東、鹽務管内
- 澎湖廳管内

○臺灣總督府令第二十六號(官報 四月十三日)

明治二十九年八月府令第二十四號臺灣總督府郵便切手賣下人規則中左ノ通改正ス

明治三十二年四月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條中「所轄郵便電信局又ハ郵便局(以下單ニ所轄局ト記ス)ヲ一等又ハ二等郵便電信局及電信局區内ハ同(以下單ニ一等又ハ二等局三等局區内ハ)ト記ス」ニ改ム

第四條中「其所轄及第十四條中「所轄」ヲ一等又ハ二等郵便電信」ニ改ム

第七條中「所轄局」ヲ「所轄郵便電信局又ハ郵便局(以下單ニ所轄局ト記ス)」ニ改ム

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第八條ヲ第九條ニ改メ第九條ヲ削除ス

第八條 郵便切手賣下所又ハ郵便受取所ニ於テ賣捌ヲナス郵便切手ハ所轄局ヨリ買受クム

郵便切手賣下手数料ハ其郵便切手ノ額面金高百分ノ七トス

第十二條第十三條第十五條中「所轄局」トアルヲ「一等又ハ二等局三等局區内ハ」ニ改ム

第二號郵便切手買受請求書及第三號郵便切手類賣下手数料請求書書式中氏名ノ肩書郵便切手賣下人ノ下ニ「郵便受取所取扱人」ノ八字ヲ追加シ又同第三號書式但書中「百分ノ五」ヲ「百分ノ七」ニ改ム

〔参照〕

臺灣總督府令第二十四號臺灣總督府郵便切手賣下人規則(明治二十九年八月十八日官報)抄録

第二條 郵便切手ノ賣捌ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ所轄郵便電信局又ハ郵便局(以下單ニ所轄局ト記ス)ニ差出シ其免許ヲ受クヘシ

第四條 郵便切手賣下人ハ其所轄局ヨリ交付シタル郵便切手賣下所ノ標札ヲ公衆ノ認メ易キ場所ニ掲出スヘシ

第七條 郵便切手ハ其額面ノ金高ヨリ高價又ハ低價ヲ以テ賣捌クコトヲ得ヌ又些少タリトモ毀損汚斑アルカ若ハ護謨糊粘薄其他切手ノ效用ヲ缺クヘキ患アルモノハ賣捌クヘカラス其切手ハ直ニ引換ヲ所轄局ニ請求スヘシ但郵便切手賣下所ニ於テ毀損汚斑セシモノハ此限ニアラス

第九條 郵便切手賣下手数料ハ其郵便切手ノ額面金高百分ノ五トス

第十二條 郵便切手賣下免許證及郵便切手賣下所標札若水火盜難等ニ罹リ亡失毀損シタルトキハ速ニ所轄局ニ届出更ニ其代品ノ交付ヲ受クヘシ

第十三條 郵便切手賣下所標札ヲ故意怠慢ニ依リ亡失毀損セシタルトキハ其代價ノ辨償ヲ命スヘシ

第十四條 郵便切手賣下人改氏名等ヲ爲シタルトキハ所轄局ニ願書出免許證ノ書替ヲ受クヘシ

第十五條 郵便切手賣下人此規則ニ違背セシトキ又ハ所轄局長ニ於テ郵便切手賣下所設置ノ必要ナシト認メタルトキハ其賣下人ニ廢業ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條 郵便切手賣下人廢業ヲ命セラレタルトキ又ハ自己ノ都合ニ依リ廢業セシトキハ免許證及切手賣下所標札ヲ所轄局ニ返納スヘシ

○臺灣總督府令第二十七號(官報 四月十三日)

高等土地調查委員會規程左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十二年四月一日

高等土地調查委員會規程

第一條 高等土地調查委員會ハ會議ノ必要アル毎ニ委員長之ヲ召集ス

第二條 會議ニ付スヘキ事項ハ三日以前ニ之ヲ各委員ニ通知スヘシ

第三條 高等土地調查委員會ニ三名ノ審查委員ヲ常置ス

審查委員ハ高等土地調查委員長高等土地調查委員中ヨリ之ヲ選任ス

第四條 臺灣土地調查規則第五條第二項ニ依リ高等土地調查委員會ノ裁決ヲ求ムル者アルトキハ審查委員ヲシテ之ヲ調査セシメ其結果ヲ高等土地調查委員長ニ報告セシム

第五條 高等土地調査委員會ノ議事ハ出席員ノ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第六條 高等土地調査委員會及其審査委員ハ當事者及第三者ニ出頭ヲ命シ並必要ト認ムル證憑ヲ徵シ又ハ證人及鑑定人ヲ召喚スルコトヲ得其他必要アリト認ムルトキハ官廳又ハ人民ト文書ヲ往復シ又ハ委員ヲ派遣シテ實地ヲ臨檢セシムルコトヲ得

第七條 高等土地調査委員會ノ議事ハ議事録ニ筆記スルコトヲ要ス

第八條 高等土地調査委員會ノ裁決ハ裁決書ニ作リ理由ヲ付シ裁決ニ干與シタル委員之ニ署名捺印シ其原本ニ高等土地調査委員會ノ印章ヲ押捺シ之ヲ當事者ニ送達スヘシ

第九條 委員長事故アルトキハ其指定シタル委員ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第十條 高等土地調査委員會ニ幹事一名書記及通譯若干名ヲ置ク

幹事ハ臺灣總督府高等官書記ハ臺灣總督府判任官通譯ハ臺灣總督府ニ於テ通譯ニ從事スル者ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 幹事ハ高等土地調査委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ書記及通譯ハ委員長委員及幹事ノ命ヲ承ケ議事ノ筆記通譯及庶務ニ従事ス

第十二條 高等土地調査委員會ノ議事及審査委員ノ審査ニ關スル規程ハ高等土地調査委員長之ヲ定ム

○臺灣總督府令第二十八號(官報四月十三日)  
 明治三十一年六月府令第四十號ヲ廢止ス  
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年四月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十一年六月二十九日臺灣總督府令第四十號ハ辨務署管轄區域中警察管區ノ件ナリ

○臺灣總督府令第二十九號(官報四月十八日)

土地申告事項異動届出規則左ノ通相定ム

明治三十二年四月七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

土地申告事項異動届出規則

第一條 明治三十一年九月府令第九十一號臺灣土地調査規則施行細則第七條ニ依リ申告事項ノ異動ヲ届出ルトキハ此規則ニ依ルヘシ

第二條 賣買讓與其他ノ事由ニ依リ業主及質取主ニ異動ヲ生シタルトキハ第一號様式ニ依リ届出ヘシ

第三條 連續シタル數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲サントスルトキハ第二號様式ニ依リ届出ヘシ但河川道路溝渠等ヲ隔テ又ハ地目ノ異ナル土地ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

第四條 臺灣地籍規則第一條中ノ地目ヲ變換シタルトキハ第三號様式ニ依リ届出ヘシ但田ニ一時畑作ヲ爲スカ如キ一時ノ變更ニ止マルモノハ變換トシテ届出ルノ限ニアラス

第五條 官地トナリ又ハ官地ノ拂下ヲ受ケタルトキハ第四號様式ニ依リ届出ヘシ

第六條 申告者ノ住所姓名ヲ變更シタルトキ第五號様式ニ依リ届出ヘシ

第七條 地租官租大租等ハ届出ノ際適宜之ヲ分配シ甲數ハ明治三十一年律令第十四號臺灣土地調査規則第二條及第三條ニ依リ其土地ヲ丈量スルモノトス

第八條 屆書ハ渾テ所轄事務署ヲ經由シ臨時臺灣土地調查局ニ提出スヘシ

凡例 地番地目及甲數ハ臨時臺灣土地調查局ニ於テ調査シタル地番地目及甲數ヲ記入スヘシ(以下各様式同シ)

第一號様式ノ一(全筆ノ例)

土地賣買(又ハ何々ノ屆)

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

大租谷若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也

年月日

何堡何街庄社何番

賣渡(又ハ何々)人何

買受(又ハ何々)人何

何堡何街庄社何番

何堡何街庄社長 何

某印

某印

臨時臺灣土地調查局長宛

第一號様式ノ二(分割ノ例)

土地賣買(又ハ何々ノ屆)

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也

年月日

何堡何街庄社何番

賣渡(又ハ何々)人何

買受(又ハ何々)人何

何堡何街庄社何番

何堡何街庄社長 何

某印

某印

臨時臺灣土地調查局長宛

第一號様式ノ三(合併ノ例)

土地合併

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也

年月日

何堡何街庄社何番

賣渡(又ハ何々)人何

買受(又ハ何々)人何

何堡何街庄社何番

何堡何街庄社長 何

某印

某印

臨時臺灣土地調查局長宛

第二號様式ノ一(全筆ノ例)

地目變換屆

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日分讓變換候ニ付此段御届仕候也

年月日

何堡何街庄社何番

右業主

何堡何街庄社長 何

某印

某印

臨時臺灣土地調查局長宛

第三號様式ノ一(分割ノ例)

地目變換屆

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日分讓變換候ニ付此段御届仕候也

年月日

大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
官大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
水租谷若干	何堡何街庄社	何	某
一 地目 甲數	何堡何街庄社	何	某
地租金若干	何堡何街庄社	何	某
官大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
水租谷若干	何堡何街庄社	何	某
右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也			
年月日	何堡何街庄社何番	何	某印
	右業主	何	某印
	何堡何街庄社長	何	某印
	臨時臺灣土地調查局長宛		

大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
官大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
水租谷若干	何堡何街庄社	何	某
一 地目 甲數	何堡何街庄社	何	某
地租金若干	何堡何街庄社	何	某
官大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
水租谷若干	何堡何街庄社	何	某
右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也			
年月日	何堡何街庄社何番	何	某印
	右業主	何	某印
	何堡何街庄社長	何	某印
	臨時臺灣土地調查局長宛		

明治三十二年四月 臺灣總督府令 第二十九號 土地申告事項獎勵出規則

第二號様式

土地合併屆

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也

年月日

何堡何街庄社何番

賣渡(又ハ何々)人何

買受(又ハ何々)人何

何堡何街庄社何番

何堡何街庄社長 何

某印

某印

臨時臺灣土地調查局長宛

第二號様式

土地合併屆

何堡何街庄社土名何々

何番 何則

一 地目 甲數

地租金若干

官大租谷若干

水租谷若干

右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也

年月日

何堡何街庄社何番

賣渡(又ハ何々)人何

買受(又ハ何々)人何

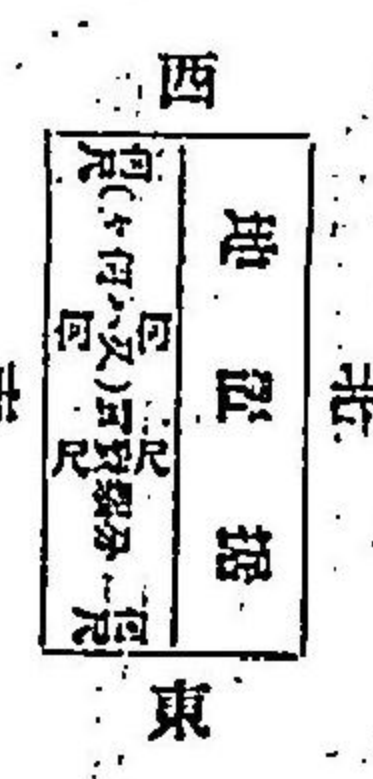
何堡何街庄社何番

何堡何街庄社長 何

某印

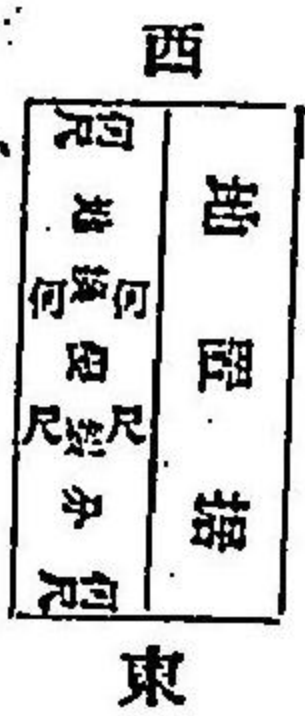
某印

臨時臺灣土地調查局長宛



大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
官大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
水租谷若干	何堡何街庄社	何	某
一 地目 甲數	何堡何街庄社	何	某
地租金若干	何堡何街庄社	何	某
官大租谷若干	何堡何街庄社	何	某
水租谷若干	何堡何街庄社	何	某
右ハ明治何年何月何日賣買(又ハ何々)候ニ付此段御届仕候也			
年月日	何堡何街庄社何番	何	某印
	賣渡(又ハ何々)人何	何	某印
	買受(又ハ何々)人何	何	某印
	何堡何街庄社長	何	某印
	臨時臺灣土地調查局長宛		

臨時臺灣土地調查局長宛



第四號樣式

官地成(官地拂受)屆  
何堡何街庄社土名何々  
何番 何則  
一地目甲敷  
地租金若干  
大租金若干  
官大租金若干  
水租金若干  
何堡何街庄社  
何 某  
何堡何街庄社  
何 某  
右ハ明治何年何月何日何々ニ依リ官地ニ相成又ハ官地ヲ拂受(候)ニ付此段御届仕候也

○臺灣總督府令第三十號(官報四月二十四日)

臺灣總督府師範學校生徒ニハ食費手當金旅費及治療費ヲ支給シ明治二十九年九月府令第四十號國語學校並國語傳習所給費生支給規則ヲ適用ス但食費手當金ハ第二條ノ支給額ニ依ル

明治三十二年四月九日

○臺灣總督府令第三十一號(官報四月二十四日)

臺灣總督府師範學校規則左ノ通相定ム

臺灣總督府兒玉源太郎

年月日

右業主  
何堡何街庄社何番戶  
何 某印

第五號樣式

住所姓名變更屆  
何堡何街庄社土名何々  
何番 何則  
一地目甲敷  
元住所何堡何街庄社何番戶何  
變更住所何堡何街庄社何番戶何  
右業主  
何堡何街庄社長 何 某印  
臨時臺灣土地調查局長宛

右ハ明治何年何月何日變更候ニ付此段御届仕候也

何堡何街庄社長 何 某印

臨時臺灣土地調查局長宛

臺灣總督府師範學校規則

第一章 本旨

第一條 師範學校ハ本島人ニシテ國語傳習所公學校及書房義塾ノ教員トナルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 師範學校附屬學校ハ師範學校生徒實地教授練習ノ用ニ供スルモノトス但地方長官ハ總督ノ許可ヲ經テ師範學校所在地ノ公學校ヲ以テ附屬學校ニ代用スルコトヲ得

第二章 編制等

第三條 師範學校ノ教科目ハ修身國語作文讀書算術簿記地理歷史理科習字唱歌體操及教授法トス

第四條 師範學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第五條 師範學校生徒ノ年齡ハ十八歲以上二十五歲以下トス

第六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ分テ三學期トス

四月一日ヨリ七月十日マテヲ第一學期トシ九月一日ヨリ十二月二十八日マテヲ第二學期トシ一月四日ヨリ三月三十一日マテヲ第三學期トス

第七條 教授日數ハ一學年凡四十週一週二十四時一日六時トシ土曜日ハ四時トス但夏期休業前六週間及夏期休業後四週間ハ每週教授時間ヲ十時以內減スルコトヲ得

第八條 年中休業日ハ左ノ如シ

一 白曜日

一 祝祭日

一學年末 三月二十九日ヨリ 同月三十一日ニ至ル

一夏期 七月三十一日ヨリ 八月三十一日ニ至ル

一年末年始 十二月二十九日ヨリ 一月三日ニ至ル

第九條 學級ノ編制ハ全生徒ヲ數學級ニ分チ一學級ノ生徒數ハ凡二十五人以上三十五人以下タルヘシ

第十條 附屬學校ニ關スル規程ハ臺灣公學校規則ニ準據スヘシ

第三章 教授ノ要旨及教科ノ程度等

第十一條 師範學校教授ノ要旨左ノ如シ

- 一 師範學校ハ本島人ニシテ教員トナルヘキ者ヲ養成スル所ナルカ故ニ其教育ハ躬行實踐ヲ旨トシテニ 皇室ヲ尊ヒ本國ヲ愛シ人倫ヲ重シメ本國的精神ヲ涵養センコトヲ要ス
- 一 德教ハ教育ノ主腦ナレハ實學ヲ授ケ體育ヲ施スノ際ト雖常ニ之ニ留意センコトヲ要ス
- 一 實學ヲ授ケ知識ヲ廣メ材能ヲ長セシムルハ人ヲシテ專ラ其本分ヲ盡スニ適當ナラシムルニ在リ故ニ宜ク生徒ヲシテ此旨ヲ體認セシムヘシ
- 一 體育ニ於テハ主トシテ衛生上ニ留意シ校舍及身體衣服等ヲ清潔ニシ採光通風ヲ適當ナラシメ殊ニ阿片ノ害毒タルコトヲ知悉セシメントヲ要ス
- 一 規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正クセンコトヲ要ス
- 一 生徒ヲシテ鄙吝ノ心志陋劣ノ思想ヲ去リテ快活ノ氣象ヲ備ヘシメ常ニ責任ヲ重シテ社會ノ公益ヲ廣ムルコトニ務メシムヘシ

一 生徒ヲシテ品行ヲ尙クシ學識ヲ廣メシムルノ外教授及管理ノ方法ヲ考究セシメ以テ教育上ノ經驗ヲ積マシムルコトヲ務ムヘシ

一 生徒ヲシテ常ニ世態人情ヲ審ニシ通義公道ヲ辨シ且事ヲ處スルノ方法ヲ務メ理スルノ順序等ヲ暗練セシムヘシ

一 各學科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ諷ルコトナク互ニ相連絡シテ補益センコトヲ務メ且常ニ國語ノ練習ニ留意センコトヲ要ス

第十二條 師範學校ノ生徒ニ課スヘキ教科ノ程度ハ左ノ如シ

一 修身

教育ニ關スル 勅語ノ旨趣ニ基キテ人倫道德ノ要領ヲ授ケ兼テ普通ノ禮法及本島人ノ心得ヘキ重要ナル諸制度ヲ授ク

修身ヲ授クルニハ教員躬親ラ生徒ノ模範トナリ以テ躬行ノ實踐ヲ舉ケンコトヲ要ス

二 國語作文

國語ハ日常普通ノ會話並文法及其應用ヲ授ケ作文ハ日用文書翰文及公用文ヲ授ク

國語ヲ授クルニハ本國現行ノ言語ヲ用非テ自己ノ思想ヲ明瞭ニ言明シ且他人ノ言語ヲ正確ニ解釋スルコトニ熟セシムルヲ旨トシ常ニ土語ト對照シテ其意義ヲ會得シ兼テ言語ヲ書取ルコトヲ得セシメントヲ要ス

作文ハ主トシテ日常必須ノ事項ニ就キ簡易著實ニシテ公私ノ用ニ適應スヘキ文章ヲ作ラシメ同時ニ土文ニ對照シテ彼我文章ノ典則ニ通セシメントヲ要ス

三 讀書



文部省編纂小學讀本、大日本史略、論語、詩經、書經ノ講讀ヲ授ク

讀書ヲ授クルニハ常ニ發音及句讀ニ注意シ時トシテハ之ヲ土語ニ譯述セシメテ語句文章ノ解否ヲ檢シ能ク全體ノ意義ヲ了解セシメンコトヲ要ス

四 算術、簿記

算術ハ珠算ハ加減乗除ノ練習ヲ授ケ算ハ整數ノ加減乗除通常ノ分數小數及諸比例ヲ授ケ簿記ハ單式複式ノ方法ニ依リ簿記ノ大要ヲ授ク

算術ヲ授クルニハ成ルヘク實地應用問題ヲ課シ兼テ暗算及速算ニ習熟セシメ且精密ノ思想ヲ養成センコトヲ要ス

五 地理、歷史

簿記ヲ授クルニハ官用及商用ノ二様ニ熟達セシメンコトヲ要ス

地理ハ本島地理本國地理ノ大要及外國地理ノ大要ヲ授ケ歷史ハ本島歷史及本國歷史ノ大要ヲ授ク

他ヲ略ニスヘシ

凡地理ヲ授クルニハ常ニ地圖ニ就キテ之ヲ講究センコトヲ要ス

歷史ヲ授クルニハ務メテ事實ノ關係ニ注意シ文化ノ由來スル所ヲ辨セシメ殊ニ我國體ヲ明ニシテ

六 理科

尊皇愛國ノ志氣ヲ振起セシメ以テ國民タルノ志操ヲ養成センコトヲ要ス

通常ノ天然物、自然ノ現象、物理化學上ノ諸現象及通常諸器械ノ構造作用並生理衛生ノ大要ヲ授ク

七 習字

理科ヲ授クルニハ成ルヘク平生目擊スル所ノ近易ノ實物現象等ニ就キ正確ナル知識ヲ得セシメ以テ日常ノ生活及生業上ノ實用ニ適セシメンコトヲ要ス

八 唱歌

假字楷書行書草書及細字ノ速寫ヲ授ク

習字ヲ授クルニハ姿勢及執筆ノ法ヲ教ヘ次ニ筆ノ運用字ノ結構ヲ知ラシメ字形、端正ニシテ運筆滯滞セサランコトヲ要ス

九 體操

單音唱歌及樂器ノ用法ヲ授ク

唱歌ヲ授クルニハ歌詞及樂譜ハ本國古今ノ名家ノ作ニ係リ雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノヲ撰ヒ以テ徳性ノ涵養ニ資センコトヲ要ス

十 教授法

普通體操及遊戲法ヲ授ク

體操ヲ授クルニハ姿勢ヲ正クシ支體ノ成長ヲ均齊ニシ常ニ健康ナル身體ト快活ナル精神トヲ保チ能ク規律ヲ守ルノ習慣ヲ得セシメンコトヲ要ス

教授管理ノ大要ヲ授ク

教授法ヲ授クルニハ理論ニ偏シ高遠ニ馳セス實地ニ適應セシメ且公學校等ニ於ケル教育ノ

旨趣及方法ヲ理會セシメ教育者タルノ精神ヲ養ハントヲ要ス  
 第二學年ニ於テハ前半年ニハ各學科ノ教授ヲナシ後半ニハ專ラ實地ニ就キテ授業ノ練習ヲサシムルモノトス但學校ノ都合ニヨリ一學級ノ生徒ヲ切半シ前半年又ハ後半年ニ纏メテ之ヲ課セシムルコトヲ得  
 第十三條 師範學校ノ教科課程表左ノ如シ

臺灣總督府師範學校教科課程表

學科	第一學年			第二學年			第三學年		
	授時數	每週數	授時數	每週數	授時數	每週數	授時數	每週數	
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	
國語	八	八	八	八	八	八	八	八	
作文	八	八	八	八	八	八	八	八	
算術	五	四	四	四	四	四	四	四	
地理	二	二	二	二	二	二	二	二	
歷史	二	二	二	二	二	二	二	二	
理科	三	三	三	三	三	三	三	三	
習字	二	二	二	二	二	二	二	二	

唱	歌	二	單音唱歌
體操	五	普通體操及遊戲	
教授法	三	同上及樂器用法	
計	三四	三四	

備考 第三學年ニ於テハ前半年ニハ各學科目ノ教授ヲナシ後半ニハ專ラ實地ニ就キテ授業ノ練習ヲナサシムルモノトス

第十四條 學校長ハ本則ニ定ムル所ノ教授ノ要旨及程度ニ基キ一學年中ニ授クル所ノ教授細目ヲ製スルモノトス

第四章 入退學及服務等

第十五條 生徒ノ募集ハ學年ノ末ニ於テシ入學ハ學年ノ始メトス  
 第十六條 入學生徒ノ資格ハ漢文ニ通曉シ且官立學校若ハ公學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル本島人ニシテ在學中家事ニ係累ナク卒業ノ日ヨリ十箇年間教職ニ從事スル誓約ヲナシ得ルモノタルヘシ但當分ノ内官立學校及公學校ノ第二學年ノ學科ヲ修了シ若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得  
 第十七條 官立學校及公學校卒業生ノ外ハ入學試驗ヲ施行ス  
 第十八條 入學生徒ハ初メ二箇月間ハ試驗生トシテ假入學ヲ許シ其資性品行等ヲ査定シ適任ト認メタル者ニ限リ本入學ヲ許スヘシ  
 第十九條 生徒ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年間ハ知事廳長ヨリ指定ノ學校ニ服務スルノ義務ヲ有スルモノトス

第二十條 生徒ハ自己ノ便宜ニ依リ退學スルコトヲ得ス

第二十一條 在學中疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘスト認ムル者若ハ成業ノ見込ナキ者又ハ生徒タル本分ニ背反シタル行爲アル者ハ退學ヲ命ス

第二十二條 怠惰不品行ニシテ退學ヲ命シタル者ハ在學中給與シタル學資金ノ全部若ハ幾部ヲ辨償セシムヘシ

第二十三條 生徒入學ノ節ハ左式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

入學願

某儀教員志願ニ付御校へ入學仕度尤モ某ノ身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受可申候間御許可被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

住所職業

戶主或ハ何男兄弟等

志願人

何

某印

住所職業

保證人

何

某印

住所職業

保證人

何

某印

何縣(廳)何街庄社長

何

某印

學校長宛

右ノ通相送無之候也

年月日

履歷書

住所職業

何

某

生年月

學業

一何年何月何學校卒業又ハ何年何月ヨリ何學校へ入學若ハ何某ニ就キ何々修業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所ニ於テ何々ニ従事ス

右ノ通相送無之候也

年月日

右

何

某印

第二十四條 本入學ヲ許サレタルトキハ左ノ誓約書ヲ學校長ニ差出スヘシ

誓約書

某儀令般入學御差許相成候處御校御規則等堅ク遵守可仕ハ勿論某ノ身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受可申萬一不都合等ノ所爲有之退學ヲ命セララルルカ若ハ卒業後其務ニ服シ難キ場合ニ於テハ在學中給與セラレタル學資金ハ御命令ニ従ヒ還納可仕候依テ誓約書如斯候也

年月日

住所職業

戶主或ハ何某何男兄弟等

住所職業

何

某印

住所職業

何

某印

保證人

何

某印

學校長宛

第五章 試驗

第二十五條 試験ハ生徒學業ノ進否及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ其卒業ヲ認定

スルヲ目的トス

- 第二十六條 試驗ヲ分テ臨時試驗及學年試驗ノ二種トス臨時試驗ハ一學期中二回以上之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年ノ終ニ之ヲ行フ但第三學期ニ施行スル臨時試驗ハ一回以上トス
- 第二十七條 各學科目ノ定點ハ一百點トス
- 第二十八條 試驗ノ成績ハ各學科目五十點以上ヲ得之ヲ合計通約シテ六十點以上ヲ得タルモノヲ及第トス但修身ハ平素ノ行狀ヲ參酌シ實地授業唱歌及體操ハ日課點ヲ以テ評點ヲ定ム
- 第二十九條 各學期ノ成績ハ其學期間ニ於テ施行シタル臨時試驗ノ通約點數ヲ合計通約シ學年ノ成績ハ三學期ノ通約點數ト其學年試驗ノ點數ト合計通約シタルモノヲ以テ之ヲ表ス
- 第三十條 第一第二學年ノ成績ニシテ及第シタル者ニハ第一號ノ證書ヲ與ヘ第三學年ノ成績ニシテ及第シタル者ニハ第二號ノ證書ヲ與フルモノトス

第一號 證書式

修業證書	
住所職業	何 某
生年月	某 年 月 日
右ハ本校第何學年ノ課程ヲ修業ス	
年 月 日	
番號	學校名

第二號 證書式

割印	印校	卒業證書
住所職業		
何 某		
生年月		
右ハ本校所定ノ課程ヲ履修シ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス		
年 月 日		
番號	學校長位勳何某印	

第六章 寄宿舎

- 第三十一條 師範學校ノ生徒ハ一定ノ寄宿舎ニ常住セシムヘシ但設備ノ都合ニヨリ當分ノ内通學セシムルモ妨ナシ
- 第三十二條 寄宿舎ハ可成自習室寢室ヲ區別スヘシ但唱歌體操ハ自習室ニ於テ自習スルコトヲ得ス
- 第三十三條 諸規則命令ヲ執行スルニ便ナラシカ爲各學級ニ級長ヲ置クコトヲ得
- 級長ハ舍監ノ推薦ニ依リ學校長之ヲ命ス
- 第三十四條 指定ノ場所外ニ於テ飲食喫煙スルヲ許サス又校外ヨリ私ニ飲食物ヲ入ルルヲ禁ス
- 第三十五條 生徒ハ常ニ身體ヲ清潔ニシ服裝ヲ正ラシ舍内ハ殊ニ清淨ニスヘシ

第二十六條 始業終業晨起就寢等總テノ相圖ハ擊柝若ハ點鐘ヲ以テ之ヲ報ス

第七章 貸與

第二十七條 生徒在學中必要ノ圖書及器具器械ハ渾テ之ヲ貸與ス

第二十八條 休業若ハ疾病等ニ依リ寄宿舎ニ在ラサル間ハ貸與品ヲ返納セシムヘシ

第二十九條 貸與品ヲ破損シ若ハ紛失シタルトキハ本人ヨリ之ヲ辨償セシムルモノトス

第八章 補則

第四十條 此規則施行ニ關スル細則ハ知事廳長之ヲ定メ臺灣總督ニ報告スヘシ

○臺灣總督府令第三十二號(官報 五月八日)  
臺灣食鹽專賣規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年四月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣食鹽專賣規則施行細則

第一條 食鹽ヲ製造セントスル者ハ第一號書式ニ依リ一箇年中ノ製造見込高届書ヲ作り前年十二月中ニ之ヲ所管鹽務局ニ差出スヘシ

鹽務局ハ其管内製造業者ノ届書ヲ取纏メ調査ノ上意見ヲ付シ毎年一月十日マテニ進達スヘシ

第二條 製造シタル食鹽ハ充分乾燥セシメタル上第二號書式ニ依リ請求書ヲ作り現品ト共ニ之ヲ所管鹽務局ニ納付スヘシ

第三條 食鹽ヲ輸入シタル者ハ第二號書式ニ依リ請求書ヲ作り現品ト共ニ之ヲ所管鹽務局ニ納付スヘシ

第四條 鹽田及食鹽貯藏所其他食鹽所在ノ場所等ヲ検査セシムル當該官吏或吏員ニハ左式ノ證票ヲ携帯セシムヘシ

三寸五分

第 號

官職氏名

検査員之證

二寸五分

某鹽務局

裏面ニハ下付ノ年月日ヲ記ス

第五條 第二條ノ届出ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

明治三十二年五月 臺灣總督府令 第三十二號 臺灣食鹽製造見込高規則施行細則

第一號書式(用紙半紙)

食鹽製造見込高届

一食鹽何斤

内 詳

明治何年中製造見込高

何 斤	一 月 中	二 月 中	三 月 中	四 月 中	五 月 中	六 月 中	七 月 中	八 月 中	九 月 中	十 月 中	十 一 月 中	十 二 月 中

右ハ明治何年中ノ食鹽製造見込高ニ候此段御届致候也

年 月 日

臺灣總督宛

第二號書式(用紙半紙)

食鹽納付賠償金請求書

左記ノ食鹽御下流相成度候也

年 月 日

現金前渡官宛宛

一食何程

明治何年 月 日 納付食鹽ニ對スル分

住 所 氏 名 印

住 所 氏 名 印

前書ノ金員正ニ領收候也

年 月 日

右 氏 名 印

○臺灣總督府令第三十三號(官報五月八日)  
 明治三十二年四月府令第二十五號臺灣鹽務局名稱位置並其管轄區域左ノ通改正ス

明治三十二年四月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

位 區	名 稱	管 轄 區 域
臺北縣基隆	基隆鹽務局	基隆、水返脚、頂雙溪、宜蘭、羅東辦務署管内
臺北縣滬尾	淡水鹽務局	臺北、三角湧、景尾、桃仔園、滬尾辦務署管内
臺北縣新竹	新竹鹽務局	新竹、新竹辦務署管内
臺中縣後壠	後壠鹽務局	苗栗辦務署管内
臺中縣鹿港	鹿港鹽務局	鹿港、梧棲港、彰化、北斗、員林、臺中、南投、大甲、埔里社辦務署管内
臺南縣布袋嘴	布袋嘴鹽務局	樸仔脚、北港、嘉義、打猫、斗六辦務署管内
臺南縣北門嶼	北門嶼鹽務局	鹽水港、麻荳店仔口辦務署管内
臺南縣臺南	臺南鹽務局	臺南、大穆降、善化、阿公店辦務署管内並澎湖島廳管内一圓
臺南縣打狗	打狗鹽務局	鳳山、潮州庄、東港、阿猴、恆春辦務署管内並臺東廳管内一圓

明治三十二年五月 臺灣總督府令 第三十三號

○臺灣總督府令第三十四號(官報五月八日)

明治三十二年律令第七號臺灣食鹽專賣規則ハ明治三十二年五月十五日ヨリ施行ス

臺灣總督府令第三十五號(官報五月八日) 臺灣總督府令第三十六號(官報五月十六日)

○臺灣總督府令第三十五號(官報五月八日) 臺灣總督府令第三十六號(官報五月十六日) 臺灣總督府令第三十七號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第三十八號(官報五月二十七日)

臺灣總督府令第三十九號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十一號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十二號(官報五月二十七日)

臺灣總督府令第四十三號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十四號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十五號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十六號(官報五月二十七日)

○臺灣總督府令第三十六號(官報五月十六日) 臺灣總督府令第三十七號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第三十八號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第三十九號(官報五月二十七日)

臺灣總督府令第四十號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十一號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十二號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十三號(官報五月二十七日)

臺灣總督府令第四十四號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十五號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十六號(官報五月二十七日) 臺灣總督府令第四十七號(官報五月二十七日)

第一條 辨務署長獸疫發生ノ届出ヲ受ケ若ハ其發生ヲ知得シ又ハ獸疫侵入ノ虞アリト認ムルトキハ直ニ警察官又ハ警察獸醫ヲ派シ相當ノ手當ヲ施サシメ同時ニ地方長官ニ報告シ且部内ニ公示ス

第二條 地方長官前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ管内ニ告示シ臺灣總督及鄰接地方長官並航路ノ關係アル地方長官ニ報告ス

第三條 前條ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ其都度管内ニ告示ス

第四條 地方長官ハ所屬官吏吏員及獸醫ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第五條 臺灣獸疫豫防規則第三條ニ依リ獸類ノ鎖飼ヲ要スルトキハ一定ノ場所ニ繫キ其逸出ヲ防キ隔離ヲ要スルトキハ病獸ヲ在來ノ場所ニ留置シ健獸ヲ安全ノ場所ニ移シ相互ノ交通ヲ絶チ病毒ノ傳播ヲ防ク

第六條 獸疫ニ罹リ若ハ其疑アル獸類ヲ鎖飼シ又ハ隔離シタル場所ニハ警察官警察獸醫又ハ檢疫委員ノ許可ヲ得タル者ノ外出入ヲ許サス

第七條 地方長官ハ警察官警察獸醫又ハ檢疫委員ヲシテ獸疫ニ罹リ若ハ其疑アル獸類ノ鎖飼若ハ隔離ヲ嚴重ニ監督セシム

第八條 地方長官ハ臺灣獸疫豫防規則第十條ニ依リ警察官警察獸醫又ハ檢疫委員ヲシテ健獸ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第九條 地方長官ハ獸疫流行中屠獸場及獸類市場又ハ獸類化製業ヲ嚴重ニ監督ス

第十條 地方長官ハ外國又ハ其他ノ地方ヨリ獸疫侵入ノ虞アリト認ムルトキハ必要ノ港口ニ檢疫委員ヲ派遣シ輸入獸類ノ檢疫ヲ行フ

第十一條 檢疫委員ハ獸類又ハ獸肉獸皮ヲ搭載セル船舶ノ入港シタルトキハ直ニ臨檢シテ檢疫ヲ行ヒ併テ所有者又ハ管理人ノ住所氏名船籍船名船長ノ氏名及搭載獸ノ種類頭數獸肉獸皮ノ種類數量搭載地名出船月日及寄港地名等ヲ調査ス

第十二條 檢疫委員船舶ニ臨檢ノ際獸疫ニ罹リ若ハ其疑アリト認ムルトキハ直ニ獸類ヲ發見シタルトキハ直ニ船舶ヲ停船場ニ移シ搭載獸ノ全部又ハ傳染ヲ防クニ必要ト認ムル一部ノ陸揚ヲ命シ健獸ト病







明治二十九年九月府令第四十號臺灣總督府國語學校並臺灣總督府國語傳習所給費生支給規則中左ノ  
通改正ス

明治三十三年五月十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第十三條

此規則施行ニ關スル細則ハ知事廳長若ハ國語學校長之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘ

(參照)

臺灣總督府令第四十號臺灣總督府國語學校及臺灣總督府國語傳習所給費生支給規則(明治二十九年九月十三日府令)抄錄  
第十三條 本則施行ニ關スル細則ハ國語學校長若ハ國語傳習所長之ヲ定メ民政局長ノ認可ヲ受クヘシ

○臺灣總督府令第三十九號(官報 六月一日)  
明治三十一年七月府令第六十二號臺灣地方稅徵收規則第一條別記書式左ノ通改正ス  
明治三十三年五月十八日 臺灣總督男爵兒玉源太郎  
(別記書式甲)

用紙適宜(縦四寸五分ノモノ二枚綴綴)

徵稅告知書

第何號	臺灣地方稅	納人住所氏名
款	項	目
一金何程		何期分又ハ何月分
右明治何年何月何日限當署ニ納付スヘシ		
何事務署長 官 氏名 印		

領收證書

第何號	臺灣地方稅	納人住所氏名
款	項	目
一金何程		何期分又ハ何月分
右領收候也		
何事務署長 官 氏名 印		

凡例  
一 辨務署ニ地方税金取扱所員ヲ出頭セシメ現金ノ領收ヲナサシメタルトキハ徵稅告知書及領收證金額ノ下ニ取扱員ノ捺印ヲ捺捺セシメ該檢印ヲ認メタル上書式ノ通記入捺印ノ上徵稅告知書ハ切離シテ留置領收證ハ納人ニ交付スヘシ  
(別記書式乙)

用紙適宜 横四寸三分ノモノニ枚綴綴

年月日領收

徵稅告知書

第 何 號	臺灣何年度	納 人	住 所	氏 名
款	項	目	何期分又ハ何月分	
一金 何 程				
右明治何年何月何日限某地方税金取扱所ニ納付スヘシ				
何辨務署長				
明治何年何月何日				
某地方税金取扱所印				
官 氏 名 印				

領收證書

第 何 號	臺灣何年度	納 人	住 所	氏 名
款	項	目	何期分又ハ何月分	
一金 何 程				
右領收候也				
明治何年何月何日				
某地方税金取扱所印				

凡例  
一 地方税金取扱所所在ノ辨務署長ニ於テ納人ヲシテ地方税金取扱所へ直接ニ納付セシムルヲ便宜トスルトキハ本書式ニ依リ徵稅告知書ヲ發付スルモノトス但領收證用紙ノ科目金額等ハ辨務署ニ於テ記入スルモノトス  
二 徵稅告知書ニ現金ヲ添ヘ納金セシトキハ地方税金取扱所ハ書式ノ通領收ノ年月日取扱所名ヲ記入捺印シ徵稅告知書ハ切離シテ留置キ領收證ハ納人へ交付スルモノトス

○臺灣總督府令第四十號 (官報 六月一日)

明治三十二年二月府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ニ左ノ一號ヲ追加ス  
臺灣總督府男爵兒玉源太郎  
明治三十二年五月二十日

一文官試驗手数料

○臺灣總督府令第四十一號 (官報 六月一日)

明治三十二年律令第四號臺灣獸疫豫防規則ハ明治三十二年六月一日ヨリ本島一般ニ之ヲ施行ス  
臺灣總督府男爵兒玉源太郎  
明治三十二年五月二十一日

○臺灣總督府令第四十二號 (官報 六月一日)

明治三十一年七月府令第五十六號臺灣總督府地方法院及出張所名稱位置管轄區域表中臺南地方法院嘉義出張所管轄麻豆辨務署管内ヲ臺南地方法院ノ直轄ニ變更ス  
嘉義出張所ニ於テ受理シタル事件ハ本令施行後ニ於テモ仍其管轄ニ屬セシム  
本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス  
臺灣總督府男爵兒玉源太郎  
明治三十二年五月二十一日

○臺灣總督府令第四十三號 (官報 六月十六日)

明治三十一年七月府令第五十四號ニ左ノ一號ヲ追加ス  
臺灣總督府男爵兒玉源太郎  
明治三十二年六月一日

七 明治二十三年法律第一號(有罪破産者處斷方)

〔参照〕

明治三十一年七月二十六日 臺灣總督府令第五十四號(同年律令第八號民事商事及刑事ニ關スル律令第一條ニ定メタル附屬法律ノ件ナリ)

○臺灣總督府令第四十四號(宣報 六月十六日)  
臺灣汽船検査規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十三年六月七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣汽船検査規則施行細則

- 第一條 汽船ノ検査ヲ受ケントスルトキハ其所有者若ハ船長ヨリ第一號書式ノ申請書ヲ臺灣總督府ニ差出スヘシ
- 第二條 汽船ノ検査ヲ執行スヘキ場所ハ基隆、淡水、媽宮、安平及打狗トス
- 第三條 前條所定以外ノ場所ニ於テ汽船ノ検査ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シタル願書ヲ作リ第一號書式ノ申請書ニ之ヲ添付シ所有者若ハ船長ヨリ臺灣總督府ニ差出スヘシ
- 前項ニ依リ検査ヲ受クル者ハ其申請者ヨリ検査官吏ニ支給スヘキ成規ノ旅費日當ヲ臺灣總督府ニ納ムヘシ
- 第四條 航路定限ハ船體、汽機、汽罐ノ堅脆、大小及航路ノ難易等ヲ參酌シテ之ヲ定ム
- 第五條 旅客定員ハ航路ノ遠近、客室ノ等級及積量ヲ參酌シテ之ヲ定ム
- 第六條 汽壓制限ハ汽機、汽罐ノ製造方法並材料ノ良否ニ依リ各部ノ強弱ヲ算定シ且船體ノ堅牢ナルト否トヲ參酌シテ之ヲ定ム

第七條 検査官吏汽船ヲ検査シ航行ニ適當スルモノト認ムルトキハ臺灣總督府ハ第二號書式ノ汽船検査證書ヲ申請者ニ下付ス

第八條 臺灣汽船検査規則第四條ニ依リ假證書下付ノ申請アリタルトキハ検査官吏ハ其船舶ノ航行ニ適當スルモノト認ムル場合ニ於テハ第三號書式ノ假證書ヲ申請者ニ下付ス

第九條 汽船検査證書若ハ假證書ハ船内最見易キ場所ニ之ヲ掲示スヘシ

第十條 旅客室ニ貨物ヲ搭載シタルトキハ其積量ニ對スル旅客員數ヲ減スヘシ

第十一條 船内各室毎ニ等級及定員ヲ記シタル標札ヲ掲クヘシ但十二歳未満ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ算シ三歳以下ハ員外トス

第十二條 検査申請者ハ船體、汽機、汽罐及屬具ノ検査ニ必要ナル準備ヲナスヘシ

第十三條 検査官吏汽船ニ臨檢シタルトキハ検査申請者ハ船籍證書、船鑑札、汽船検査證書、検査手帖等検査ニ必要ナル書類ヲ其檢閱ニ供スヘシ

第十四條 検査官吏汽船ニ臨檢シタルトキハ其所有者若ハ船長其指揮ニ從フヘシ

第十五條 汽船検査證書若ハ假證書ヲ亡失若ハ毀損シタルトキ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ汽船所有者若ハ船長ヨリ其事由ヲ具シ臺灣總督府ニ其再渡若ハ書換ヲ申請スヘシ

汽船検査證書若ハ假證書ヲ受有スル汽船ノ所有權ヲ移轉シタルトキハ新舊所有者ノ連署ヲ以テ又ハ新所有者ヨリ船籍證書、船鑑札若ハ登記ノ謄本其他所有權ノ移轉ヲ證明スヘキ證據書類ヲ添ヘ臺灣總督府ニ該證書ノ書換ヲ申請スヘシ

前二項ニ依リ新證書ヲ受有シタルトキハ舊證書ヲ返納スヘシ



書

右検査ヲ送ケ臺灣汽船検査規則ニ依リ此證書ヲ交付ス  
明治 年 月 日

臺灣總督府

第三號書式(竪九  
横一尺三寸)

假汽船検査證書

船名	船籍港	總噸數	登陸噸數	所 有 者	航 路 限 定	端 艇	旅客定員			船 長
							上等室	中等室	下等室	

右検査ヲ送ケ臺灣汽船検査規則ニ依リ此證書ヲ交付ス但此證書ハ明治 年 月 日限  
リ無効トス  
明治 年 月 日

検査官吏氏名印

(検査官吏二名以上ナルト  
キハ連署スルモノトス)

○臺灣總督府令第四十五號(官報 六月二十三日)  
臺灣監獄則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年六月九日

臺灣總督府 兒玉源太郎

臺灣監獄則施行細則

第一章 規程

- 第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ謂フ
- 第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ室内ニ於テ通身ヲ検査シ名籍簿ニ其要項ヲ詳録シ仍房内揭示ノ事項ヲ説示スヘシ
- 第三條 各監房内ニハ必左記事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシメ在監人ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ但本島人及外國人ニ對シテハ譯文ヲ以テスヘシ
- 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
  - 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ(指置監ニハ此項ヲ除ク)
  - 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及席壁廁間等ヲ掃除スヘシ
  - 一 窓壁若ハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ハ唾ハキシ及貯水ヲ濫用スヘカラス
  - 一 房外ニ出タルトキハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
  - 一 房内ニ在テハ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起歩スヘカラス
  - 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ争ヒ若ハ賭博類似ノ遊戯ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヘカラス
  - 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス

- 一許可ヲ得スシテ物件ヲ受與貸借スヘカラス
- 一監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
- 第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ領置簿ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ
- 領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ
- 第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得
- 第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル
- 第七條 總テ監房ニ入ルル物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ
- 第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ檢査ヲナスヘシ
- 第九條 通身ノ檢査ハ一人宛之ヲナシ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニアラス
- 第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ノ檢身ハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ但女子ノ檢身ニアリテハ場合ニ依リ看守長ノ臨監ヲ省略スルコトヲ得
- 第十一條 典獄及看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ
- 第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ
- 第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニアリテハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

- 第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ
- 第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍本人ニ告知スヘシ
- 第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ問糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキ亦同シ
- 第十七條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證印セシムヘシ
- 第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシメ法院又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス
- 第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ
- 第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ樣嚴緘シ之ニ封印ヲ捺スヘシ
- 第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報スヘシ
- 第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時間以內ニ之ヲナスヘシ
- 假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ辨務署ニ護送スヘシ
- 第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルニハ典獄ニ於テ方式ヲ定メ之ヲ行フ

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ  
已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シコトヲ請フトキハ典獄共事由ヲ取糺シ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲナシタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄共生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ申渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ臺灣總督ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上ケタル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ乙地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

ムヘシ

第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ二人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣著用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニアラス

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニアラス

第三十四條 閤室ハ空氣ヲ通スルノ外毫モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス

閤室ハ一室一人ヲ限トス

第二十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第二十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲其製式ヲ同クスヘシ

第二十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監督スヘシ

第三十九條 看守所ニハ閤室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルルノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限

第四十二條 定役ニ服スヘキ入監者アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメ強弱ヲ分チ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ



第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米、瓦工、煉瓦工、石工、碎石、鍛冶工、油絞工、耕耘、木挽工、抄紙工、木工、桶工、薬工、炊事、掃除ノ内ヲ撰フヘシ  
女囚ノ作業ハ紡績、裁縫、洗濯ノ内ヲ撰フヘシ

前二項ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石、開墾、採礦、土方、石工、耕耘、運搬若ハ監獄ノ用ニ限り獄外ノ役ニ服役セシムルコトヲ得其外役ニ服役セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用井二囚毎ニ聯結シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用井テ其面ヲ掩ハシムヘシ

第四十五條 定役ニ服役スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニアラス

第四十六條 定役ニ服役スヘキ者ハ風雨等ノ爲既定ノ作業ニ就カシメ難キトキト雖他ノ作業ニ就カシメ休業セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキ亦同シ

第四十九條 在監人ノ服役時間ハ左ノ如ク定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

一月	七時間	五月	十時間	九月	九時間
二月	八時間	六月	同	十月	同
三月	同	七月	同	十一月	八時間
四月	九時間	八月	同	十二月	七時間

第五十條 起床、還房、就役、休役、罷役、就寢ノ時限ハ各地方ノ便宜ニ依リ之ヲ定メ臺灣總督ニ申報スヘシ  
前項ノ動止ヲ令スルハ鈴若ハ柝ヲ以テシ全監一齊ナラシムヘシ

第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條 免役日ニ於テ囚人ノ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第四章 給與

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人並刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色トナシ總テ筒袖ニ製シ長短二種ニ分チ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス但本島人及清國人ニアリテハ通常服ニ限リ本島ノ製法ニ準シ上衣及袴ヲ貸與ス  
外國人<sup>清國人ヲ除ク</sup>ニ貸與スル衣類ハ洋服ノ製ニ準ス

第五十五條 在監人ニハ臥具トシテ各自ヘ毛布ヲ貸與ス但二人以上合著セシムルコトヲ得ス



第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ依リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其種類及分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一箇月十回以下ニシテ一回金五錢ヲ過ルコトヲ得ス但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ

- 一 椀 木製
- 一 箸 木又ハ竹製
- 一 匙 木製
- 一 飯器 木製

第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ

- 一 貯水器並飲器 木製
- 一 唾壺 木又ハ竹製
- 一 便器 木又ハ陶製
- 一 小帚 草ノ種類ヲ用井テ製作セシ軟カナルモノ
- 一 洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄内ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ廁圍並便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニナスヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時間以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種質ニ依リ時々熱湯ヲ用井テ之ヲ濯ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年五月ヨリ十月マテハ三日毎ニ一次以上十一月ヨリ四月マテハ五日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人女囚又ハ定役ニ服セサル男囚及本島人清國人ノ鬚又ハ髮ハ不潔ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ溼濯ノ爲其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若在監人中傳染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ狀況ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ辨務署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ衣類物品ノ差入及飲食物ノ購給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若ハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト隔離シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ法院ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其法院ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診案ニ依リ病症及其因由並死亡ノ年月日時ヲ名籍簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ依リ死亡ノ因由及其年月日場所死狀等ヲ名籍簿ニ評記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若ハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物亦同シ

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞送スルコトヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

第八十二條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ニヘシ

第六章 書信接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用井シメ典獄之ヲ封緘遞送スルモノトス但郵便稅ハ自辨トス

第八十四條 官司ノ訊問ニ因テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ之ヲ支辨シ官司ノ訊問ニ由ラサルモ在監人身上ニ關シ發信ヲ要スルニ當リ典獄ニ於テ必要ト認メタルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スルコトアルヘシ

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ不正不長ノ文意アルヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職業及緣由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行前及他監ヘ押送前ニ係ル囚人ニハ時ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルカ又ハ容貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會フヘシ

第八十七條 辯護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限り訊問所ニ於テ之ヲナサシムルコトヲ得

病者トノ接見ハ危篤ノ際ニ限り病室ニ於テ之ヲナサシムルコトヲ得

第八十八條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時マテノ間トス但危篤病者ノ接見ハ此限ニアラス

第七章 差入品

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒煙草及阿片ヲ除キ監獄内ニ於テ炊烹ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條 總テ差入品ハ看守長立會ノ上看守ニ於テ之ヲ檢査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條 検査ノ爲解纏シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第八章 教誨

第九十二條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ但無定

第九十三條 教誨ハ總囚教誨ト個人教誨トニ分チ總囚教誨ハ教誨堂ニ於シ個人教誨ハ被教誨者ノ

第九章 賞與

第九十四條 監獄則ニ依リ賞與セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺葱色ノ布ヲ用井賞與セシ

第九十五條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲナスモノトス

一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二 書信ハ一箇月ニ通二次之ヲナスコトヲ許ス

三 入浴ハ尋常囚人ニ先タタシムルコトアルヘシ

四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍作業ノ勞働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ増

加ス

五 賞表三箇ヲ有スル者ニハ仍將來生計ノ爲作業ノ變換ヲ請ハシムルコトヲ得

六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外菜ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者

ニハ二回其三箇ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回二錢ニ過クルコトヲ得ス

第九十六條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金一圓以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得

但賞表ヲ與フルノ限ニアラス

一 在監人逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ

三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

第九十七條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍當該判官ノ

參考ニ供スヘシ

第十章 懲罰

第九十八條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第九十九條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ但改悛ノ

狀著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第一百條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又

ハ減輕スルコトヲ得

數犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ

第一百一條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スヘシ但

中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百二條 兩脚ニ欵ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施欵期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ欵ハ免除

スルコトヲ得

第一百三條 欵ヲ施シタル者改悛ノ狀最顯著ニシテ其施欵期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ

其欵ヲ免除スルコトヲ得

第一百四條 假ニ欵ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セ

シ日數ハ施欵期限ニ算入スヘカラス

第一百五條 懲罰ニ處シタルモノアルトキハ典獄若ハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

第一百六條 此細則ニ於テ典獄ニ屬セシメタル職務ハ廳監獄署ニアリテハ看守長之ヲ行フ  
○臺灣總督府令第四十六號(官報 六月二十三日)

明治二十九年九月府令第三十三號臺灣鑛業規則施行細則中左ノ通改正ス  
明治三十二年六月十三日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條第八號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ第九號以下順次繰下ツ

九 鑛業許可書再下付願 一件ニ付 金一圓  
第七條第一項中鑛業人ノ下ニ「及鑛業出願人」ノ六字ヲ加ヘ第二項中「民政局」ノ下ニ「又ハ地方廳」ノ五字ヲ加フ

第十六條第二項中「鑛業人若ハ」ノ下ニ「鑛業出願人又ハ」ノ七字ヲ加フ

第十七條ニ左ノ一號ヲ追加ス  
二 第五條ニ依ル命令ニ從ハサルトキ及第七條ニ依リ指定シタル期日内ニ圖面又ハ書類ヲ差出ササルトキ

〔參照〕

臺灣總督府令第三十三號臺灣鑛業規則施行細則(明治二十九年九月二十五日官報)抄錄

第七條 鑛業人ハ民政局又ハ地方廳ヨリ圖面又ハ書類ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日内ニ之ヲ差出スヘシ

鑛業人及鑛業出願人ハ民政局ヨリ實地調査ノ爲立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會フヘシ若事故アリ他人ヲ以テ代理セシムルトキハ委任狀ヲ交付スヘシ

第十六條第二項

鑛業ニ關シ鑛業人若ハ其代理人ニ對シ臺灣總督又ハ地方長官ヨリ發スル書類ノ送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達スヘキ書類ノ全文又ハ要旨ヲ三日間地方新聞ニ掲載ヲ終リタル日ヨリ七日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト見做ス

○臺灣總督府令第四十七號(官報 七月三日)  
社寺教務所說教所建立廢合規則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十二年六月十六日

社寺教務所說教所建立廢合規則

第一條 社寺教務所社會所法務所說教所說教所用スルモノニ使ノ建立移轉改稱廢合ハ此規則ニ依ルヘシ

第二條 神社ハ本殿拜殿ヲ有シ其他祭典ニ必要ナル設備アルヲ要ス

第三條 寺院ハ本堂庫裏ヲ有シ其他法用ニ必要ナル設備アルヲ要ス

第四條 神社又ハ寺院ヲ建立セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 神社ハ社號及祭神

二 寺院ハ寺院號及宗旨

三 建立スヘキ地名

四 建物並境内ノ坪數及圖面

五 境内官地民地ノ區別

五 維持ノ方法

七 分社又ハ末寺ニ係ルトキハ其本社又ハ本寺ノ承認ヲ得タルコト

八 在來ノ廟宇等ヲ社寺ニ充ントスルトキハ其廟宇等ノ建物並境内ノ坪數附屬財產ノ數額及賣

第五條 前條ノ許可ヲ得テ社寺ヲ建立シ遷座又ハ入佛ノ式ヲ了シタルトキハ左ノ諸件ヲ具シ五日

内ニ管轄地方廳ニ届出ツヘシ

一 遷座又ハ入佛ヲ了シタル年月日

二 財産目録

三 氏子又ハ檀家若ハ信徒ノ數

四 受持神官又ハ住職ノ本籍地現住所族稱氏名年齢及宗教上ノ資格

第六條 前條第二號第四號ニ掲ケタル事項ニ異動アリタルトキハ其旨五日內ニ管轄地方廳ニ届出ツヘシ

第七條 社寺ヲ移轉セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 社寺號及所在地名

二 移轉スヘキ地名

三 移轉地ニ造營スヘキ社寺ノ建物並境内ノ坪數及圖面

四 境内官地民地ノ區別

五 第四條第七號第八號ニ掲ケタル事項

六 移轉ヲ要スル理由

第八條 前條ノ許可ヲ得テ社寺ヲ移轉シタルトキハ其遷座又ハ入佛シタル年月日ヲ五日內ニ管轄地方廳ニ届出ツヘシ

第九條 社寺號ヲ改稱セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 社寺號及所在地名

二 改稱スヘキ社寺號

三 改稱ヲ要スル理由

第十條 社寺ヲ廢合セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ臺灣總督ノ許可ヲ請フヘシ

一 社寺號及所在地名

二 建立許可ノ年月日

三 分社又ハ末寺ニ係ルトキハ其本社又ハ本寺ノ承認ヲ得タルコト

四 建物並境内地其他所屬財産ノ處分方法

五 廢合ヲ要スル理由

第十一條 教務所又ハ說教所ヲ建立セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ管轄地方廳ノ認可ヲ請フヘシ

一 教務所又ハ說教所ノ名稱及建立スヘキ地名

二 教派ノ名稱

三 在來ノ廟宇等ヲ教務所又ハ說教所ニ充ントスルトキハ其廟宇等ノ建物並境内ノ坪數所屬財産ノ數額及買賣貸借等ノ關係

四 教務所又ハ說教所ニ從事スヘキ者ノ本籍地現住所族稱氏名年齢及宗教上ノ資格

第十二條 前條第四號ニ掲ケタル事項ニ異動アリタルトキハ其旨五日內ニ管轄地方廳ニ届出ツヘシ

第十三條 教務所又ハ說教所ヲ移轉セントスルトキハ左ノ諸件ヲ具シ管轄地方廳ノ認可ヲ請フヘシ

一 教務所又ハ說教所ノ名稱及所在地名

二 移轉スヘキ地名

三 第十一條第三號ニ掲ケタル事項  
 四 移轉ヲ要スル理由  
 第十四條 教務所又ハ說教所ノ名稱ヲ改メタルトキハ左ノ諸件ヲ具シ管轄地方廳ニ届出ツヘシ  
 一 教務所又ハ說教所ノ新舊名稱及所在地名  
 二 改稱シタル年月日  
 三 改稱シタル理由  
 第十五條 教務所又ハ說教所ヲ廢シタルトキハ左ノ諸件ヲ具シ五日內ニ管轄地方廳ニ届出ツヘシ  
 一 教務所又ハ說教所ノ名稱及所在地名  
 二 建立認可ノ年月日及廢シタル年月日  
 三 廢シタル理由  
 第十六條 第四條乃至第十條ニ依リ差出スヘキ願届書ニハ神社ニ付テハ受持神官又ハ受持神官トナルヘキ者及氏子、信徒又ハ氏子信徒トナルヘキ者ノ總代二名以上寺院ニ付テハ住職又ハ住職トナルヘキ者及檀家信徒又ハ檀家信徒トナルヘキ者ノ總代二名以上連署スヘシ  
 第十七條 此規則ヲ施行スルニ付細則ヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ得テ施行スルコトヲ得  
 附則  
 第十八條 從來ノ建立ニ係ルモノハ此規則施行ノ日ヨリ六十日內ニ第四條第十一條ノ手續ヲナスヘシ  
 第十九條 本島ノ舊慣ニ依リ建立シタル在來ノ社寺廟宇等ニハ此規則ヲ適用セス

○臺灣總督府令第四十八號(官報 七月三日)

臺灣下水規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年六月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣下水規則施行細則

第一條 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ下水ヲ開渠又ハ暗渠ト爲スコトヲ得  
 第二條 下水構造材料ハ石煉瓦、釉藥ヲ施シタル陶管、「セメントコンクリート」「セメントモルター」其他不滲透質ノモノヲ用井横断面ノ底部ハ圓形又ハ卵圓形トシ構造スヘシ  
 汚水溜構造材料ハ前項ニ同シ  
 第三條 開渠ノ下水ニ覆蓋ヲ設ケントスル者ハ地方官廳ノ指揮ヲ受クヘシ  
 第四條 私設下水ヲ新築又ハ改築セントスルトキハ溝渠ノ廣狹淺深勾配位置方向等其構造方法ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ地方官廳ニ願出許可ヲ受クヘシ  
 第五條 私設下水新築改築ノ工事竣成シタルトキハ地方官廳ノ検査ヲ受クヘシ  
 前項ノ検査ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス  
 第六條 地方官廳ハ衛生上有害ナリト認ムル下水アルトキハ期限ヲ定メテ之カ廢止又ハ改築ヲ命スヘシ  
 第七條 臺灣下水規則第十一條ニ依リ臺灣總督ノ裁定ヲ請ハントスル者ハ所轄地方官廳ヲ經由シテ其理由ヲ明記シタル請求書ヲ差出スヘシ

○臺灣總督府令第四十九號(官報 七月三日)

明治三十二年七月 臺灣總督府令 第四十八號 臺灣下水規則施行細則 第四十九號

臺灣樟腦及樟腦油專賣規則同年律令第十六號臺灣樟腦及樟腦油製造規





第 號	領收證
五	一金
持越金應何程代	但百斤ニ付
右正ニ領收候也	金何程
年 月 日	住所
	氏 名 印
	臺灣總督府御中

○臺灣總督府令第五十四號(官報七月十八日)  
臺灣總督府醫學校規則左ノ通相定ム

明治三十二年七月七日

臺灣總督府醫學校規則

- 第一條 臺灣總督府醫學校ハ本島人ニ醫學ヲ授ケ醫師ヲ養成スル所トス
- 第二條 修業年限ハ本科ヲ四箇年トシ豫科ヲ一箇年トス
- 第三條 學級ハ本科ヲ四學級トシ豫科ヲ一學級トス
- 第四條 學年ハ四月十五日ニ始リ翌年四月十四日ニ終ル之ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月十五日ヨリ七月十日ニ至ルマテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月二十八日ニ至ルマテトシ第三學期ハ一月四日ヨリ四月十四日ニ至ルマテトス
- 第五條 教授日數ハ一學年凡四十週教授時數ハ每週三十六時トス但夏期休業ノ前後各五週間ハ每週教授時數ヲ十時以內減スルコトヲ得

第六條 休業日ハ左ノ如シ

- 一日曜日
- 一祝日大祭日
- 一夏期 七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
- 一一年末年始 十二月二十九日ヨリ翌年一月三日ニ至ル
- 一臨時休業

第七條 本科ノ教科目左ノ如シ

- 一解剖學及實習
- 一生理學及實習
- 一醫用動物學
- 一醫用植物學
- 一皮膚病學
- 一處方學
- 一外科學總論
- 一病理解剖學
- 一病理解剖學
- 一外科各論
- 一產科學
- 一外科手術學
- 一婦人病學
- 一外科學臨床實習
- 一衛生學
- 一內科學臨床實習
- 一醫學歷史
- 一外國語
- 一法醫學
- 一衛生制度
- 一體操
- 一物理學及實驗
- 一胎生學
- 一調劑術實習
- 一診斷學
- 一梅毒學
- 一內科學臨床實習
- 一化學及實驗
- 一組織學
- 一病理學總論
- 一細菌學
- 一編帶學
- 一小兒病學
- 一眼科學及實習
- 一精神病學

第八條 豫科ノ教科目左ノ如シ

- 一動物學
- 一植物學
- 一物理學
- 一化學
- 一地理
- 一歷史
- 一倫理
- 一外國語
- 一數學
- 一體操

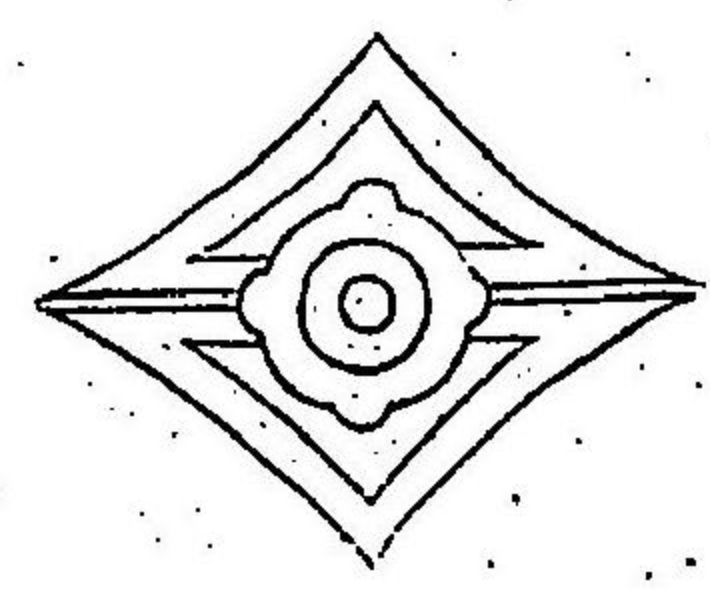


第三條 食費及手當金ハ生徒一人ニ付一日食費金二十錢手當金五錢ヲ支給ス  
 生徒ニ六里以外ノ地ニ修學ヲ命シタルトキハ一人ニ付一日金二圓五十錢以下ノ特別手當ヲ支給ス  
 第四條 夏期休業中寄宿舎ニ居住セサル者ニハ食費及手當金ヲ支給セス  
 第五條 疾病ノ外正當ノ事由ナクシテ闕席シタル者ニハ當日ノ食費及手當金ヲ支給セス  
 第六條 寄宿生徒ノ疾病治療費ハ官給トス但自己ノ便宜上寄宿舎以外ニ於テ療養スルトキハ自辨  
 タルヘシ  
 第七條 寄宿生徒ニシテ疾病ニ罹リ自己ノ便宜上寄宿舎以外ニ於テ療養スルトキハ其間食費及手  
 當金ヲ支給セス  
 第八條 食費及手當金ハ毎月分ヲ翌月三日ニ支給ス若休業日ニ當ルトキハ繰下ケトス  
 第九條 疾病ノ外不都合ノ所爲アリテ退學ヲ命シ若ハ自己ノ都合ニ依リ退學シタルトキハ在學中  
 支給シタル食費及手當金ノ全部ヲ本人又ハ保證人ヨリ一時ニ完納セシム  
 附則  
 第十條 此規則施行ノ際給費生ヲ命シタル生徒ニ限り特ニ二十五圓以下ノ學資ヲ一時支給スルコ  
 トヲ得  
 ○臺灣總督府令第五十六號(官報七月二十五日)  
 臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行細則左ノ通相定ム  
 明治三十二年七月八日 臺灣總督府 兒玉源太郎  
 臺灣樟腦及樟腦油專賣規則施行細則  
 第一條 樟腦及樟腦油ノ製造者ハ第一號書式ニ依リ翌年ノ製造見込高ヲ十二月二十五日限り所轄

樟腦局へ届出ツヘシ但本則施行ノ初年ハ八月三十一日限り届出ツヘシ  
 天災其他ノ事由ニ依リ前項ノ届出高ニ異動ヲ生スルトキハ第二號書式ニ依リ五日以内ニ届出ツ  
 ヘシ

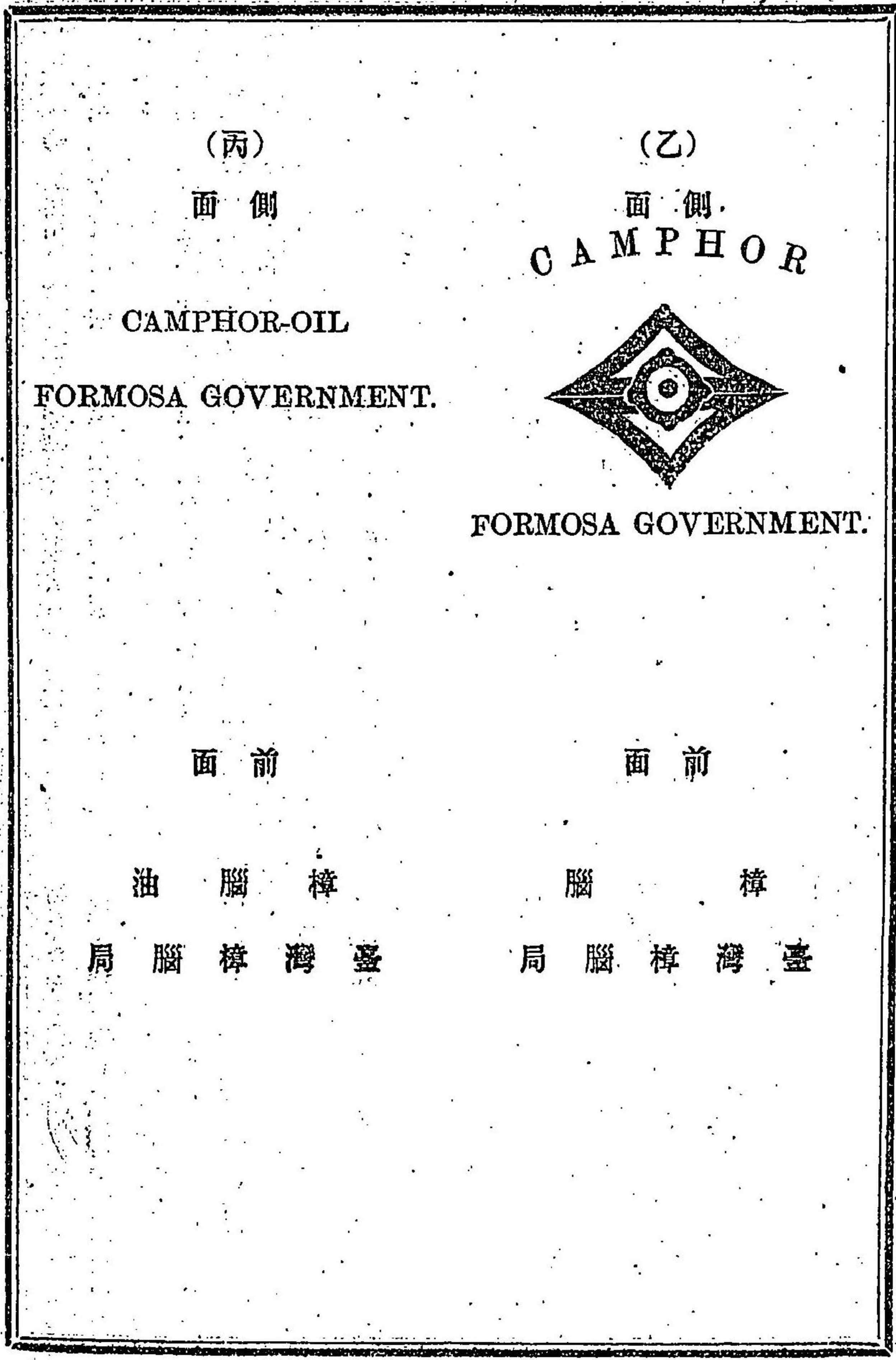
- 第二條 樟腦及樟腦油ノ賠償金額ハ豫メ之ヲ告示ス
- 第三條 樟腦及樟腦油ヲ納付スルトキハ現品ニ第三號書式ノ書面ヲ添へ所轄樟腦局ニ差出スヘシ
- 第四條 樟腦及樟腦油ノ收納ハ毎日午前十時ヨリ午後五時マテトス但公暇日ヲ除ク
- 第五條 賣渡スヘキ樟腦及樟腦油ノ數量定價及場所ハ豫メ之ヲ告示ス
- 第六條 樟腦ハ甲ノ記標ヲ付シ其容器ノ外面ニ乙ノ記標ヲ付シ樟腦油ハ其容器ノ外面ニ丙ノ記標  
 ヲ付シテ賣渡ス

(甲) 面表



面裏





第七條 政府ヨリ買受ケタル樟腦及樟腦油ハ其容器ノ儘ニアラサレハ所有所持讓渡買入若ハ消費シ又ハ本島外ニ搬出スルコトヲ得ス但標本用小賣用ハ此限ニアラス

第八條 臺灣樟腦及樟腦油專賣規則第七條ノ検査官吏ニハ左式ノ證票ヲ携帯セシム

用紙原紙二寸五分

第 號	何 處 局
表 検査官吏之證	裏 官 氏 名
印 局	

第九條 第一條及第七條第二項ノ届出ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下第七條第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一號書式

樟腦及樟腦油製造見込高御届

一 樽 腦 何 斤 明 治 何 年 中 製 造 見 込 高

一 樽 腦 油 同 同

内 譯

一	月 別	樽 數	樽 腦 油 量	産 地	摘 要
月					

計	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月

右及御届候也  
年月日

何樟腦局長宛

住所

氏

名印

第二號書式

樟腦及樟腦油製造見込高異動御届

明治何年中樟腦及樟腦油製造見込高豫テ及御届置候處今般何々(増減ノ理由ヲ記ス)ニ依リ明治何年何月分ヨリ別記(別記ハ第一號書式ニ準ス)ノ通異動ヲ來シ候條此段及御届候也

年月日

住所

氏

名印

何樟腦局長宛

第三號書式

樟腦及樟腦油收納並賠償金下渡請求書

一金何圓

内詳

何所賠償金

何所賠償金

種	類	數	量	單	價	計	金	産	地
樟	腦								
樟	腦								
樟	腦								
計	油								

右納付候條賠償金御下渡相成度候也  
年月日

住所

氏

名印

何樟腦局長宛

○臺灣總督府令第五十七號(官報七月二十五日)

臺灣樟腦及樟腦油製造規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年七月八日

臺灣總督府男爵兒玉源太郎

第一條 樟腦及樟腦油製造ノ特許ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ製腦地ノ圖面及第二號

臺灣總督府令 第五十七號 臺灣樟腦及樟腦油製造規則施行細則

書式ノ設計書ヲ添へ所轄地方官廳ヲ經由シ臺灣總督ニ差出スヘシ  
 製腦用トシテ官林ノ樟木及其他ノ木竹ヲ買受ケントスル者ハ明治二十九年府令第四十四號官有  
 森林原野產物賣渡規則第四條ノ特賣願書ト同時ニ之ヲ差出スヘシ  
 第二條 樟腦及樟腦油製造特許期限ハ滿三年以内トス  
 第三條 樟腦及樟腦油製造人ハ特許ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ其腦灶全數ノ製腦ニ著手スヘ  
 シ  
 第四條 腦灶全數ノ製腦ニ著手シタルトキハ製腦區域、地形、腦灶ノ番號及其位置ヲ明記シタル圖  
 面並腦長、股負、腦丁其他備人ノ名簿ヲ添へ所轄辨務署長ヲ經由シテ地方長官ニ届出ヘシ  
 第五條 樟木ハ幹枝ノ全部製腦ニ供スルモノトス  
 何等ノ名義ヲ以テスルモ樟木ヲ濫伐濫用シ又腦分アル樟木片ヲ放棄シ若ハ他ノ目的ニ供スルコ  
 トヲ得ス  
 第六條 樟腦及樟腦油製造人ハ其權利ヲ他人ニ賣渡讓與又ハ質入スルコトヲ得ス但家督相續ニ依  
 リ承繼スルハ此限ニアラス  
 第七條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ詳記シタル願書ヲ所轄地方官廳ヲ經由シ臺灣總督ニ差出シ許可  
 ヲ受クヘシ  
 一 第三條ニ依リ其期限内ニ製腦ニ著手スルコト能ハサルカ爲延期セントスルトキ但其延期日  
 ハ三十日ヲ超過スルコトヲ得ス  
 二 製腦ノ灶數ヲ増加セントスルトキ  
 三 樟腦及樟腦油製造ノ設計ヲ變更セントスルトキ

第八條 左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄地方官廳ヲ經由シ臺灣總督ニ届  
 出ヘシ  
 一 特許區域内ニ於テ製腦灶ノ位置ヲ變更シ又ハ灶數ヲ減少シタルトキ  
 二 樟腦及樟腦油製造ノ完了又ハ廢業ノトキ  
 三 樟腦及樟腦油製造ノ一部若ハ全部休業ノトキ但一部休業ノトキハ其灶數ヲ記載スヘシ  
 本條第一號ノ場合ハ灶ノ位置ヲ示シタル圖面ヲ添付シ又ハ減少灶數ヲ記載スヘシ  
 第九條 左ノ場合ニ於テハ事實ノ生シタル日ヨリ五日以内ニ所轄辨務署長ヲ經由シテ地方長官ニ  
 届出ツヘシ  
 一 家督相續ノ爲樟腦及樟腦油製造業ヲ承繼セントスルトキ  
 二 住所ヲ移轉シタルトキ  
 三 代理人ヲシテ樟腦及樟腦油製造ニ關スル事件ヲ處辨セシムルトキ  
 四 代理人ヲ解除シタルトキ  
 五 腦長、股負、腦丁其他備人ノ數ニ異動ヲ生シタルトキ  
 第十條 休業一箇月ヲ通シテ十五日以上ニ涉リ製造ヲ繼續スルノ見込ナシト認ムルトキハ休業灶  
 ヲ撤去セシム但天災其他ノ不可抗力ニ依リ又ハ止ラ得サル事由アリト認メタルトキハ相當期間ヲ  
 指定シ之ヲ猶豫スルコトヲ得  
 第十一條 樟腦及樟腦油製造業特許期限中廢業シタルトキハ舊ニ買受タル現存ノ樟木其他ノ木竹  
 ハ第三號書式ノ書面ヲ作り廢業届ト共ニ所轄地方官廳ヲ經由シテ臺灣總督ニ差出スヘシ  
 賠償金額ハ賣渡當時ノ價格以内トス

第十二條 樟腦及樟腦油製造人ハ腦長、股首、腦丁其他備人ニ左式ノ木製鑑札ヲ携帯セシムヘシ

原籍 住所		氏名		年 齡	
縦三寸		分五寸一横		分五寸一横	
裏		特許人 樟腦及樟腦油製造		年 月 日	
氏名		年 月 日		分五寸一横	

第十三條 樟腦及樟腦油製造ニ從事スル腦長、股首、腦丁其他備人ニシテ不正ノ行爲アリト認ムルトキハ解備ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 樟腦及樟腦油製造人ハ毎月ノ製造高、納付高及月末現在高ヲ第四號書式ニ依リ翌月五日マテニ所轄樟腦局ニ届出ツヘシ

第十五條 樟腦及樟腦油製造人ハ其製造シタル樟腦及樟腦油ヲ二十日以内ニ納付スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記シ所轄樟腦局ニ届出ツヘシ

第十六條 第五條ニ違背シタル者ハ二十圓以上二百圓以下第七條第二號第三號又ハ第十四條ニ違背シタル者ハ五十圓以上五十圓以下第四條第八條第九條第十二條第十五條ニ違背シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ増加シタル灶ハ之ヲ撤去セシム

第一號書式

樟腦及樟腦油製造願

- 一場 所 何縣(廳)何里(何庄)何街(何社)何官有(民有)山林
- 此面積 何程
- 一製腦期限 明治何年何月何日マテ

- 一製腦鍋數 何箇
  - 一標立木 何本
  - 此材積 何程
  - 一標伐倒木 何本
  - 此材積 何程
  - 一標根株 何箇
- 右ヲ以テ製腦致度御許可ノ上ハ臺灣樟腦及樟腦油製造規則同施行細則其他製腦ニ關スル諸規程遵守可致別紙圖面及設計書添付此段奉願候也
- 年 月 日

原籍住所

氏名印

第二號書式

臺灣總督宛

樟腦及樟腦油製造設計書(製腦期限翌年以降ニ涉ルトキハ曆年度ニ打切リ設計書ヲ調製スルモノトス)

- 一 製腦期限 明治何年何月何日マテ
- 二 資本金 何程
- 三 備人數(腦長、股首、腦丁其他ヲ云フ)何人、内地人何人、内地人何人
- 四 製腦灶數 何箇
- 何山何字
- 何山何字
- 何箇(一箇ニ付木片何斤入)
- 何箇(一箇ニ付木片何斤入)
- 立木 何本
- 此材積 何程





第四號書式

明治何年何月中製腦高御居

種	類	製	造	高	前	月	繰	越	高	納	付	高	現	在	高
樟	腦	何	程	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
樟	腦	何	程	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
計	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右及御居候也

年 月 日

住所

氏 名 印

樟腦局長宛

○臺灣總督府令第五十八號(官報 七月二十五日)

明治二十九年府令第四十號臺灣總督府國語學校並國語傳習所給費生支給規則第一條中「支給ス」ノ下ニ但國語學校留學生ノ支給ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ムコト二十四字ヲ加フ

明治三十二年七月九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第五十九號(官報 七月二十五日)

本島ノ舊慣ニ依リ社寺廟宇等ヲ建立セントスルトキハ管轄地方長官ノ許可ヲ受クヘシ既設ノ社寺廟宇等ヲ廢止合併若ハ移轉セントスルトキ亦同シ

從來建立ニ係ル社寺廟宇ハ本令發布ノ日ヨリ三箇月内ニ其名稱及所在地名ヲ管轄地方官廳ニ届出ツヘシ

本令施行ニ關シ細則ヲ必要トスルトキハ地方長官之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

明治三十二年七月十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十號(官報 八月二日)

明治三十二年勅令第三百二十四號臺灣總督府法院判官檢察官及書記服制ハ明治三十二年十一月二日ヨリ施行ス

明治三十二年七月十四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十一號(官報 八月二日)

明治三十一年四月府令第二十號中「外國人」ヲ「清國人」ニ改ム

本令ハ改正條約實施ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十一年四月二十九日 臺灣總督府令第二十號ハ船乘業ヲ營ムタメ傭入レタル外國人ヲ各開港市場以外ニ上陸セシメントスルトキハ出願許可ヲ受クルヲ要スル件ナリ

○臺灣總督府令第六十二號(官報 八月二日)

明治三十年五月府令第十七號ハ改正條約實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十年五月十八日 臺灣總督府令第十七號ハ學術工藝ノ傳習其他ノ場合ニ於テ外國人ヲ傭入レ各開港市外國人雜居地區域外ニ寄寓セシメントスル者ハ出願許可ヲ受クルヲ要スル件ナリ

○臺灣總督府令第六十三號(官報 八月二日)

外國人ニ對シ土地賣渡讓與交換ノ場合等ニ關スル規則左ノ通相定ム

明治三十二年七月十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

外國人ニ對シ土地賣渡讓與交換ノ場合等ニ關スル規則

第一條 土地ハ外國人ニ賣渡讓與交換質入スルコトヲ得ス

第二條 外國人ニ土地ヲ書入及貸渡サントスル者ハ豫メ管轄地方官廳ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

外國人カ社員トシテ加入スル商會社ニ土地ヲ讓渡書入若ハ貸渡サントスル者亦前項ニ同シ

第三條 前二條ニ背キタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四條 此規則ハ改正條約實施ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 明治三十年府令第十五號外國人ニ對シ土地建物賣渡讓與交換貸渡質入書入ニ關スル規則

ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○臺灣總督府令第六十四號(官報 八月二日)

明治二十九年五月府令第六號臺灣醫藥業規則中「民政局長」トアルヲ「臺灣總督」ニ「民政局」トアルヲ「臺灣總督府」ニ改ム

明治三十二年七月十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十五號(官報 八月二日)

明治二十九年六月府令第十號臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則中左ノ通改正ス

明治三十二年七月十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條第一項中「藥劑師免狀ヲ有スル者」ノ下ニ「及臺灣總督ヨリ藥劑師免許證ヲ得タル者」トス「ノ」ニ

十字ヲ加ヘ「ニ限ル」ノ二字ヲ刪除ス

第二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第三條ヲ第四條ニ改メ以下各條順次繰下ク

第三條 藥劑師免許證ノ下付ヲ受ケントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ臺灣總督府ニ出願ス

ヘシ

藥劑師免許證ヲ得タル者ハ下付ノ際手数料金三圓ヲ納ムヘシ其書換若ハ再下付ヲ請求スル者ハ

手数料金六十錢ヲ納ムヘシ

〔參照〕

臺灣總督府令第十號臺灣藥劑師藥種商製藥者取締規則(明治二十九年六月十日七月)抄錄

第二條 藥劑師ハ内務大臣ヨリ得タル藥劑師免狀ヲ有スル者ニ限ル

藥劑師開業セントスルハ開業ノ場所ヲ定メ該免狀ヲ添ヘ地方廳ニ届出ヘシ

○臺灣總督府令第六十六號(官報 八月二日)

明治三十二年七月府令第五十四號ニ左ノ一號ヲ追加ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

八 商法施行法

〔參照〕

明治三十二年七月府令第五十四號ハ民事商事及刑事ニ關スル法律令第三條ニ定メタル附屬法律ノ件ナリ

○臺灣總督府令第六十七號(官報 八月二日)

商業登記ニ關スル取扱手續ハ明治三十二年五月司法省令第十三號商業登記取扱手續ニ依ル

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年七月十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十八號(官報八月二日)

法人及夫婦財產契約ニ關スル登記取扱手續ハ明治三十二年五月司法省令第十五號法人及夫婦財產契約登記取扱手續ニ依ル  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第六十九號(官報八月二日)

明治三十二年七月十六日  
明治三十二年律令第十三號外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル律令ハ改正條約實施ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十號(官報八月二日)

明治三十一年一月府令第三號私立學校設置廢止規則中左ノ通追加ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十二年七月十六日

第五條 從來外國人ノ設立ニ係ル私立學校ハ第二條各項ノ届出ヲナシテ改正條約實施後ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

○臺灣總督府令第七十一號(官報八月二日)

外國人取扱規則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十二年七月十六日

第一條 外國人ヲ宿泊セシムル者ハ二十四時間内ニ左ノ事項ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但氏名

外國人取扱規則

族稱及外國ニ於ケル地名ハ原語ヲ附記スヘシ

一 氏名

二 國籍

三 族稱職業

四 年齡

五 居住所但居住所ヲ有セサル者ハ外國ニ於ケル住所

六 出發地

七 到著年月日時

前項ニ依リ届出タル外國人其家ヲ去リタルトキハ其年月日時及移轉先若ハ旅行先ヲ二十四時間内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但第四條ニ該當スル者ハ同條ノ規定ニ依ル

第一項及第二項ノ届出時間ハ旅店主其他ノ營業ニ依リ外國人ヲ宿泊セシムル者ニ對シテハ縣廳令ヲ以テ之ヲ短縮スルコトヲ得第一項及第二項ノ届出ハ縣廳令ニ規定アル場合ヲ除ク外警察官吏派出所又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二條 外國人ハ其宿泊セル家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ自己並其攜帶セル外國人ニ關シ前條届出ヲ要スル事項ヲ告ゲ又ハ主人若ハ管理人ノ交付セル用紙ニ記載スヘシ

第三條 一戸ヲ構ヘテ居住シ又ハ一戸ヲ構ヘサルモ九十日以上同一街庄社ニ居住スヘキ目的ヲ以テ居住スル外國人ハ自己及其攜帶セル家族ニ關シ居住所居住ノ年月日前居住所、外國ニ於ケル住所及第一條第一項第一號乃至第四號ノ事項並攜帶セル家族ノ續柄ヲ居住ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

前項ニ該當セサルモ九十日以上同一街庄社ニ居住シタル外國人ハ以後十日内ニ前項ノ届出ヲ爲スルシ

外國人一戸ヲ構ヘサル場合ニ於テハ之ヲ寄寓セシメタル者又ハ外國人一戸ヲ構ヘタル場合ニ於テハ家屋所有者若ハ家屋管理人第一項及第二項ノ届書ニ連署スベシ

日本ノ國籍ヲ失ヒ猶引續同一居住所ニ居住スル者ハ本條ノ届出ヲ要セス

第四條 警察官署ハ外國人登録簿ヲ備ヘ置キ第三條第二項第五條及第六條ニ依リ届出ヲ受ケタル事項ヲ登録スヘシ届出ナキトキト雖第八條ニ依リ本條ノ登録ヲ要スル事實ヲ知り得タルトキ亦同シ

第五條 外國人登録簿ニ登録セラレタル外國人移轉スルトキハ左ニ記載シタル者移轉ノ日ヨリ十日内ニ移轉ノ年月日及移轉先ヲ所轄警察官署ニ届出ツベシ但移轉者自ラ届出ヲ爲ストキハ其届出ハ移轉前タルヘシ

一 寄寓ノ外國人移轉シタルトキハ之ヲ寄寓セシメタル者

二 一戸ヲ構ヘタル外國人ノ家族移轉シタルトキハ其外國人

三 一戸ヲ構ヘタル外國人自ラ移轉シ家族猶其戸ニ留ルトキハ首長タルヘキ成年者若首長タルヘキ成年者ナキトキハ成年者中ノ年長者

四 前三號ニ該當セサルトキハ家屋所有者又ハ家屋管理人

第六條 外國人登録簿ニ登録セラレタル外國人自己又ハ家族ノ登録事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ變更ノ日ヨリ十日内ニ所轄警察官署ニ届出ツベシ

第七條 何人ト雖左ノ手数料ヲ納付シテ外國人登録簿ノ閱覽又ハ登録ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ請

求スルコトヲ得

- 一 閱覽料 一回ニ家族ニ付金五錢
- 二 謄本及抄本料 一枚ニ付金十錢

第八條 外國人ハ警察官吏ガ第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項又ハ外國人登録簿ニ登録スルキ事項ニ關シ尋問スルトキハ之ニ答ヘ及其請求アルトキハ携帶セル旅券又ハ其他ノ國籍ヲ證明スヘキ證書ヲ示スベシ

前項ノ規程ハ外國人ノ寄寓セシメタル日本人ニ關シ警察官吏ノ尋問スル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條 臺灣總督ハ左ニ該當スル外國人ニ對シ臺灣ヲ退去スヘキコトヲ命スルコトヲ得

- 一 生計ヲ營ム能ハサル者
  - 二 一定ノ住居ナク諸方ニ徘徊スル者
  - 三 乞丐ヲ爲ス者
  - 四 安寧秩序又ハ風俗ヲ害スト認ムヘキ者
  - 五 退去セシメタル後許可ナクシテ再ヒ臺灣ニ來リタル者
- 退去ノ命令ハ第十條ニ依リ處罰シタル後又ハ第十條ヲ適用セスシテ強制ヲ以テ之ヲ執行スルコトヲ得

第十條 第九條ニ依リ退去ヲ命セラレ指定ノ期限内ニ退去セサル者及退去セシメラレタル後許可ナクシテ再ヒ臺灣ニ來リタル者ハ四月以下ノ重禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 第八條ニ違背シテ警察官吏ノ請求ニ應セス又ハ其尋問ニ答ヘス若ハ答フルニ實ヲ以テ

セサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第一條第一項第二項第三條第一項第二項第五條及第六條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第三條第三項ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 此規則施行ノ際現ニ臺灣ニ居住セル外國人ニ關シ第三條第一項第二項ニ定ムル届出ノ期間ハ此規則施行ノ日ヨリ起算ス

第十五條 此規則施行ノ際現ニ外國人ヲ宿泊セシムル者ハ此規則施行ノ日ニ於テ第一條第一項ノ届出ヲナスヘシ

第十六條 清國勞働者及一定ノ職業ナキ清國人ニ對スル取扱方ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十七條 臺灣總督府令第七十二號(官報八月二日)  
臺灣鹽田規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣總督府令第七十二號(官報八月二日)  
臺灣鹽田規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣鹽田規則施行細則

第一條 鹽田ヲ開設セントスル者ハ起業ノ方法並四至ノ境界ヲ明記セル實測圖ヲ添ヘ官地ニ係ルモノハ第一號書式民地ニ係ルモノハ第二號書式ニ依リ地方官廳ヲ經由シ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 臺灣鹽田規則第四條ノ貸付段別ハ一八ニ付五十町歩以内トシ其成功期限ハ左ノ如シ但天災其他避クヘカラサル事故ニ因リ期限内ニ成效スル能ハサルトキハ延期ヲ許可スルコトアルヘシ

一年以内

二年以内

三年以内

五十町歩以下

臺灣鹽田規則第八條但書ニ依リ前項ノ制限以外ニ貸付シタルモノハ其都度其成功期限ヲ指示ス

第三條 鹽田開設ノ許可ヲ受ケタル者豫定ノ起業方法ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ詳記シ地方官廳ヲ經由シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 鹽田開設ノ許可ヲ受ケ事業ニ著手シタルトキ及成功シタルトキハ十日以内ニ地方官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ届出ツヘシ但事業數年ニ渉ルモノハ前年中ノ功程ヲ毎年一月三十一日限届出ツルモノトス

第五條 既設鹽田及開設中ノモノ破壊シタルトキハ其事由狀況ヲ詳記シ地方官廳ヲ經由シ臺灣總督府ニ届出ツヘシ

第六條 地方官廳ニ於テ第一條第三條第四條第五條ニ掲グル願届書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ付シ進達スヘシ

第七條 事業監督ノ爲官廳ヨリ吏員ヲ派遣セシムルトキハ左式ノ證票ヲ携帯セシムヘシ

第 號	官 氏 名
分五寸二	鹽田検査員之證
	某 官 廳

表面ニハ官廳印ヲ  
押捺ス  
裏面ニハ下付年月  
日ヲ記入ス

三寸五分

第八條 出願人若ハ代理人ノ所在不明ニシテ發送ノ日ヨリ六十日ヲ經過スルモ尙指令達等ヲ下付スル能ハサルトキハ其出願ヲ無効トス

第九條 第一條ニ依リ許可スヘキ區域ハ別ニ之ヲ告示ス

第一號書式 (用紙美濃紙)

鹽田開闢願

何縣(廳)何堡何街(庄)(社)(里)字原地目

一官有鹽田開闢地 何坪内 該地何坪

右ハ臺灣鹽田規則ヲ遵守シ別紙起草方法書ノ通無相違成功可致候間該地無償ニテ御貸下鹽田開闢御許可被成下度此段奉願候也

年月日

原籍  
現住所

氏 名印

臺灣總督宛

第二號書式 (用紙美濃紙)

鹽田開闢願

何縣(廳)何堡何街(庄)(社)(里)字原地目

一鹽田開闢地 何坪内 該地何坪

右ハ臺灣鹽田規則ヲ遵守シ別紙起草方法書ノ通無相違成功可致候間鹽田開闢御許可被成下度此段奉願候也

年月日

原籍  
現住所

氏 名印

臺灣總督宛

○臺灣總督府令第七十三號 (官報 八月二日)

臺灣樟腦局ハ其所管事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

明治三十二年七月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十四號 (官報 八月二日)

清國勞働者取締規則左ノ通相定ム

明治三十二年七月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

清國勞働者取締規則

第一條 此規則ハ勞働ヲ目的トシ臺灣ニ渡航スル清國人ニシテ勞働者請負人ノ雇傭契約ニ依ル者ニ適用ス

第二條 勞働者請負人タルヲ得ル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ得タル者ニ限ル

勞働者請負人ハ別ニ定ムル所ノ保證金ヲ納ムヘシ

第三條 勞働者請負人ハ其請負ニ係ル勞働者ニ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ヲ交付スヘシ

一 氏名郷貫年齢

二 渡航ノ目的

三 勞働者請負人ノ氏名族籍

四 雇傭契約成立ノ年月日及場所

五 臺灣ニ於ケル上陸地點

第四條 前條ノ證明書ヲ所持スル勞働者ハ證明書ニ記載シタル地點ヨリ上陸スルコトヲ得

勞働者臺灣ニ上陸セントスルトキハ當該官吏ニ前條ノ證明書ヲ示シ上陸許可ノ證明ヲ受クヘシ  
上陸許可ノ證明ヲ受クルトキハ手數料金二圓ヲ納付スヘシ

第五條 勞働者請負人ハ其雇傭ニ係ル勞働者ノ病災救濟ノ爲相當ノ備恤規程ヲ設ケ臺灣總督ノ認  
可ヲ受クヘシ

第六條 勞働者備恤規程中ニハ左ノ事項ヲ規定スルヲ要ス

- 一 備恤資金ノ設置方法
- 二 備恤資金保管又利殖ノ方法
- 三 備恤資金支出ノ方法
- 四 備恤資金精算ノ方法

第七條 勞働者請負人ハ速ニ勞働者ノ居所ヲ定メ所轄地方官廳ニ届出ツヘシ其居所ヲ移轉シタル  
トキ所在不明ナルトキ又ハ清國ニ歸還セントスルトキ亦同シ

第八條 勞働者安寧秩序又ハ風俗ヲ害スト認ムルトキハ地方長官ハ請負人ヲシテ之ヲ清國ニ送還  
セシム

第九條 地方長官ハ勞働者請負人ノ業務ノ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ其事務所ニ就キ帳簿及  
金品ヲ検査セシムルコトヲ得

第十條 第三條ニ依レル證明書ヲ所持セサル勞働者ヲ搭載海航シタル船舶ノ船長ハ十圓以上百圓  
以下ノ罰金ニ處シ仍其勞働者ヲ清國ニ送還セシム但別ニ定ムル規定ニ依リ上陸證明書ヲ有スル  
者ニ係ルトキハ此限ニアラス

第十一條 第二條ノ許可ヲ受ケスシテ勞働者請負業ニ從事シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰

金ニ處シ又ハ二十日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第十二條 左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 勞働者第三條ニ依レル證明書及上陸許可ノ證明書ヲ有セスシテ上陸シタルトキ
- 二 請負人第七條ノ届出ヲ怠リタルトキ

第十三條 第八條及第十條ノ場合ニ於テ請負人又ハ船長勞働者送還ノ義務ヲ盡ササルトキハ十圓  
以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 請負人ニシテ勞働者備恤規程ニ違背シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ  
又ハ二十日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第十五條 臺灣總督ハ請負人ノ行爲法令又ハ許可條件ニ違背シ又ハ公安ヲ害スト認ムル場合ニ於  
テ勞働者請負業ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ請負人ハ既ニ渡航セシメタル勞働者ニ對シテ義務ノ履行ヲ免ルルコトヲ得  
ス

第十六條 清國人臺灣上陸條例第七條ハ此規則ニ依レル勞働者ニ適用セス

第十七條 此規則ハ左ニ掲クル標準ニ依リ此規則施行前ニ渡航シタル清國勞働者ニモ適用ス

- 一 第三條ニ依ル證明書ニハ同條第二號及第五號ノ事項ヲ記載スルヲ要ス
- 二 清國人臺灣上陸條例ニ依リ上陸許可證ヲ所持セサル者ハ此規則第四條ニ依リ上陸許可ノ證  
明ヲ受クヘシ

此規則施行後二箇月間ニ前項ノ證明ヲ受ケサル者ハ本島内ニ於テ勞働ニ從事スルコトヲ得ス犯  
ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス此場合ニ於テ地方長官ハ之ニ本島ヲ退去スヘキコトヲ



命スルコトヲ得

附則

第十八條 此規則ハ明治三十二年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第七十五號(官報八月二日)

勞働者取締規則左ノ通相定ム

明治三十二年七月十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

勞働者取締規則

- 第一條 本島人ニシテ勞働ニ従事スル者ノ取締ハ此規則ニ依ル
  - 第二條 勞働者ハ其目的トスル勞働ノ種類ニ依リ勞働者組合ヲ設クヘシ
  - 第三條 組合ノ設立發起人ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ認メ所轄辦務署長ヲ經テ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
    - 一 組合長(又ハ苦力頭以下倣之)ノ住所氏名年齢
    - 二 勞働者ノ住所氏名年齢
    - 三 勞働ノ種類
    - 四 勞働ノ場所但ニ縣廳管轄區域内ニ限ル
    - 五 組合事務所ノ位置
    - 六 勞働賃銀額
    - 七 組合員ヨリ徴收スル加入手数料
- 組合ノ設立後加入シタル勞働者アルトキハ組合長ハ速ニ其住所氏名年齢並加入ノ年月日ヲ所轄

辦務署長ヲ經テ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 組合ニ加入シタル勞働者ハ其組合長ニ由リ所轄辦務署長ニ願出テ勞働者免許鑑札ヲ受クヘシ但手数料金十錢ヲ納ムヘシ

前項ノ鑑札ヲ所持セサル者ハ勞働ニ従事スルコトヲ得ス

第五條 第二條第六條及第七條ノ金額ヲ變更セントスルトキハ組合長ハ所轄辦務署長ヲ經テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條第一號乃至第五號ニ異動ヲ生シ又ハ組合ヲ退キタル勞働者アルトキハ組合長ハ其都度所轄辦務署長ヲ經テ地方長官ニ届出ツヘシ

第六條 清國勞働者取締規則第二條第二項第五條第六條第九條第十四條及第十五條ハ此規則ニ依ル勞働者組合長ニ準用ス但第五條及第十五條ノ場合ニ於ケル臺灣總督ノ義務ハ地方長官之ヲ行フ

第七條 左ニ掲グル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 組合ニ加入セスシテ勞働ニ従事シタル者

二 鑑札ヲ所持セスシテ勞働ニ従事シタル者

三 第三條第三項ノ届出ヲ怠リタル者

四 第五條第二項ニ違背シタル者

第八條 第三條第一項ノ許可ヲ得スシテ組合ノ業務ヲ營ミタルトキハ其組合ノ役員ヲ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ二十日以上三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 第五條第一項ニ違背シタルトキハ組合長ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處ス

附則

第十條 此規則ハ明治三十二年八月二十日ヨリ地方長官ノ指定シタル地ニ施行ス  
第十一條 備恤規程ハ地方長官ノ特許ヲ經テ當分ノ内之ヲ設定セサルコトヲ得

○臺灣總督府令第七十六號(官報八月二日)

明治三十一年七月府令第四十二號澎湖廳出張所名稱位置及管轄區域中澎湖廳湖西出張所ヲ廢シ其管轄區域ヲ同年七月府令第一百號澎湖廳媽宮出張所ノ管轄區域ニ編入ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第七十七號(官報八月二日)

明治三十二年二月府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ニ左ノ二號ヲ追加ス  
明治三十二年七月二十一日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

一 藥劑師免許證下付手数料

一 外國人登錄簿閱覽料及謄本抄本手数料

○臺灣總督府令第七十八號(官報八月二日)

明治三十一年六月府令第三十九號辨務署名稱位置及管轄區域中臺北縣ノ部左ノ通改正ス  
明治三十二年七月二十一日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

辨務署名	位置	管轄區域
臺北辨務署	大加納堡	內水返脚辨務署所屬ヲ除キ 大加納堡ノ内水返脚辨務署所屬ヲ除キ 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德
大加納堡	大加納堡	內水返脚辨務署所屬ヲ除キ 大加納堡ノ内水返脚辨務署所屬ヲ除キ 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德
芝蘭一堡	芝蘭一堡	內士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德 芝蘭一堡ノ内士林街、士林街、福德

辨務署名	位置	管轄區域
水返脚辨務署	水返脚街	大加納堡ノ内水返脚街三張里庄、里族 永春城庄、中港庄、后山埔庄、三重埔 庄、南港庄、新庄、后山埔庄、三重埔 庄、大坑庄、四份仔庄、山猪窟庄、雙葉 湖庄、芝蘭一堡ノ内臺北辨務署所屬ヲ除キ 石碇堡一圓
基隆辨務署	基隆街	基隆堡、金包里堡、三貂堡一圓 文山堡ノ内淡尾寮庄、大坪庄、海濱庄 文山堡ノ内淡尾寮庄、大坪庄、海濱庄 文山堡ノ内淡尾寮庄、大坪庄、海濱庄 文山堡ノ内淡尾寮庄、大坪庄、海濱庄
景尾辨務署	景尾街	文山堡ノ内基隆辨務署所屬ヲ除キ 文山堡ノ内基隆辨務署所屬ヲ除キ 文山堡ノ内基隆辨務署所屬ヲ除キ 文山堡ノ内基隆辨務署所屬ヲ除キ
滬尾辨務署	芝蘭三堡、八里坌堡一圓	芝蘭三堡、八里坌堡一圓 芝蘭三堡、八里坌堡一圓 芝蘭三堡、八里坌堡一圓 芝蘭三堡、八里坌堡一圓
北	三角湧辨務署	海山堡、三角湧街 海山堡、三角湧街 海山堡、三角湧街 海山堡、三角湧街
新竹辨務署	新竹城內	新竹城內 新竹城內 新竹城內 新竹城內
桃園辨務署	桃園街	桃園街ノ内三角湧辨務署所屬ヲ除キ 桃園街ノ内三角湧辨務署所屬ヲ除キ 桃園街ノ内三角湧辨務署所屬ヲ除キ 桃園街ノ内三角湧辨務署所屬ヲ除キ

○臺灣總督府令第七十九號(官報 八月二日)

明治三十二年律令第二十二號臺灣噸稅規則(明治三十二年八月四日)ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十號(官報 八月八日)

明治三十二年府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ニ左ノ一號ヲ追加ス

明治三十二年七月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

一 汽船検査證書下付手数料

○臺灣總督府令第八十一號(官報 八月八日)

明治三十二年律令第十二號臺灣不動産登記規則ニ依ル建物ノ登記ニ關スル取扱手續(明治三十二年五月司法省令第十一號不動産登記法施行細則ニ依ル)

本令ハ臺灣不動産登記規則施行ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十二號(官報 八月八日)

明治三十二年律令第十二號臺灣不動産登記規則(明治三十二年十月一日)ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十三號(官報 八月八日)

建物登記簿及商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付、建物登記簿又ハ其付屬書類ノ閱覽及商業登記簿付登記事項ノ證明並登記簿交付ヲ請求スル者ハ明治三十二年五月司法省令第十四號土地登記簿及物登記簿及商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル規定ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十四號(官報 八月八日)

公學校ニ於テ女子教育ノ爲別ニ教場ヲ設置スルトキハ其學科目教授ノ要旨及程度ハ明治三十一年八月府令第八十六號臺灣總督府國語學校第三附屬學校規程ニ準據スヘシ

明治三十二年七月二十八日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十五號(官報 八月八日)

法人登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付、登記事項ノ證明、登記簿ノ交付及財產管理ニ關スル書類ノ謄本ノ交付ヲ請求スル者ハ明治三十二年六月司法省令第三十四號法人登記簿及夫婦財產契約登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル規定ニ依リ手数料ヲ納ムヘシ

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年七月二十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第八十六號(官報 八月八日)

外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續左ノ通相定ム

明治三十二年七月二十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續

ニ于與スヘキ地方ノ當該官廳ハ死亡地ヲ管轄スル地方法院又ハ其出張所トス

外國人カ本島外ニ於テ死亡シタルトキハ前項ノ當該官廳ハ遺產ノ所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其出張所トス

第二條 外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル行爲ハ之ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 警察官ハ外國人ノ死亡ノ事實ヲ知リタルトキハ直ニ死亡者ノ國籍住所又ハ居所、氏名、年

齡及死亡ノ場所並年月日ヲ第一條第一項ノ地方法院又ハ其出張所ニ報告スヘシ

明治三十二年八月 臺灣總督府令 第八十四號 第八十五號 第八十六號 外國人ノ遺產ノ保存處分ニ關スル手續 一一七

第四條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺産ノ封印又ハ其開封ニ立會フヘキ場合ニ於テハ管轄地方法院又ハ其出張所ノ判官及書記之ニ立會フヘシ檢察官ハ之ニ立會フコトヲ得

第五條 條約ノ規定ニ依リ地方ノ當該官廳カ外國人ノ遺産目錄ヲ調製シ領事官ニ之ヲ送付スヘキ場合ニ於テハ管轄地方法院又ハ其出張所ハ利害關係人又ハ檢察官ノ請求ニ因リ管理人ヲ選任シ財産目錄ノ謄本ヲ提出セシメ條約ニ定メタル他ノ書類ト共ニ之ヲ領事官ニ送付スヘシ

第六條 管轄地方法院又ハ其出張所ハ外國人ノ遺産ニ關シ非訟事件手續法第六十九條、第七十條ノ公告又ハ民法第一千五百七十七條ノ公告アリタルトキハ其旨ヲ領事官ニ通知スヘシ

附則

第七條 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○臺灣總督府令第八十七號(官報八月十六日)

明治三十二年律令第二十號第一條ニ依リ從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所左ノ通指定ス但當分ノ内支那形船ニ限リ出入スルコトヲ得

明治三十二年八月三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺北縣管下

臺中縣管下

臺南縣管下

澎湖縣管下

東港

臺中縣管下

後港

鹿港

東石港

媽宮

附則

本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

明治三十二年八月三號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

〔參照〕

明治三十二年八月三日 臺灣總督府令第二十三號ハ特別輸出入港指定ノ件ナリ  
臺灣總督府令第八十八號(官報八月二十三日)

臺灣ニ寄留スル内地人ノ寄留及出產死亡等ニ關スル届出方左ノ通相定ム

明治三十二年八月四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 内地人ニシテ臺灣ニ居住スル者ハ居住ノ日ヨリ又住居ノ目的ニアラスト雖同一地區内ニ九十日以上滞留スル者ハ九十日ノ末日ヨリ十日内ニ左ノ事項ヲ記載シタル寄留届ヲ所轄警察官署ニ差出スヘシ

一 氏名

二 生年月日

三 寄留所

四 原籍

五 族稱職業

六 戶主非戶主ノ區別(非戶主ニ就テハ戶主トシテノ續柄)

七 家族携帶者ニアリテハ其家族ノ氏名、生年月日及戶主トシテノ續柄

第二條 寄留者ニシテ左ニ記載シタル事項ニ該當シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ届出シ

一 出產アリタルトキ

二 死者アリタルトキ

三 失踪者アリタルトキ

四 國籍喪失者アリタルトキ

五 氏名、生年月日及原籍ノ變更アリタルトキ

六、同一地區内ニ於テ寄留所ヲ變更シタルトキ  
第三條 寄留者ニシテ原籍地ニ歸ルカ又ハ寄留所ヲ同一地區外ニ變更スルトキハ退去マテニ其旨  
ニテ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第四條 前三條ノ事項ニ關シ警察官吏ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ

第五條 前各條ノ届出ハ單身者ニアリテハ自身家族携帶者ニアリテハ戸主、戸主ナキトキハ其中  
ノ主宰タル者ニ於テ爲スヘキモノトス但單身者ニシテ第二條ノ二號ニ該當スル場合ハ二戸  
ニテ構ヘタル者ナルトキハ地主(借地ナルトキ)又ハ家主(借家ナルトキ)二戸ヲ構ヘサル者ナルト  
キハ寄留所主宰者ニ於テ其實質ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ  
二戸ヲ構ヘサル寄留者ノ届書ニハ總テ寄留所主宰者ノ連署ヲ要ス

第六條 第一條第二條第三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ虚偽ノ届出ヲ  
爲シタル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條ニ違背シテ警察官吏ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルニ實ヲ以テセサル者ハ刑法ヲ適用スル場  
合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第七條 本令ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

明治二十九年日令第二十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○臺灣總督府令第八十九號(官報八月二十三日)

宿泊届ニ關スル件左ノ通相定ム

明治三十二年八月四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第二條 旅店主其他營業ニ依リ他人ヲ宿泊セシムル者ハ縣廳令ニ依リ其所定ノ事項ヲ所轄警察官  
署ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ縣廳令ニ規定アル場合ヲ除ク外警察官吏派出所又ハ巡回ノ警察官吏ニ之ヲ爲スコ  
トヲ得

第二條 宿泊者ハ其家ノ主人若ハ管理人ノ請求アルトキハ第一條ニ依リ届出ヲ要スル事項ヲ告ケ  
又ハ主人若ハ管理人ノ交付セル用紙ニ之ヲ記載スヘシ

第三條 前二條ノ事項ニ關シ警察官吏ノ尋問ヲ受ケタル者ハ之ニ答フヘシ

第四條 第一條ノ届出ヲ爲ササル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ  
刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第五條 第三條ニ違背シテ警察官吏ノ尋問ニ答ヘサル者又ハ宿泊者ニシテ答フルニ實ヲ以テセサ  
ル者ハ刑法ヲ適用スル場合ノ外二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第九十號(官報八月二十三日)

臺灣噸稅規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年八月四日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣噸稅規則施行細則

第一條 稅關又ハ稅關出張所ニ於テ噸稅ヲ徵收セントスルトキハ其稅金額及納付金庫ヲ指定シテ

納税人ニ告知スヘシ

第二條 海難其他已ムヲ得サル事故ニ依リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其事由ヲ税關又ハ税關出張所ニ證明スヘシ但噸税ヲ納付スル場合ハ此限ニアラス

第三條 噸税納付済ノ證明又ハ噸税法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ税關又ハ税關出張所ニ申請シ證書一通ニ付手数料金壹圓五拾錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スヘシ

第四條 犯則ノ調査及處分手續ニ關シテハ臺灣關稅規則施行細則ヲ準用ス

附則

第五條 本令ハ臺灣噸税規則施行ノ日ヨリ施行ス

○臺灣總督府令第九十一號(官報八月二十三日)

臺灣關稅規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年八月四日

臺灣總督府爵兒玉源太郎

臺灣關稅規則施行細則

第一章 關稅ノ賦課及徵收及擔保

第一條 關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域内ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此限ニアラス

第二條 前條ノ證明ハ貨物ノ產出地製造地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其地ノ税關其他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明ヲ

以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號番號品名箇數數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第三條 關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付金庫ヲ指定シタル文書ヲ以テ納税人ニ告知スヘシ但金庫ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第四條 納税人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ税金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付スヘシ

第五條 旅客ノ携帶品關稅法第二十四條但書ニ掲ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ

關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ税關ニ報告スヘシ

第六條 關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之

ヲ名宛人ニ通知スヘシ

第七條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條 郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條 關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號番號品名ニ數量原價諸

費及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條 關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢及有價證券ニ限ル

第十一條 擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條 稅關ハ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十三條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ

少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ競買スヘシ

第十四條 前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、證券ノ種類、金額、競買ノ場所及時其他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條 公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章 船舶ニ關スル手續

第十七條 船舶入港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港入港ノ時、及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條 積荷目録ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

關稅法第十五條ニ依リ提出スヘキ積荷目録ニハ前項ニ掲ケタル事項ノ外、貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ記載スヘシ

第十九條 船口申告書ニハ船口ノ所在、箇數、船用品目録ニハ船用品ノ種類、噸數及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條 外國貨物ヲ積載セル船舶積荷目録提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其理由ヲ詳記シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條 船舶ノ出港届ハ船舶ノ名稱、國籍、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲

スヘシ

第二十二條 外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ彙ニ預リタル船舶國籍證書其他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條 外國貨物ヲ積載セル船舶日没ヨリ日出マテノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ積卸ラ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手續料ヲ納付スヘシ但外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ヲ積卸シヲ爲スニ止マルトキハ此限ニアラズ

第二十五條 警察官吏關稅法第十八條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ所轄稅關又ハ稅關出張所ニ急報スヘシ

第二十六條 關稅法第十九條ニ掲ケタル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕スルノ認許ヲ受ケントスルトキハ船長ヨリ船卸港貨物ノ品名、箇數及噸數ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第二十七條 外國貨物ヲ假陸揚ヲ爲サントスルトキハ其記號、番號、品名、箇數及噸數ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ稅關ノ設置ナキ地ニアリテハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ申告スヘシ但海難其他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

第二十八條 關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 沿海通航船海難其他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其種類、數量及原價ヲ記載シタル目録ヲ歸港

地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章 貨物ニ關スル手續

第一節 總則

第三十條 日没ヨリ日出マテノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ稅關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取若  
ハ發送ヲ爲ス爲テ特許ヲ受ケントスル者ハ其理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ

第三十二條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其他船舶ト陸地トノ交通ヲ爲  
ス爲テ特許ヲ受ケントスル者ハ其場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘ  
シ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條 稅關又ハ稅關出張所ノ構外ニ於テ貨物ノ検査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之  
ヲ特許スルコトアルヘシ但關稅法第二十四條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其場所、期間、貨物ノ種類ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ

第二節 貨物ノ輸出及積戻手續

第三十四條 輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格及仕  
向港ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但旅客携帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セ  
ス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其產地ヲ記載スヘシ

修繕ノ爲輸出シ再輸入スヘキ貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的再輸入ノ場所及期限ヲ記載ス  
ヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出港稅關ニ申告スヘシ

第三十五條 關稅定率法第六條ニ依リ關稅ヲ免除セラレタル貨物ヲ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ  
輸出セントスル者又ハ通過ノ爲輸入シタル貨物ヲ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ  
輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免狀ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者  
ニ交付スヘシ

第三十六條 第三十四條第一項ノ規定ハ積戻申告ニ之ヲ準用ス

第三節 貨物輸入ノ手續

第三十七條 輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、產出地又ハ製  
造地、記號、番號、品名、箇數、數量、原價及諸費ヲ記載スヘシ

第三十八條 旅客携帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 關稅定率法第五條第十號及第十一號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除  
ヲ得ントスルトキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出ス  
ヘシ

第四十條 關稅定率法第六條ニ掲ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ  
目的及輸出港ヲ記載スヘシ

輸出港ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入港稅關ニ申告スヘシ



第四十二條 通過ノ爲輸入スル貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地ヲ記載スヘシ

第四十三條 關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得シトスルモノハ其理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得シトスル者ハ仍該貨物ノ記號番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十四條 貨物ノ仕入書ハ輸入免許ヲ爲スト同時ニ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第四十五條 郵便物ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ  
郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四節 貨物ノ回漕

第四十六條 貨物回漕ノ申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、陸揚地、内外國貨物ノ區別、貨物ノ記號番號、品名、簡數、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條 回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ回漕免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ  
稅關ニ於テ前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ貨物ノ檢査ヲ爲シ免狀ト符合スルトキハ該免狀ニ回漕濟ノ旨ヲ記入シテ提出者ニ還付スヘシ

第五節 貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條 關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及簡數ヲ記載スヘシ

第四十九條 關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ノ掲ゲタル事項、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十條 收容貨物ノ敷料ハ府令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第四章 異議

第五十一條 關稅ノ賦課ニ關スル異議ヲ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ、付屬書類又ハ物件アルトキハ之ニ表示スヘシ

第五十二條 異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十三條 判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徴スヘシ

第五十五條 異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其要領ヲ揭示スヘシ  
前項ノ場合ニ於テハ揭示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト見做ス

第五十六條 關稅法第六十二條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條 異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ評價人ヲ選定シ其職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

- 第五十八條 稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其改選ヲ命スヘシ
- 第五十九條 稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ
- 第六十條 評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作り之ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 第六十一條 評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ
- 第五章 犯則事件ノ調査及處分
- 第六十二條 差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ
- 第六十三條 差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ
- 第六十四條 差押物件ヲ所持者若ハ所在警察官署ニ保管セシメタルトキハ其受領證ヲ徵シ所在警察官署ニ保管セシメタルトキハ其旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
- 第六十五條 關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ之ヲ公告シテ競賣ニ付スヘシ
- 前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、競賣ノ事由、競賣ノ場所及其他必要ノ事項ヲ記載スヘシ
- 第六十六條 臨檢搜索及訊問調書ニハ臨檢搜索又ハ訊問ノ事實場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ
- 第六十七條 稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ
- 第六十八條 關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

- 處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ掲ケタル事項ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ
- 第六十九條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス
- 第七十條 沒收ニ該當スル物品ニシテ所在警察官署ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第七十一條 稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ法院ニ引繼グヘシ
- 前項ノ差押物件所持者又ハ所在警察官署ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ
- 第七十二條 犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ
- 第六章 稅關ノ執務時間及臨時開廳
- 第七十三條 稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時マテトス
- 第七十四條 稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル者ハ開廳ノ期間及其期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ
- 前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納ムヘシ
- 第七章 雜則
- 第七十五條 關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理

由貨物ノ陸揚ニ係ルトキハ其品名數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ  
 前項ノ特許ヲ得タルトキハ船長ヨリ特許手数料ヲ稅關ニ納付スヘシ  
 第七十六條 稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手数料ヲ納ムヘシ  
 第七十七條 棧橋起重機其他稅關所屬土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ使用料ヲ納付セシムルコトアルヘシ  
 第七十八條 手数料及使用料ノ額ハ府令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム  
 第七十九條 ハ手数料及使用料ハ申請書又ハ納付書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スヘシ  
 第八十條 稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件沒收物件收容貨物關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ニ問接トラ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス  
 第八十二條 臺灣關稅規則若ハ此細則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ  
 第八十三條 臺灣關稅規則又ハ此細則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關出張所管轄内ニアリテハ稅關出張所ニ提出スヘシ  
 前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關出張所ニ之ヲ準用ス  
 第八十四條 此細則ハ臺灣關稅規則施行ノ日ヨリ施行ス但第一條及第二條ノ規定ハ臺灣關稅規則施行ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス  
 ○臺灣總督府令第九十二號(官報八月二十三日)

明治三十三年八月府令第九十二號臺灣關稅規則施行細則第五十條ニ依リ收容貨物敷料左ノ通相定  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 臺灣總督府令第九十二號  
 臺灣總督府 男爵兒玉源太郎

番號	品名	每立方尺十日敷料	品名	每立方尺十日敷料
一	第一類 布帛	〇〇	一	第一類 布帛
二	二類 絹織品	〇〇	二	二類 絹織品
三	三類 絲織品	〇〇	三	三類 絲織品
四	四類 毛織品	〇〇	四	四類 毛織品
五	五類 紙織品	〇〇	五	五類 紙織品
六	六類 麻織品	〇〇	六	六類 麻織品
七	七類 皮革	〇〇	七	七類 皮革
八	八類 雜貨	〇〇	八	八類 雜貨
九	九類 藥品	〇〇	九	九類 藥品
十	十類 其他	〇〇	十	十類 其他
十一	十一類 雜貨	〇〇	十一	十一類 雜貨
十二	十二類 雜貨	〇〇	十二	十二類 雜貨
十三	十三類 雜貨	〇〇	十三	十三類 雜貨
十四	十四類 雜貨	〇〇	十四	十四類 雜貨
十五	十五類 雜貨	〇〇	十五	十五類 雜貨
十六	十六類 雜貨	〇〇	十六	十六類 雜貨
十七	十七類 雜貨	〇〇	十七	十七類 雜貨
十八	十八類 雜貨	〇〇	十八	十八類 雜貨
十九	十九類 雜貨	〇〇	十九	十九類 雜貨
二十	二十類 雜貨	〇〇	二十	二十類 雜貨

六一 杜松子酒	八六 亞拉馬亞酸	一一〇 「キヤブシニール」(線)	〇
六二 「ポルト」	八七 沃度	一一一 ノ口ニ用ニル金具	〇
六三 「ウヰスキー」	八八 醋酸鉛(鉛糖)	一一二 時計彈簧	〇
六四 葡萄酒	八九 靛藍(錫製)	一一三 電燈線	〇
第六類 標草	九〇 靛藍	一一四 鐵(箱入ノモノ)	〇
六五 卷煙草	九一 大黃	一一五 同(箱入ノモノ)	〇
六六 紙卷煙草	九二 伯夷蘭	一一六 日耳曼銀	〇
六七 刻煙草	九三 曹達灰	一一七 鍍金銀器	〇
六八 同(箱入ノモノ)	九四 重炭酸曹達	一一八 鐵線(箱入ノモノ)	〇
六九 葉煙草	九五 苛性曹達	一一九 鉛管	〇
第七類 砂糖	第九類 染料	一二〇 板鉛(卷キタルモノ)	〇
七〇 砂糖	九六 「アニリン」染料	一二一 茶鉛	〇
七一 糖精	九七 「アリザリン」染料	一二二 橋梁其他建築用材	〇
七二 冰糖	九八 靛藍	一二三 水銀	〇
七三 糖密及糖水	九九 靛藍	一二四 厭結爾	〇
第八類 藥材、化學藥及製藥	一〇〇 「ロノウ」越熟斯	一二五 散彈	〇
七四 石炭酸	一〇一 栲皮	一二六 鋼線索	〇
七五 撒里失爾酸	一〇二 色油	一二七 葉鐵	〇
七六 明礬	一〇三 同(箱入ノモノ)	一二八 余骨	〇
七七 安知欲錫林	一〇四 紅花	一二九 車輪車軸及彈簧	〇
七八 安知必林	一〇五 蘇木	一三〇 黃銅板	〇
七九 檳榔子	一〇六 洋漆	一三一 板亞鉛	〇
八〇 次硝酸鈣	一〇七 支那漆	第二類	〇
八一 桂皮	一〇八 朱	一三二 鐵軟鋼及鋼條	〇
八二 桂皮油	第十類 金屬及金屬製品	一三三 鋼條	〇
八三 丁香	一〇九 真鍮管	一三四 鋼地	〇
八四 阿仙翁及檳榔香	第一類	一三五 竿	〇
八五 厘里設林			

日每  
間百  
數斤  
十料

一三六 筒及管	一六二 汽機及汽機	一八四 無味香蠟	〇
一三七 板	一六三 電話器	第一類	〇
一三八 軌條	一六四 望遠鏡	一八五 墨汁(活版用ノモノ)	〇
一三九 線(樽入ノモノヲ除ク)	第十二類 角牙皮革	一八六 唐紙類	〇
一四〇 電線	一六五 獸骨	一八七 裝飾紙	〇
一四一 鉛(塊)	一六六 鬃鬃毛皮	一八八 「マンチ」用紙	〇
一四二 錫(塊)	一六七 生牛皮	一八九 包裝用紙	〇
第十一類 時計學術器具及機械類	一六八 獸蹄	一九〇 壁紙	〇
一四三 手風琴	一六九 牛角及水牛角	一九一 印刷料紙	〇
一四四 掛時計	一七〇 鹿角	一九二 鉛筆	〇
一四五 置時計	一七一 熟皮	一九三 寫真用紙	〇
一四六 電燈器械	一七二 海馬牙	一九四 封蠟	〇
一四七 消防器及唧筒器	一七三 象牙	一九五 藥紙	〇
一四八 農具及工匠具	一七四 漆革	第十六類 雜品	〇
一四九 發電器	一七五 靴底皮	一九六 石絨	〇
一五〇 寫真器	第十三類 玻璃及玻璃製品	一九七 豆類	〇
一五一 旋盤	一七六 空瓶	一九八 臘膜製品	〇
一五二 鐵道機關車	一七七 玻璃鏡	一九九 鐵道客車	〇
一五三 鐵山機	一七八 「プレート」玻璃片(水銀ラ塗タルト否トノ別)	二〇〇 「セリニロイド」	〇
一五四 製紙機	一七九 玻璃片	二〇一 石炭	〇
一五五 紡績機	一八〇 應玻璃片	二〇二 苧麻	〇
一五六 顯微鏡	第十四類 油蠟	二〇三 苧麻	〇
一五七 「オルゴール」	一八一 獸脂	二〇四 革帶(機械用ノモノ)	〇
一五八 寫真鏡(寫真器ト同)	一八二 機械用油	二〇五 自轉車	〇
一五九 「ビヤノ」	一八三 阿列布油	二〇六 帆布管	〇
一六〇 縫衣機		二〇七 「ポルトランド」セメント	〇
一六一 獵銃		二〇八 苧麻繩索(船用ノモノ)	〇

二〇九 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一〇 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一一 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一二 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一三 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一四 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一五 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一六 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一七 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一八 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二一九 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二〇 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二一 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二二 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二三 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二四 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二五 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二六 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二七 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二八 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二二九 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三〇 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三一 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三二 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三三 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三四 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三五 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三六 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三七 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三八 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二三九 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四〇 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四一 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四二 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四三 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四四 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四五 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四六 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四七 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四八 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二四九 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
二五〇 藤	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

本表ニ掲ケサル物品ハ類似物品ノ定率ヲ準用ス其類似物品ナキトキハ毎立方尺十日間發賣額ノ敷料ヲ徵收ス  
 敷料ハ十日毎ニ計算ス其十日未滿ノトキモ仍ホ十日分ヲ徵收ス  
 敷料總額ニ單位ヲ生スルトキハ切捨トス  
 ○臺灣總督府令第九十三號 (官報八月二十三日)

明治三十三年八月府令第九十一號關稅規則施行細則ニ依リ稅關ニ納付スヘキ手數料左ノ通相定ム  
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 明治三十年十二月府令第五十九號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

臺灣總督府兒玉源太郎

稅關平日臨時開應特許手數料

- 一 午後四時ヨリ同六時マテ 三十圓
- 一 午後六時ヨリ同十二時マテ 九十圓
- 一 午後四時ヨリ同十二時マテ又過クルトキ 百九十圓
- 一日出ヨリ午前十時マテ 四十圓
- 但前日ヨリ引續キ開應ノ場合ハ此限ニアラス
- 稅關休日臨時開應特許手數料
  - 一 午前十時ヨリ午後四時マテ 五十圓
  - 一 午前十時ヨリ午後六時マテ 八十圓
  - 一 午前十時ヨリ午後十二時マテ 百四十圓
  - 一 午前十時ヨリ午後十二時マテ又過クルトキ 二百四十圓
  - 一日出ヨリ午前十時マテ 四十圓
  - 但前日ヨリ引續キ開應ノ場合ハ此限ニアラス
- 稅關出張所平日及休日臨時開應特許手數料
  - 一 時間マテ毎ニ 五圓

一日没ヨリ日出マテ	同	七圓五十錢
稅關平日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料		
一日没ヨリ日出マテ	一時間マテ毎ニ	三圓
稅關休日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料		
一日出ヨリ日没マテ	一時間マテ毎ニ	二圓
一日没ヨリ日出マテ	同	二圓
稅關出張所平日貨物積卸、送致、引取及發送特許手数料		
一日没ヨリ日出マテ	一時間マテ毎ニ	一圓五十錢
一日出ヨリ日没マテ	一時間マテ毎ニ	一圓
一日没ヨリ日出マテ	同	一圓五十錢
稅關及稅關出張所構外検査特許手数料		
一検査ニ要スル時間	一時間マテ毎ニ	三圓
但旅費ヲ要スルトキハ別ニ其實費ヲ加フ		
外國貿易船不開港出入特許手数料		
一一回ニ付		十圓
臺灣關稅規則施行細則第七十六條ニ依ル手数料		
一證明	每一件	二圓
一輸出入貨物日計表	每一箇月	二十圓

一其他船舶貨物ニ關スル計表

〔参照〕

明治三十年<sup>九月</sup>臺灣總督府令第五十九號ハ臺灣總督府稅關及稅關出張所臨時開設及貨物積卸特許手数料ノ件ナリ

○臺灣總督府令第九十四號(官報 八月二十三日) 臺灣輸出稅及出港稅規則施行細則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣輸出稅及出港稅規則施行細則  
第一條 臺灣輸出稅及出港稅規則ニ關スル施行細則ハ臺灣關稅規則施行細則ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
○臺灣總督府令第九十五號(官報 八月二十三日) 臺灣窮民救助規則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣窮民救助規則  
第一條 帝國臣民ニシテ本島内ニ住居ヲ有シ他ニ頼ルヘキ親族故舊ナク獨身ニシテ左ノ各項ノ一

ニ該當シ產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ此規則ニ依リ救助スルコトヲ得

一 癡疾不具又ハ重病ノ者

二 滿六十年以上ニシテ老衰シタル者

三 十二年未滿ノ者

第二條 獨身ニアラスト雖前條ニ該當シ其餘ノ家人老幼疾病廢疾不具又ハ失踪逃亡在監等ニシテ  
 一給養スルコト能ハサルモノハ前條ニ準シ救助スルコトヲ得  
 第三條 救助ノ方法ハ地方長官ニ於テ之ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ  
 第四條 救助ニ要スル費用ハ地方稅ヲ以テ之ニ充ツ但臺灣地方稅規則ヲ施行セサル地方ハ從前ノ  
 一例ニ依ル

○臺灣總督府令第九十六號(官報八月二十三日)  
 遺失物法施行細則左ノ通相定ム

明治三十三年八月九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

遺失物法施行細則  
 第一條 遺失物法第三條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱種類數量形狀模樣及拾得ノ場所日時等成ル  
 ハ其物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ二十日間最寄掲示場ニ掲示シ仍貴重  
 物件認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ヲ掲載スルモノトス  
 第二條 遺失物法第十條ニ依リ管守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同  
 時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱種類數量形狀模樣及拾得ノ場所日時ヲ掲示スヘシ但掲示  
 ノ場所ヲ有セサルトキハ此限ニアラス  
 第三條 遺失物法第三條ニ依リ賣却ヲ要スル物件ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ競買ニ  
 付スヘシ但即時ニ賣却セザレバ減失又ハ毀損ノ虞アル物件又ハ公告ノ後競買人ナキ物件ハ此限  
 ニアラス  
 上公告ハ其地方慣行ノ方式ニ從ヒ之ヲ爲シ且公告ニハ競買ニ付スル物件ノ名稱種類數量擔任官吏

ノ氏名執行ノ場所日時ヲ記スルヲ要ス

第四條 賣却物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス競買ノ場合ニ於テ最高價競買人競買當日ニ代金  
 ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物件ヲ競買スヘシ此場合ニ於テハ前ノ最高  
 價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス

第五條 拾得ノ物件國庫ニ所有ニ歸シタルトキハ遺失物法第三條ノ費用ハ警察費ヨリ之ヲ支辨ス  
 ヘシ

○臺灣總督府令第九十七號(官報八月二十三日)  
 臺灣内地間往復船舶取締規則左ノ通相定ム

明治三十三年八月十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣内地間往復船舶取締規則  
 第一條 臺灣内地間ヲ往復スル船舶臺灣各港ニ入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時内  
 ニ稅關ニ入港届ヲナシ内地ヨリ其港ニ輸送シタル貨物ノ積荷目録ヲ提出スルト同時ニ船舶國籍  
 證書ヲ預クヘシ  
 第二條 前條ノ船舶出港セントスルトキハ船長ハ出港ノ時ヨリ四時前ニ稅關ニ出港届ヲナシ其港  
 ヨリ内地ニ輸送スヘキ貨物ノ積荷目録ヲ提出シ船舶國籍證書ヲ受戻スヘシ  
 第三條 前條ノ船舶内地ヨリ臺灣各港ニ臺灣各港ヨリ内地ニ輸送スル貨物ノ積卸ヲナササルトキ  
 ハ第三條ニ規定ヲ適用スルノ限ニアラス  
 第四條 積荷目録ハ其提出ノ日ヨリ七日内ハ稅關ノ認許ヲ得テ之ヲ訂正補足スルコトヲ得  
 第五條 稅關官吏職務ヲ爲船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第六條 第一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第七條 第二條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第八條 出港ノ際貨物ト符合セサル積荷目録ヲ提出シタルトキハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第九條 此規則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代テ其職務ヲ行フ者ニモ又之ヲ適用ス  
 第十條 此規則ニ於テ税關ニ關スル規定ハ税關出張所税關監視署其之ナキ地ニ在テハ警察官署ニ之ヲ準用ス

附則

第十一條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第九十八號(官報八月二十三日)

明治三十二年二月府令第十三號收入印紙賣下賣捌規則第二條但書ヲ左ノ通改正ス

明治三十二年八月十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

但土地ノ情況ニ依リ税關並税關出張所及辨務署ニ於テ直接賣下ヲ爲ス

〔參照〕

臺灣總督府令第十三號收入印紙賣下賣捌規則(明治三十二年三月三十日)抄錄

第二條 印紙ハ官廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム但賣捌所ナキ地方ニ在テハ辨務署ニ於テ賣下ケシムルコトヲ得

○臺灣總督府令第九十九號(官報九月一日)

行旅病人及行旅死亡人取扱法中市町村長ニ屬スル職務ハ辨務署長之ヲ行ヒ市町村費ノ負擔ニ屬スル費用ハ地方税支辨トス但臺灣地方税規則ヲ施行セサル地方ニ在テハ國庫ノ支辨トス

明治三十二年八月十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第百號(官報九月一日)

行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依ル行旅病人及行旅死亡人及同伴者ノ取扱ニ關スル件左ノ通定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十二年八月十六日

第一條 飢餓ニ迫リ歩行ニ堪ヘサル行旅者歩行ニ堪ヘサル行旅中ノ妊婦產婦ニシテ手當ヲ要スルモ其途ヲ有セサル者及行旅者又ハ住所居所ナク若ハ不明ナル者ニシテ引取者ナク辨務署ニ於テ救護ノ必要アリト認メタル者ハ行旅病人ニ準ス

第二條 行旅病人及其同伴者ヲ救護シタルトキハ辨務署長ハ遲滞ナク引取ヲ爲スヘキ期間ヲ指定シ且被救護者ノ狀況ヲ具シ扶養義務者若ハ家族ニ之ヲ通知スヘシ其引取ヲ爲スヘキ必要ナキニ至リタル場合ニ於テハ前ニ通知ヲ爲シタル扶養義務者若ハ家族ニ對シ直ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ通知ハ扶養義務者若ハ家族所在地ノ辨務署長又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得前項ノ囑託ヲ受ケタル辨務署長ハ遲滞ナク扶養義務者若ハ家族ニ通知スヘシ

第三條 被救護者ノ引取ヲ爲スヘキ通知ヲ受ケタル扶養義務者若ハ家族ハ其指定ノ期間内ニ之ヲ引取ルヘシ

疾病ノ狀況其他特別ノ事故ニ依リ指定ノ期間内ニ被救護者ヲ引取ルコトヲ得サル事情アルトキ



ハ被救護者又ハ其引取ヲ爲スヘキ者ノ請求ニ依リ辨務署長ニ於テ相當ノ期間ヲ指定シ留置救護ヲ爲スコトヲ得其請求ナキ場合ト雖辨務署長ニ於テ必要ト認ムルトキ亦同シ

第四條 被救護者ノ引取ヲ爲スヘキ通知ヲ受ケタル扶養義務者若ハ家族ニシテ指定ノ期間内ニ引取ヲ爲ササルトキ又ハ留置救護ノ請求ヲ爲スモ相當ノ事故アリト認メ難キトキ又ハ辨務署長ニ於テ留置救護ヲ爲スノ必要ナシト認メタルトキハ引取ヲ爲スヘキ通知ヲ受ケタル扶養義務者若ハ家族ニ之ヲ送還スルコトヲ得

第五條 被救護者ノ扶養義務者若ハ家族ナキトキ又ハ分明ナラサルトキ其他被救護者ノ引取ヲ爲ス者ナキトキハ辨務署長ハ被救護者ノ狀況ヲ具ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第六條 行旅病人及其同伴者ノ救護ハ之ヲ救護スルニ適當ナル公私ノ施設又ハ私人ニ委託スルコトヲ得但救護ノ費用ヲ要スルモノニアリテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ其費用ヲ支辨スルコトヲ要ス

第七條 救護ニ要シタル費用ノ辨償ヲ被救護者若ハ扶養義務者ニ請求スルトキハ計算書ヲ添ヘ且辨償ヲ爲スヘキ期間ヲ指定スヘシ

前項ノ請求ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間内ニ其費用ヲ辨償スヘシ

第八條 行旅病人及行旅死亡人取扱法第九條ニ依リ公署ノ揭示場ニ告示スルトキハ九十日以上之ヲ揭示スヘシ

第九條 行旅死亡人ニ關シ相續人又ハ扶養義務者若ハ家族ニ通知スルトキハ死亡人ノ狀況相貌其他本人ノ認識ニ必要ナル事項ヲ通知スヘシ

第十條 行旅死亡人ノ相續人及其扶養義務者ニ對シ行旅死亡人取扱費用ノ辨償ヲ請求スルトキハ第七條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 行旅死亡人取扱費用ニ付其遺留ノ金錢若ハ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルモ仍足ラサル場合ニ於テ相續人及扶養義務者ナキトキ若ハ分明ナラサルトキハ最初ニ公告ヲ爲シタル日ヨリ起算シ百二十日ヲ經過シタル後行旅死亡人ノ遺留物品ヲ賣却シテ其費用ニ充ツヘシ仍足ラサルトキハ地方長官ニ報告スヘシ

行旅病人及行旅死亡人取扱法第九條ノ公告ヲ爲ササリシモノ及公告後相續人及扶養義務者ノ知レタルモノニ付テハ費用ノ辨償ヲ得サル場合ニ於テ直ニ前項遺留物品ヲ賣却スルコトヲ得

第十二條 行旅死亡人ノ遺留物品ヲ賣却スルトキハ費用ノ辨償額ニ達スルマテヲ限度トシ其價格アル物件ヲ競賣スヘシ

有價證券及見積價格十圓未満ノ物件ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ競賣ニ付セスシテ處分スルコトヲ得

第十三條 行旅病人行旅死亡人及其同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關シ地方稅ヲ以テ繰替フヘキ費用ハ左ノ種目トス

- 一 醫師診察料手術料旅費日當及診斷書料
- 二 藥價及療養ニ關スル必要品費
- 三 食料
- 四 看護人及番人費
- 五 被服寢具料

- 六 病人死亡ノ爲特ニ要スル薪炭油費
- 七 入院料借家料小屋掛料
- 八 護送及運搬ニ關スル諸費
- 九 死體檢案料及檢案書料
- 十 假土葬及火葬ニ關スル諸費
- 十一 墓標費
- 十二 公告料

前項ノ外特ニ要スル費用及費用ノ限度並之ニ關スル事項ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條 船舶又ハ汽車内ノ行旅病人行旅死亡人及其同伴者並其所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外最初ノ著船地又ハ停車地ノ辨務署長之ヲ掌ル但取扱上不適當ト認ムル場合ニ於テハ船長又ハ車長車掌ハ他ノ著船地又ハ停車地ヲ指定スルコトヲ得

○臺灣總督府令第百一號 (官報 九月一日)

行旅病人及行旅死亡人取扱法第十七條ニ依ル外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ取扱ニ關スル特例ノ件左ノ通定ム

明治三十二年八月十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依リ外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲シタル辨務署長ハ速ニ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ  
地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル場合ニ於テ帝國ニ住所居所ヲ有スル扶養義務者若ハ親族又ハ相續人分明ナルトキハ其所在地ノ地方長官ヲ經テ行旅病人及其同伴者ニ關シテハ扶養義務

者若ハ親族ニ之ヲ通知シ行旅死亡人及其同伴者ニ關シテハ相續人又ハ扶養義務者若ハ親族ニ之ヲ通知スヘシ其被救護者ニ付テハ併セテ之ヲ引取ラシムルノ手續ヲ爲スヘシ  
外國人タル行旅病人行旅死亡人及其同伴者ニシテ國籍分明ナルトキ地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ外之ヲ其所屬國領事ニ通知スヘシ

第二條 外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者ノ救護若ハ取扱ニ關スル費用ニシテ被救護者ヨリ辨償ヲ得サルトキ又ハ遺留ノ金錢若ハ有價證券ヲ以テ之ニ充テ仍足ラサルトキハ辨務署長ハ其計算書ヲ製シ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ計算書ヲ受ケタル場合ニ於テ帝國ニ住所居所ヲ有スル扶養義務者若ハ相續人分明ナルトキハ其所在地ノ地方長官ヲ經テ行旅病人及同伴者ニ關シテハ扶養義務者ニ對シ行旅死亡人ニ關シテハ相續人若ハ死亡人ノ扶養義務者ニ對シ其辨償ヲ請求スヘシ

前項費用ノ辨償金徴收ニ付テハ地方稅徴收ニ關スル例ニ依ル  
前項ニ依リ費用ノ辨償ヲ得タルトキハ地方長官ハ辨務署長ニ之ヲ交付スヘシ

第三條 外國人タル行旅死亡人ノ遺留物件ヲ賣却スル場合ニ於テハ行旅病人及行旅死亡人取扱法第九條ニ依リ最初公告シタル日ヨリ起算シ六箇月ヲ經過スルヲ要ス

第四條 外國人タル行旅病人行旅死亡人及同伴者並其所持物件若ハ遺留物件ノ取扱ニ關シテハ條約ニ據ル規定ノ適用ヲ妨ケス

第五條 本令ニ於テ別段ノ規定ヲ爲シタルモノ、外行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ於テ扶養義務者相續人ニ關スル規定ハ外國人ニ付テハ帝國ニ住所居所ヲ有スル扶養義務者又ハ相續人ニ之ヲ適用ス

○臺灣總督府令第百二號 (官報 九月一日)

官鹽賣捌組合ニ於テ政府ヨリ賣下ヲ受ケタル食鹽ヲ鹽務總館又ハ支館ニ運搬スルトキハ鹽務局ニ於テ發行スル第一號様式ノ發送票ヲ携帶スヘシ

食鹽販賣營業者又ハ需用者ニ於テ鹽務總館又ハ支館ヨリ買受ケタル食鹽ヲ運搬スルトキハ鹽務總館又ハ支館ニ於テ發行スル第二號様式ノ通行票ヲ携帶スヘシ但明治三十二年四月告示第五十號但書ノ場合ハ此限ニアラス  
前項通行票ハ總館及支館ニ於テ調製ノ上豫メ所管鹽務局ノ檢印ヲ請フヘシ  
本令ハ明治三十二年十月十五日ヨリ施行ス  
明治三十二年八月十七日  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一號様式(用紙西洋紙)

第 號	發送票原符
一食鹽 何程 何鹽務總(支)館署	
搭載船舶名番號船主(長) 何某	
鹽詰(袋詰及箱詰)何箇奉領者何某	
明治三十二年 月 日	
局印	
第 號	發送票
一食鹽 何程	
搭載船舶名番號船主(長) 何某	
鹽詰(袋詰及箱詰)何箇奉領者何某	
右運搬證明ノ爲發送票ヲ交付候間現品領收	
簿ノ上ハ直ニ此發送票返却相成度候也	
明治三十二年 月 日	
何鹽務總(支)館 御中	
何鹽務局 局印	

第二號様式(用紙西洋紙)

第 號	通行票原符
一食鹽 何程 何何番戶何某渡	
明治 年 月 日	
局印	
第 號	通行票
一食鹽 何程 何何番戶何某渡	
但本票ノ效力ハ發行ノ日ヨリ二日限トス	
明治三十二年 月 日	
何鹽務總(支)館 御中	
何鹽務局 局印	

○臺灣總督府令第百二號(官報九月一日)  
明治三十二年四月府令第三十三號臺灣鹽務局名稱位置管轄區域中左ノ通改正ス

明治三十二年八月十九日  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺北縣新竹鹽務局管轄區域中新竹ノ下(竹南一堡ヲ除ク)ノ七字ヲ加ヘ臺中縣後埔鹽務局管轄區域中苗栗辦務署管内ノ下及新竹辦務署管内ノ内竹南一堡ノ十四字ヲ加フ

○臺灣總督府令第百四號(官報九月一日)  
明治三十二年七月府令第五十四號臺灣總督府醫學學校規則第七條中「一調劑術實習ノ次ニ」藥物學ノ四字ヲ追加ス  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十二年七月十八日臺灣總督府令第五十四號臺灣總督府醫學學校規則第七條ハ同校本科ノ教科目ナリ

○臺灣總督府令第百五號(官報九月七日)  
臺灣海港檢疫施行規則左ノ通相定ム

明治三十二年八月二十七日  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣海港檢疫施行規則  
第一條 檢疫ヲ施行スル海港ハ基隆港及淡水港トス其他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス  
淡水港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ基隆ニ回航セシム  
第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ虎列刺、痘瘡、猩紅熱、ペスト、黃熱トス其他ノ傳染病ニ對シ臨時

檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停船期間ハ消毒法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ベ  
スト」ハ七日間虎列刺、黃熱ハ五日間トス但同第三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其  
地ヲ經過シ若ハ傳染病ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス  
臺灣ノ海港檢疫所ニ於テ消毒又ハ停船ノ處分ヲ受ケ其後異狀ナキモノハ再ヒ停船又ハ消毒セラ  
ルルコトナシ

傳染病流行地ハ其都度告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第四條 海港檢疫法ニ依リテ交付スル許可證ハ其處分ノ如何ニ依リ第一號乃至第三號様式ニ據ル  
明告書ハ第四號様式ニ據ル

第五條 傳染病及其疑アル患者ハ海港檢疫所ノ隔離室ニ入ラシムルコトヲ得

第六條 海港檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客若ハ乗組員ハ第三條第一項ノ期間之ヲ停留ス  
若其船客若ハ乗組員ニ傳染病ヲ發シタルトキハ其全部若ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項  
ノ期間停留ヲ繼續ス但其船舶ニ及ホスコトナシ

第七條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其遺骨ハ引受人又ハ船長若ハ其代理人ニ引渡スヘシ若引  
受人ナク船長若ハ其代理人在ラサルカ又ハ引受ヲ拒ムトキハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依  
リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ  
許可スルコトヲ得

第八條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ回航セシムヘシ但船長若ハ其

代理人ノ申出アルトキハ本條第二項第二項ニ依リ處分スルコトヲ得

警察官吏若其船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航シ難シト認ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘ  
シト認ムル場合ニ於テハ最寄檢疫所ニ回航セシメス船長及其他ノ乗組員ヲシテ相當ノ消毒法ヲ  
施行セシムルコトヲ得此場合ニ於ケル費用ハ船主船長若ハ其代理人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主船長若ハ其代理人  
ヲシテ實費ヲ仕拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第九條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ徴收ス但内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此限ニアラ  
ス

船舶消毒費

登簿噸數百噸未滿

十圓乃至十五圓

同百噸以上千噸未滿

二十圓乃至三十圓

同千噸以上二千噸未滿

三十圓乃至五十圓

二千噸以上一千噸ヲ増ス毎二十圓ヲ加フ

日本形船支那形船及漁船ハ噸數又ハ石數ニ拘ハラズ

一圓乃至十圓

積荷消毒費 一箇ニ付

十錢乃至一圓

船客乗組員ノ衣服手持物所持品ノ消毒費

一、二等船客及之ニ

一人分ニ付

一圓乃至三圓

準スヘキ乗組員

一人分ニ付

十錢乃至五十錢

三等船客及之ニ

一人分ニ付

五錢乃至十錢

準スヘキ乗組員

一人分ニ付

五錢乃至十錢

第十條 海港檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ノ徵收額ハ別ニ之ヲ定ム

第一號樣式

許可證(第一號)

船種某號ハ明治三十二年律令第二十三號ニ基キ同年法律第十九號海港檢疫法ノ規程ニ依リ之ヲ検査シ異狀ナキヲ認ム依テ同法第二條ニ依リ此證ヲ交付シ某港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許可ス

某海港檢疫所

所 長 某印

検査主任 某印

第二號樣式

許可證(第二號)

船種某號ハ明治三十二年律令第二十三號ニ基キ同年法律第十九號海港檢疫法ノ規程ニ依リ之ヲ検査シタルニ何病者死者又ハ病者汚染ノ疑アリタルヲ以テ同法第六條ニ基キ其處置ヲ了ス依テ同法第二條ニ依リ此證ヲ交付シ某港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許可ス

某海港檢疫所

所 長 某印

検査主任 某印

第三號樣式

許可證(第三號)

船種某號ハ某港へ入港シタル後何病者死者アリタルヲ以テ明治三十二年律令第二十三號ニ基キ同年法律第十九號海港檢疫法ノ規程ニ依リ同法第六條ニ基キ其處置ヲ了ス依テ同法第二條ニ依リ此證ヲ交付シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ許可ス

第四號樣式

明告書

- 一 船籍 船種 船名
- 二 總噸數 登簿噸數
- 三 船主又ハ其代理人
- 四 發航地名 發航月日
- 五 寄港地名 發着月日
- 六 船客
  - 一等船客 名
  - 二等船客 名
  - 三等船客 名
  - 其他ノ船客 名
  - 計 名
- 七 乘組員事務員以上ノ船員 名
- 八 飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入レタル地名
- 九 積荷ノ種類及搭載セシ地名
- 十 積荷中糞穢古綿等ノ有無若アラハ其搭載地名
- 十一 出向地
- 十二 航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」虎列刺 霍亂 痘瘡 猩紅熱 又ハ該病疑似症ノ有無
- 十三 航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」虎列刺 霍亂 痘瘡 猩紅熱ノ外病者ノ有無若アラハ其病名
- 十四 航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其病名

某海港檢疫所

所 長 某印

十五 航海中寄港中「ベスト」房列刺黃熱痘瘡猩紅熱アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無  
十六 他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無  
右之通相違無之候也  
年 月 日

某海港檢疫所

御中

船 長 某印  
船 醫 某印

○臺灣總督府令第百六號 (官報 九月七日)

明治三十二年二月府令第十一號收入印紙ヲ以テ納ムヘキ手数料種目ヘ左ノ二號ヲ追加ス  
一 清國勞動者上陸許可證明手数料  
一 勞働者免許鑑札下付手数料  
臺灣總督府令第百七號 (官報 九月十六日)

○臺灣總督府令第百七號 (官報 九月十六日)

明治三十一年七月府令第六十一號臺灣地方稅賦課規則中左ノ通改正ス  
明治三十二年九月二日

第四條 第二條第三條課稅種類ノ外特別ノ課稅ヲ要スルモノアルトキハ地方長官ハ臺灣總督ノ認  
可ヲ經テ之ヲ賦課スルコトヲ得

第七條 地方稅ノ稅率納期及家稅營業稅雜種稅ノ賦課期ハ地方長官之ヲ定ム  
〔參照〕  
臺灣總督府令第六十一號臺灣地方稅賦課規則 (明治三十一年八月二十三日) 抄錄

第四條 家稅、營業稅及雜種稅ハ其年度四月一日ノ現在ニ依リ之ヲ賦課ス但地方長官ニ於テ臨時賦課スルコトヲ必要ト認  
ムルモノハ此限ニアラス  
第七條 地方稅ノ稅率及納期ハ地方長官之ヲ定ム

○臺灣總督府令第百八號 (官報 九月十六日)

明治三十二年八月府令第百二號中左ノ通改正ス  
臺灣總督府令第百九號 (官報 九月十六日)

第一項中鹽務局ノ下ニ「及鹽務總支館」ノ六字ヲ追加ス  
第一號樣式發送票中年月日ノ下ノ署名ヲ「何鹽務局又ハ鹽務總支館」ニ改メ印形中ノ「局」字ヲ削除ス

○臺灣總督府令第百九號 (官報 九月十六日)

明治三十二年七月府令第五十三號持越食鹽收納規則中左ノ通改正ス  
臺灣總督府令第百九號 (官報 九月十六日)

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下繰下ク  
第四條 自家用食鹽ハ一人十五斤ノ割合ヲ以テ其家族及常備人ノ人員ニ基キ算定スヘシ

○臺灣總督府令第百十號 (官報 九月十六日)

明治三十二年八月府令第九十三號稅關ニ納付スヘキ手数料中稅關休日臨時開廳特許手数料ノ次ニ左  
ノ一項ヲ加フ  
臺灣總督府令第百十一號 (官報 九月二十六日)

明治三十二年九月八日  
出港稅ヲ課スヘキ物品及日本形船支那形船ニ關スル稅關平日休日臨時開廳特許手数料  
一日出ヨリ日没マテ 一時間マテ毎ニ 五 圓  
一日没ヨリ日出マテ 同 七圓五十錢

○臺灣總督府令第百十一號 (官報 九月二十六日)

臺灣總督府令 第百八號 第百九號 第百十號

明治三十二年九月

明治三十一年六月府令第三十九號辨務署名稱位置及管轄區域中臺中縣ノ部左ノ通改定ス  
 明治三十三年九月十二日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

縣	中	臺	所轄	辨務署名	位置	管轄	
苗栗	苗粟二堡 苗粟一堡 苗粟三堡 苗粟四堡 苗粟五堡 苗粟六堡 苗粟七堡 苗粟八堡 苗粟九堡 苗粟十堡	苗粟一堡 苗粟二堡 苗粟三堡 苗粟四堡 苗粟五堡 苗粟六堡 苗粟七堡 苗粟八堡 苗粟九堡 苗粟十堡	苗粟一堡 苗粟二堡 苗粟三堡 苗粟四堡 苗粟五堡 苗粟六堡 苗粟七堡 苗粟八堡 苗粟九堡 苗粟十堡	苗粟一堡 苗粟二堡 苗粟三堡 苗粟四堡 苗粟五堡 苗粟六堡 苗粟七堡 苗粟八堡 苗粟九堡 苗粟十堡	苗粟一堡 苗粟二堡 苗粟三堡 苗粟四堡 苗粟五堡 苗粟六堡 苗粟七堡 苗粟八堡 苗粟九堡 苗粟十堡	苗粟一堡 苗粟二堡 苗粟三堡 苗粟四堡 苗粟五堡 苗粟六堡 苗粟七堡 苗粟八堡 苗粟九堡 苗粟十堡	
北港	北港一堡 北港二堡 北港三堡 北港四堡 北港五堡 北港六堡 北港七堡 北港八堡 北港九堡 北港十堡	北港一堡 北港二堡 北港三堡 北港四堡 北港五堡 北港六堡 北港七堡 北港八堡 北港九堡 北港十堡	北港一堡 北港二堡 北港三堡 北港四堡 北港五堡 北港六堡 北港七堡 北港八堡 北港九堡 北港十堡	北港一堡 北港二堡 北港三堡 北港四堡 北港五堡 北港六堡 北港七堡 北港八堡 北港九堡 北港十堡	北港一堡 北港二堡 北港三堡 北港四堡 北港五堡 北港六堡 北港七堡 北港八堡 北港九堡 北港十堡	北港一堡 北港二堡 北港三堡 北港四堡 北港五堡 北港六堡 北港七堡 北港八堡 北港九堡 北港十堡	
斗六	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡	斗六一堡 斗六二堡 斗六三堡 斗六四堡 斗六五堡 斗六六堡 斗六七堡 斗六八堡 斗六九堡 斗六十堡
南投	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡
彰化	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡	彰化一堡 彰化二堡 彰化三堡 彰化四堡 彰化五堡 彰化六堡 彰化七堡 彰化八堡 彰化九堡 彰化十堡
北斗	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡	北斗一堡 北斗二堡 北斗三堡 北斗四堡 北斗五堡 北斗六堡 北斗七堡 北斗八堡 北斗九堡 北斗十堡
東螺	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡	東螺一堡 東螺二堡 東螺三堡 東螺四堡 東螺五堡 東螺六堡 東螺七堡 東螺八堡 東螺九堡 東螺十堡
南投	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡	南投一堡 南投二堡 南投三堡 南投四堡 南投五堡 南投六堡 南投七堡 南投八堡 南投九堡 南投十堡
苗栗	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡	苗栗一堡 苗栗二堡 苗栗三堡 苗栗四堡 苗栗五堡 苗栗六堡 苗栗七堡 苗栗八堡 苗栗九堡 苗栗十堡

○臺灣總督府令第百一十二號 (官報 九月二十六日)

銃獵ハ毎年九月十五日ヨリ翌年四月二十日迄ヲ期限トシ之ヲ許可ス  
 銃獵ヲ爲サントスル者ハ所轄地方廳ニ願出銃獵免狀ヲ受クヘシ  
 本令施行ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム  
 明治三十三年九月十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第百十三號 (官報 十月九日)

行旅病人及行旅死亡人取扱法第五條及第十三條ノ場合ニ於ケル費用ハ行旅病人行旅死亡人若ハ其  
 同伴者ノ住所地縣廳其住所地縣廳ナキトキ若ハ住所地縣廳分明ナラザルトキハ其者ノ救護又ハ取  
 扱ヲ爲シタル地ノ縣廳ノ地方稅支辨トシ臺灣地方稅規則ヲ施行セサル地方ニ在テハ國庫ノ支辨ト  
 ス引取ハ其地方長官之ヲ掌ルヘシ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

○臺灣總督府令第百十四號 (官報 十月九日)

明治三十一年十月府令第九十九號中左ノ通改正ス  
 第一條 中西洋形船ニシテ「ノ下ニ」内地臺灣間若ハ「ノ七字及」臺灣ニ於ケル「ノ下ニ」本船到達港若  
 ハ「ノ七字ヲ加フ」  
 本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス其施行前ヨリ内地臺灣間ヲ航行セルモノハ三十日以内ニ届出ヘシ  
 明治三十三年九月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

- 臺灣總督府令第九十九號(明治三十一年十月二十五日官報)抄録
- 第一條 内地ノ船舶ニ關スル西洋形船ニシテ臺灣沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トナシ外國ニ航行スルモノ左記ノ事項ニ依  
 當スルトキハ其都度臺灣ニ於ケル本船根據地ヲ管轄スル地方官廳ヲ經テ臺灣總督府ニ届出ツヘシ但臺灣總督ノ命令ニ依  
 リ航行スルモノハ此限ニアラス
  - 一 初テ航海ヲ開始スルトキハ航路及發着定期(月日)航路及發着期(月日)航路及發着期(月日)ヲ記シ之ニ本船受有ノ發着船免狀ノ寫ヲ添付  
 スルコト
  - 二 航路若ハ發着定期日ヲ變更シタルトキハ其事項  
 三 航路ヲ廢止シタルトキハ其事由

○臺灣總督府令第一百十五號 (官報 十月九日)  
明治二十九年九月府令第四十號國語學校並國語傳習所給費生支給規則第一條中手當金ノ下ニ「被服」ノ二字ヲ加フ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

臺灣總督府令第四十號臺灣總督府國語學校並國語傳習所給費生支給規則 (明治二十九年九月二十七日) 抄錄  
第一條 國語學校及附屬學校並國語傳習所給費生ニ對スル食費手當金旅費及治療費ハ此規則ニ依リ支給ス但國語學校留學生ノ支給ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

○臺灣總督府令第一百十六號 (官報 十月九日)

明治三十二年四月府令第三十號本文手當金ノ下ニ「被服」ノ二字ヲ加フ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

明治三十二年四月府令第三十號同府師範學校生徒ニ國語學校並國語傳習所給費生支給規則適用ノ件ナリ  
○臺灣總督府令第一百十七號 (官報 十月十八日)

軍役志願者規則左ノ通相定ム

臺灣總督男爵兒玉源太郎

軍役志願者規則

第一章 綱領

第二條 軍役志願者トハ左ノ各項ニ該當スル本島人ノ志願者中ヨリ採用シ軍務ニ備役スル者ヲ云フ

一 年齡二十歲以上三十五歲以下ノ者

二 體軀強健精神ニ異狀ナキ者

三 行狀方正ニシテ禁錮以上ノ刑若ハ賭博犯ニ依リ處罰セラレタルコトナキ者

四 一定ノ住所ヲ有シ街庄社長ノ保證シ得ル者

第二條 軍役志願者ニハ入營後單簡ナル軍事教育ヲ施シ隊中諸般ノ雜役ニ使用シ旁軍隊ノ軍紀風紀ニ習ハシム

第二章 募集

第三條 募集

第三條 毎回募集スヘキ軍役志願者ノ員數ハ總督之ヲ定メ其年七月之ヲ告示ス

第四條 本島人ニシテ軍役ヲ志願セントスル者ハ其願書ニ街庄社長ノ保證書(第一號書式)ヲ添ヘ

辦務署長ニ差出スヘシ

第五條 辦務署長ハ前條ノ願書ニ基キ毎年八月末日迄ニ第一號離形ニ準シ管内軍役志願者名簿ヲ

調製シ地方長官ヲ經テ所管混成旅團長ニ差出スヘシ

第六條 募集區域及検査日割ハ混成旅團長之ヲ定メ其年九月十日迄ニ地方長官及募集官長ニ告知

スヘシ

第七條 地方長官ハ前條ノ區域及日割ヲ關係募集區域内ニ告示スヘシ

第八條 募集官長ハ關係辦務署長ト協議シ國隊又ハ官衙中最モ便利ノ地ニ於テ検査場所ヲ定メ辦

務署長ハ街庄社長ヲシテ之ヲ志願者ニ通報セシムヘシ

第九條 検査當日ニハ街庄社長ハ其街庄社内ノ志願者ヲ引率シ募集官ノ指揮ニ從ヒ所要ノ事務ヲ

辨スヘシ



第十條 検査ニ合格シタル軍役志願者ニハ募集官長ヨリ合格證書ヲ附與スルモノトス

第十一條 検査終レハ合格者名簿ヲ作り採用スヘキ順序ヲ定メ募集官長ヨリ混成旅團長ニ報告シ

其寫ヲ當該隊長及關係辨務署長ニ送付スヘシ辨務署長ハ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第十二條 採用スヘキ軍役志願者ノ順序ハ體格知能身元等ヲ參酌シ募集官長之ヲ裁決スヘシ

第十三條 軍役志願者ハ少クモ三箇年間軍役ニ服スルノ誓約ヲナスモノトス(第一號書式)

第十四條 軍役志願者ノ入營ハ其年十二月一日トス

第三章 募集官

第十五條 募集官ハ各募集區域毎高級故參ノ隊長ヲ以テ其長トシ外ニ大(中)尉一名軍醫一名縣

(廳)兵事主任官吏一名關係各辨務署長若ハ兵事主任官吏一名ヨリ成ル

第十六條 募集官長ハ直ニ混成旅團長ニ隸シ當該區域内募集ニ關スル一切ノ事務ヲ整理ス

募集官ハ募集官長ノ指揮ニ從ヒ募集事務ヲ擔任スルモノトス

第十七條 募集官ニハ左ノ屬員ヲ附ス

下士並通譯 各一名 關係各辨務署員 若干名

屬員ハ募集官長ノ區域ヲ受ケ募集事務ヲ補助スルモノトス

第十八條 混成旅團長ハ募集ニ關スル事務ヲ總轄ス

第十九條 募集官及屬員ハ各混成旅團長地方長官之ヲ任命シ互ニ通報スヘシ

第二十條 前條ノ募集官ハ混成旅團長之ヲ總督ニ報告スヘシ

第四章 給與

第二十一條 軍役志願者ニハ給料月額六圓乃至八圓ヲ給シ被服ハ官給糧食ハ自辨トス

第二十二條 演習用兵器彈藥ハ之ヲ官給トス

第二十三條 疾病(公務起因)又ハ已ムヲ得サル家事等ニテ缺勤スル者ハ其日數ニ應シ日割ヲ以

テ給料ノ半額ヲ給シ罰料ニ處セラレタル者ハ輕重ニ依リ十分ノ三乃至十分ノ五ヲ減給ス

第二十四條 軍隊ト共ニ一日以上屯營ヲ離ル、トキハ出發ヨリ歸著迄ノ糧食ハ官給トス

第二十五條 公務ノ爲メ負傷又ハ死没シタルトキハ若干ノ手當又ハ弔慰金ヲ給ス

第二十六條 凡テ軍役志願者給與ニ關シテハ當該大隊長(獨立又ハ分遣中隊ハ其長)ハ特ニ監視ノ

責ニ任ス

第五章 雜則

第二十七條 軍役志願者ハ營内ニ宿泊セシム但當分ノ内通勤セシムルコトヲ得

第二十八條 軍役志願者ハ疾病其他已ムヲ得サル事故ノ爲メ除隊ヲ出願スルトキハ軍醫ノ診斷書

又ハ所轄辨務署長ノ證明ニ據リ混成旅團長之ヲ裁決スルモノトス

第二十九條 備役中輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ解備スルモノトス

第三十條 軍役志願者入營後戶籍面ニ異動ヲ生シタルトキハ辨務署長ヨリ所管混成旅團長ニ報

告スヘシ

第三十一條 募集官長ハ募集事務終了後十日以内ニ將來事務改良上ノ意見ヲ附シ募集事務ノ詳細

ヲ混成旅團長ニ報告シ混成旅團長ハ之ヲ總督ニ報告スヘシ

第三十二條 募集實施ニ要スル細則ハ混成旅團長地方長官ト協議シテ之ヲ定メ總督ニ報告スヘシ

附則

第三十三條 明治三十二年ニ於ケル募集ニ付テハ第三條ノ告示ハ十月トシ第五條ノ手續ハ十一月

末日迄第六條ノ手續ハ十二月十日迄トシ翌年一月十日ニ入營セシム  
第一號雛形 (△印ハ朱書)

明 治 何 年 軍 役 志 願 者 名 簿		住 所	身 分	年 紀	身 長	等 位	備 考
格 題		△何兵 何番	農商工(何職)	何十何歲	各部 構造	△甲 乙	戶主(家族)財產高 戶主(家族)有無 賞與(學位) 罪科
檢 查 地 名	△ 某 地	檢 查 官	△ 官 姓 名	某長(次)男兄弟 戶主 何 某	何十何歲	某	

此名簿ハ最初辨務署長ノ調製スルモノ及身體検査ノ終リニ於テ入營ヲ決シタル時ノ二様ノ雛形ヲ示セルモノニシ  
テ第一ノ場合ニ在テハ其朱書ニ係ル分ハ固ヨリ空畫ナリト知ルヘシ

右之者今般軍役志願ニ候處行狀方正職業勉勵ノ者ニ付御採用被成下度本人入營ノ上ハ  
拙者引受御規則嚴重ニ爲相守可申此段保證候也  
年 月 日  
所轄辨務署長宛  
住所職業戶主長(次)男(離弟)  
某  
當年何十何歲  
街庄社長氏名印

(第二號書式)

今般軍役志願候ニ付御採用ノ上ハ軍隊ノ御規則嚴重ニ相守可申ハ勿論向(何箇年)間ハ  
自己ノ便宜上ヨリ除隊申出開敷後日ノ爲メ誓約如件  
年 月 日  
住所職業戶主長(次)男(離弟)  
某  
當年何歲  
混成旅團長宛

○臺灣總督府令第百十八號(官報十月二十一日)  
明治三十二年五月府令第三十六號中左ノ通改正ス  
臺灣總督府令第百十九號(官報十月三十一日)  
明治三十二年十月二十二日  
臺灣總督府令第百十九號(官報十月三十一日)  
明治三十二年十月二十二日  
臺灣總督府令第百十九號(官報十月三十一日)  
明治三十二年十月二十二日

〔参照〕

臺灣總督府令第三十六號臺灣防疫規則施行細則(明治三十二年五月十六日官報)抄錄  
第二十三條 地方長官ハ防疫流行中其狀況ヲ調査シ毎週別記様式ニ依リ臺灣總督ニ報告スヘシ  
臺灣總督府令第百十九號(官報十月三十一日)  
明治三十二年十月二十二日  
臺灣總督府令第百十九號(官報十月三十一日)  
明治三十二年十月二十二日  
臺灣總督府令第百十九號(官報十月三十一日)  
明治三十二年十月二十二日

○臺灣總督府令第二百十號(官報十一月二十四日)  
關稅法第八十七條ノ稅關官吏タル資格ヲ證明スル證票標式左ノ通相定ム

明治三十二年十一月十五日  
地質象皮 縦二寸

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第 號  
證 票

何稅關  
之印  
(稅關出納所)

分五寸一橫

臺灣總督府稅關監視(官吏)何某

○臺灣總督府令第二百一十一號 (官報 十二月二日)

明治三十一年七月府令第六十一號臺灣地方稅賦課規則中左ノ通改正ス

明治三十二年十一月十七日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一條 地租附加税ハ地租納期ノ徵收額ニ依リ小租戸ニ之ヲ賦課ス  
舊慣ニ依リ地租ノ納入大租戸ナルトキモ地租附加税ハ小租戸ニ之ヲ賦課スルモノトス

〔參照〕

臺灣總督府令第六十一號臺灣地方稅賦課規則(明治三十一年八月八日官報)抄錄  
第一條 地租附加税ハ地租納期ノ徵收額ニ依リ之ヲ賦課ス

○臺灣總督府令第二百一十二號 (官報 十二月二日)

臺灣總督府稅關官制第十二條ニ依リ稅關監視署ノ名稱及位置左ノ通相定ム

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ施行ス

明治三十二年十一月十九日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

名	位	職	名	位	職
大安港稅關監視署		臺中縣管下大安港	臺中縣管下大安港		臺中縣管下蕃控
臺灣總督府令第二百一十三號 (官報 十二月七日)		蕃控稅關監視署	臺灣總督府令第二百一十三號 (官報 十二月七日)		臺中縣管下蕃控

○臺灣總督府令第二百一十三號收入印紙賣下賣捌規則第二條但書中「辨務署」ノ下ニ「辨務支署」ノ四字ヲ加フ

明治三十二年十一月二十三日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

臺灣總督府令第十三號收入印紙賣下賣捌規則(明治三十二年三月三日官報)抄錄

第二條 印紙ハ官認ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム但土地ノ情況ニ依リ稅關或稅關邊所及發賣所ニ於テ直接賣下ヲ爲ス

○臺灣總督府令第百二十四號 (官報 十二月七日)

明治三十一年八月府令第八十三號臺灣茶業取締規則中左ノ通改正ス

明治三十二年十一月二十五日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第三條ノ二 組合ヲ設ケタル地區内ニ於テハ組合以外ノ者ハ茶業ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 組合ハ組合員中ヨリ會長副會長各二名幹事若干名ヲ選任シ地方長官ヲ經由シ臺灣總督ニ届出ツヘシ其改選ヲ行ヒタル場合亦同シ

第七條中規約ヲ定メ下ニ地方長官ヲ經由シノ八字ヲ加ヘ第二號粗惡茶ノ下ニ及不正茶ノ四字ヲ加ヘ左ノ一條ヲ追加ス

第七條ノ二 臺灣總督ハ必要ト認ムルトキハ組合規約ノ變更若ハ追加ヲ命スルコトヲ得

第八條 組合ハ組合ノ信用ヲ害シ又ハ本島產茶販路ノ擴張ニ障害ヲ與フヘキ虞アル不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ組合規約ノ執行ニ服從セサル組合員ニ對シテハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ除名ヲ爲スコトヲ得

第九條 臺灣總督ハ地方長官ヲシテ組合ノ事務ヲ監督セシメ此規則若ハ組合規約ニ違背シ又ハ其執行ヲ怠ルト認ムルトキハ地方長官ヲシテ役員ノ全部若ハ一部ノ改選ヲ命シ又ハ吏員ヲ派シテ其懈怠事項ヲ執行セシムルコトヲ得

第十條 此規則第三條ノ二ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

〔參照〕  
臺灣總督府令第八十三號臺灣茶業取締規則(明治三十一年八月三十一日官報抄錄)  
第二條 茶業者ハ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但自家用製茶ノ現生葉ヲ販賣スル者ハ組合ニ於テ制限ヲ設ケ加入セシメサルモ妨ケナシ  
第六條 組合ハ組合員中ヨリ會長副會長各一名幹事若干名ヲ選任スヘシ但以上ノ役員ヲ選任シ又ハ改選シタルトキハ其都度地方廳ニ届出ツヘシ  
第七條 組合ハ左ノ事項ニ準據シ規約ヲ定メ臺灣總督ノ認可ヲ請フヘシ  
一 粗惡茶取締ニ關スル事項  
第八條 此規則第二條ヲ犯シタル茶業者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
○臺灣總督府令第百二十五號 (官報 十二月八日)  
憲兵警察區ノ區域左ノ通相定ム

憲兵警察區

區	堡	里	街	庄	社	名
第十三憲兵隊管區						
臺北憲兵警察區	大加納堡一圓	擺接堡一圓	興直堡一圓	芝蘭一堡一圓	芝蘭二堡一圓	芝蘭三堡一圓 文山堡一圓
基隆憲兵警察區	基隆堡一圓	石碇堡一圓	金包里堡一圓	三貂堡一圓		
宜蘭憲兵警察區	本城堡一圓	四圍堡一圓	頭圍堡一圓	民壯圍堡一圓	員山堡一圓	清水溝堡一圓 浮州堡一圓 紅水溝堡一圓
大嵙崁憲兵警察區	海山堡一圓	桃澗堡一圓	八里坌堡一圓	竹北二堡ノ内一部(鐵道線路以北ノ各街庄)		
新竹憲兵警察區	竹北二堡ノ内一部(鐵道線路以南ノ各街庄)	竹北一堡一圓	竹南一堡一圓			



○臺灣總督府令第二百二十六號(官報 十二月十六日)

明治三十一年十二月 府令第二百一十一號臺灣公學校教諭檢定制則中左ノ通改正ス

明治三十二年十二月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣公學校教諭檢定制則ヲ臺灣公學校教諭檢定制則ニ改ム

第一條第九條第十一條中「教員」ヲ「教諭」ニ改ム

第九條免許狀書式中公學校ノ上ニ「臺灣」ノ二字ヲ加フ

第五條ノ末ニ左ノ一號ヲ加フ

一 滿五箇年以上臺灣公學校訓導ノ職ニ從事シ品行優良學術授業超衆ト認め地方長官ニ於テ特ニ具申シタル者

第十條 免許狀ヲ授與シタルトキハ其都度之ヲ公學校教諭候補者名籍ニ登錄シ且其氏名ヲ廣告ス

〔參照〕

臺灣總督府令第二百一十一號臺灣公學校教諭檢定制(明治三十一年十二月十七日)抄錄

第五條 檢定制ヲ請フ者ハ年齡滿二十一歳以上四十五歳以下ニシテ身體健全品行方正且左ノ資格ノ一ヲ具フルコトヲ要ス

一 臺灣總督府國語學校師範部卒業生並同校所定ノ講習ヲ修了シタル者

一 内地ニ於テ滿三箇年以上小學校教員ノ職ニ從事シ且臺灣土語ヲ習得シタル經歷アル者

第十條 公學校訓導ニ任用スル者ノ檢定ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

○臺灣總督府令第二百二十七號(官報 十二月十六日)

臺灣公學校訓導檢定制則左ノ通相定ム

明治三十二年十二月一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣公學校訓導檢定制則

第一條 地方官廳ニ臺灣公學校訓導檢定制委員ヲ置キ縣ニ於テハ其縣官吏並師範學校長教員廳ニ於テハ其廳官吏並公學校長教諭五人以下ヲ以テ組織シ地方長官之ヲ命スヘシ

地方長官ハ檢定制委員中ニ就キ委員長ヲ命スヘシ

第二條 檢定制委員長ハ此規則ニ依リ施行シタル檢定ノ成績ヲ地方長官ニ具申スヘシ

第三條 地方長官ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ免許狀ヲ授與スヘシ

第四條 檢定制ヲ請ハント欲スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ辨務署長ヲ經テ地方官廳ニ願出ツヘシ但師範學校ヲ卒業シ即時檢定制ヲ請フ者ハ當該師範學校長ヲ經由スヘシ

第五條 辨務署長師範學校長ハ前條ニ依リ願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ付シ地方長官ニ具申スヘシ

第六條 檢定制ヲ請フ者ハ年齡滿二十一歳以上ニシテ身體健全品行方正且左ニ掲グル者タルヘシ

一 臺灣總督府師範學校卒業生

二 臺灣總督府國語學校語學部國語學科卒業生ニシテ特ニ實地授業ニ堪フル者但檢定制委員ニ於テ必要ト認ムルトキハ實地授業ノ試験ヲ行フコトヲ得

三 臺灣總督府國語學校附屬學校特別科卒業生及國語傳習所甲科卒業生ニシテ滿一箇年以上官立公立ノ學校ニ於テ教員ノ業務ニ從事シタル者

四 他ノ縣廳ニ於テ公學校訓導ノ免許狀ヲ受得シタル者

五 其他學力品行等ニ關シ地方長官ニ於テ特ニ適任ト認メタル者アルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ免許狀ヲ授與スルコトヲ得

得テ免許狀ヲ授與スルコトヲ得

第七條 前條各號ノ外特ニ試験ニ依リテ合格セシ者ニ免許狀ヲ授與スルコトヲ得但其試験ノ科目程度ハ臺灣總督府師範學校規則第十二條ニ準據スヘシ

第八條 免許狀ノ效力ハ授與ノ日ヨリ滿五箇年トス但滿期ノ後若干年間延期スルコトヲ得

第九條 公學校訓導免許狀ノ書式左ノ如シ

臺灣公學校訓導免許狀

契印	族籍	名
氏	年	齡
右ハ明治何年何月何日ヨリ向五箇年間臺灣公學校ノ訓導タルコトヲ免許ス	關	廳
印	年	月
日		
番	號	
何縣知事(廳長)位勳爵氏名		

第十條 地方長官ハ公學校訓導候補者名籍ヲ作り免許狀ヲ授與シタル都度之ニ登録シ其氏名等ヲ臺灣總督ニ具申シ兼テ管内ニ告知スヘシ

第十一條 此規則ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定メ臺灣總督ニ具申スヘシ

○臺灣總督府令第二百二十八號(官報 十二月二十三日)

稅關出張所ノ名稱位置及管轄區域左ノ通相定ム

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十九年八月府令第二十五號同三十年一月府令第一號及同三十二年一月府令第七號ハ之ヲ廢止ス

明治三十三年十二月八日 臺灣總督男爵兒玉源太郎

名稱	位	置	管轄區域	名稱	位	置	管轄區域
亞港	臺北縣管下	亞港	南坎港ヨリ南方中港ニ至ル沿岸	下湖口	臺中縣管下	下湖口	西螺溪ヨリ南方北港溪ニ至ル沿岸
後壠	臺中縣管下	後壠	中港ヨリ南方大安港ニ至ル沿岸	東石港	臺南縣管下	東石港	北港溪ヨリ南方新溫庄ニ至ル沿岸
塗葛窟	臺中縣管下	塗葛窟	大安港ヨリ南方草港ニ至ル沿岸	媽宮	澎湖廳管下	媽宮	澎湖列島一圓ノ沿岸
鹿港	臺中縣管下	鹿港	草港ヨリ南方西螺溪ニ至ル沿岸	東港	臺南縣管下	東港	淡水溪ヨリ南方枋寮ニ至ル沿岸

〔參照〕

明治二十九年臺灣總督府令第二十五號同三十年同第一號同三十二年同第七號ハ稅關出張所ノ配置及名稱ノ件ナリ

○臺灣總督府令第二百二十九號(官報 明治三十三年一月四日)

明治三十三年二月一日ヨリ左ノ法院出張所ニ於テ裁判事務ヲ取扱フ

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺北地方法院宜蘭出張所 臺南地方法院鳳山出張所

○臺灣總督府令第三百二十號(官報 明治三十三年一月六日)

明治三十一年七月府令第六十二號臺灣地方稅徵收規則中左ノ通改正ス

臺灣總督男爵兒玉源太郎

明治三十三年十二月十六日

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

辦務支署長ニ於テ地方稅ノ徵收ヲナス場合ニ於テハ辦務署長ト同一ノ手續ニ依ルヘシ



○臺灣總督府令第三百三十一號 (官報 明治三十三年一月六日)  
臺灣罹災救助基金規則施行細則左ノ通相定ム

明治三十二年十二月二十日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

臺灣罹災救助基金規則施行細則

- 第一條 罹災救助基金ハ此細則ニ依リ地方長官ニ於テ管理スヘシ
- 第二條 臺灣罹災救助基金規則第五條ノ費目ハ左ノ範圍ニ從フコトヲ要ス
  - 一 避難所費ハ罹災者ノ爲必要ナル共同避難所ヲ設クル費用ニ充ツルモノナルコト
  - 二 食料費ハ罹災者ノ爲必要ナル焚出ヲ爲シ又ハ食品ヲ給與スル費用ニ充ツルモノナルコト
  - 三 被服費ハ罹災者自ラ被服ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テ被服ヲ給與スル費用ニ充ツルモノナルコト
  - 四 治療費ハ災害ノ際罹災者ノ傷痍疾病ヲ治療スルノ必要アル場合ニ於テ其費用ニ充ツルモノナルコト
  - 五 小屋掛料ハ災害ノ際罹災者ノ爲必要ナル小屋掛ヲ爲シ又ハ爲スヘキ材料ヲ給與スル費用ニ充ツルモノナルコト
  - 六 就業費ハ主トシテ勞働ニ依リテ業務ニ從事シ價格僅少ナル資料又ハ器具ニ依頼スル貧民ニシテ罹災ノ爲其資料又ハ器具ヲ亡失シタル者ニ就業ノ爲必要缺クヘカラサル資料又ハ器具ヲ給與スルノ費用ニ充ツルモノナルコト
- 第三條 前條費用ノ標準ハ地方長官ニ於テ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ
- 第四條 罹災救助基金ハ豫算ニ基キ地方稅每納期後六十日以内ニ於テ其調定額ニ相當スル金額ヲ貯蓄スヘシ若クハ六十日以内ニ於テ貯蓄シ難キ事情アルトキハ其事由ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 罹災救助基金ノ運用ハ臺灣罹災救助基金規則ニ規定アルモノヲ除ク外左ノ範圍ニ從フコトヲ要ス

- 一 國債證券ヲ買入ルルコト
- 二 大藏省預金又ハ郵便貯金ニ預入レ若ハ確實ナル銀行ニ利付ニテ定期預又ハ當座預ヲ爲スコト
- 第六條 土地建物ハ直接罹災救助基金ノ用ニ供スルモノヲ除ク外總テ貸貸ヲ爲スヘシ但貸貸ハ敷金又ハ土地建物ノ所在地ニ住スル身元確實ナル者ノ保證ヲ以テ擔保ト爲シ且契約期限内ト雖隨時解約シ得ヘキ條件ヲ付スルコトヲ要ス
- 第七條 穀類ハ倉庫又ハ水火盜難等ノ虞少キ場所ニ貯藏シ常ニ鎖鑰ヲ施シ置キ之ヲ開クトキハ官吏二名以上ヲ立會ハシムヘシ
- 地方長官ハ一年一回相當ノ時期ニ於テ官吏二名以上立會ノ上貯藏ノ穀類ヲ點檢シ其現況ヲ明ニシタル調書ヲ作ラシメ帳簿ニ照合シ缺損ナキヤ否ヲ檢査スヘシ
- 前項ノ檢査ニ依リ又ハ臨時ニ穀類ノ缺損其他異狀アルヲ認知シタルトキハ速ニ相當ノ措置ヲ爲シ其旨直ニ臺灣總督ニ報告スヘシ
- 第八條 穀類ハ穀類供給ノ必要アルトキ若ハ貯存ノ必要ナキトキ又ハ腐朽ノ虞アルトキニアラザレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス
- 穀類保存上舊穀ヲ新穀ニ換フルノ必要アルトキハ其全部若ハ幾部ヲ賣却シ其代金ヲ以テ新穀ヲ

買入ル、コトヲ得

- 第九條 土地建物ヲ賣却セントスルトキハ地方長官ハ臺灣總督ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スヘシ
- 第十條 臺灣罹災救助基金規則第四條及第九條ノ補填ハ其年度内ニ於テ爲スコトヲ要ス若其年度内補填ヲ爲スコト能ハサルトキハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十一條 罹災救助基金ノ貯蓄及穀類ノ處分並罹災救助ノ施行ハ直ニ臺灣總督ニ報告スヘシ
- 第十二條 地方長官ハ罹災救助基金臺帳及出納ニ關スル帳簿ヲ作り常ニ其現況ヲ明ニスヘシ
- 第十三條 地方長官ハ翌年度六月三十日限リ前年度ニ於ケル罹災救助基金ノ計算書及救助施行ニ關スル概況書ヲ作り臺灣總督ニ報告スヘシ
- 第十四條 罹災救助基金ニ關スル收支手續ハ此細則ニ定ムルモノノ外總テ臺灣地方稅ニ關スル規定ヲ準用ス

○臺灣總督府令第三百三十二號 (官報 明治三十三年一月六日)

明治三十二年六月府令第四十五號臺灣監獄則施行細則左ノ通改正ス

明治三十二年十二月二十一日

臺灣總督男爵兒玉源太郎

第一章 通則

- 第一條 新ニ入監スル者アルトキハ必要ノ書類ヲ查閱シテ之ヲ領收シ領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付スヘシ
- 第二條 入監者ニハ先ツ之ニ番號ヲ付シ通身ヲ検査シ名籍原簿ニ其必要項ヲ詳録シ仍ホ在監人遵守ノ要件ヲ説示スヘシ

- 第三條 在監人ノ遵守スヘキ事項ハ冊子トシ監房内ニ備ヘ置クヘシ
- 第四條 監房前ニハ下部ニ番號入監年月日上部ニ氏名罪質刑名刑期留置期限犯數生年月ヲ記載シタル小札ヲ掲クヘシ但上部ハ之ヲ掩フモノトス
- 第五條 領置ノ貨物ハ其品名數量ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ
- 第六條 領置ノ貨物ハ本人釋放ノ時之ヲ下付スヘシ
- 第六條 入監ノ際携帶ノ物品ニシテ監獄官吏ニ於テ保存ノ價值ナシト認メタルモノ又ハ保存ニ堪ヘ難キモノ又ハ保存ニ不便ナルモノハ本人ハ告知ノ上之ヲ領置ヲ拒ムコトヲ得但本人ノ請求アルトキハ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スヘシ
- 長期囚所持ノ物品ハ本人ハ告知ノ上之ヲ賣却スルコトヲ得
- 第七條 在監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第五條第六條ノ例ニ依ル
- 第八條 總テ監房ニ入ルル物品ハ之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ之ヲ禁スヘシ
- 第九條 在監人入房ノ際ハ總テ通身ノ検査ヲ爲スヘシ
- 通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但工場教誨堂運動場浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニアラス
- 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ女監取締之ヲ行フヘシ
- 第十條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後直ニ之ヲ調査シテ放免曆簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ
- 第十一條 釋放スヘキ者アルトキハ典獄ハ名籍原簿ニ照シテ其氏名相貌等ヲ糺シ釋放ヲ言渡スヘシ

第十二條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ其名數ヲ簿冊ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ履印セシムヘシ

第十三條 同日ニ數名ノ釋放者アルトキハ各其釋放時ヲ異ニスヘシ但刑事被告人ハ此限ニアラス

第十四條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシムヘシ  
法院又ハ他ニ押送ノトキ亦同シ

第十五條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報スヘシ

第十六條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ辨務署ニ護送スヘシ

第十七條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ別ニ定ムル方式ニ依テ行フヘシ

第十八條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ニ限り居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與ス

已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シコトヲ請フトキハ典獄ニ於テ其事由ヲ取札シ許可スルコトアルヘシ

第十九條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取札シテ許可スヘシ

第二十一條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル典獄ニ

於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ臺灣總督ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ヲ乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ乙地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ之ヲ執行スヘシ

第二十二條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一人ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十三條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

第二十四條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第二十五條 死刑ハ受刑者自衣着用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第二十六條 雜居監房ハ相當官吏ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノアラサルトキハ此限ニアラス

第二十七條 同一監房ニハ二人ヲ拘禁スルコトヲ得ス

餘罪又ハ刑期限内犯罪ノ爲審問中ニ係ル囚人ハ一房ニ一人ヲ拘禁スヘシ

第二十八條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但病監又ハ特ニ臺灣總督ノ認可アリタル場合ハ此限ニアラス

第二十九條 雜居監房ニ下付スル書籍ハ一人同時ニ三冊ヲ超ユヘカラス但字書ハ此限ニアラス  
 第三十條 監房内ニ在テハ各自ノ席次ヲ定ムヘシ工場ニ在テモ亦同シ  
 第三十一條 各監房ト看守所間ニハ報知器ノ設備ヲ爲スヘシ  
 第三十二條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ  
 第三十三條 各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ彼是供用スルヲ得セシムヘシ  
 第三十四條 監獄ニハ消防具ヲ備ヘ置クヘシ

第二章 作業

第三十五條 作業ヲ指定セントスルトキハ先ツ醫師ヲシテ其就業スヘキ者ノ身體ヲ診査セシムヘシ  
 第三十六條 作業ハ科程ヲ定メテ服セシムヘシ  
 科程ハ普通一人ノ働高ヲ以テ等ニ之ヲ定ム但老若幼者病弱者不具者未熟者等ハ此限ニアラス  
 炊事洒掃看護等科程ヲ付シ難キモノハ一定ノ就業時間ヲ以テ一日ノ科程トス  
 第三十七條 監獄作業ノ種類ハ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ  
 第三十八條 外役ニ服セシムル者ハ鍊鐵ノ鎖ヲ用井テ二四毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用井テ其面ヲ掩ハシムヘシ但女囚ハ外役セシムルコトヲ得ス  
 外役ノ囚人ハ看守二人以上ヲシテ戒護セシムヘシ  
 第三十九條 理髮野紙摺掃除等ノ如キ監獄用ノ業ニシテ終日使役シ難キモノハ副業トシテ之ヲ課スヘシ  
 第四十條 作業ノ出來高ハ毎日一回各囚ニ就キ之ヲ檢査スヘシ

第四十一條 科程ノ了否ハ一箇月分ヲ積算調査シテ之ヲ定ムヘシ  
 第四十二條 服役セシムヘキ在監人ハ左ノ時間就役セシムルモノトス但地方ノ狀況又ハ監獄ノ構造ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ經テ伸縮スルコトヲ得

十一月	七時間	十一月	七時三十分間	二月	八時間
十月	八時三十分間	三月	九時間	四月	九時三十分間
五月	十時間	六月	十時三十分間		

第四十三條 無定役囚及刑事被告人ニシテ作業ニ服スル者ニモ本章ノ規定ヲ適用ス

第三章 工錢

第四十四條 作業ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ之ヲ定ムヘシ  
 工錢ハ六箇月ニ一回以上之ヲ調査料定スルヲ要ス  
 第四十五條 定役囚ニハ左ノ例ニ從ヒ工錢ヲ給與ス  
 一 初入者ニハ重罪囚十分ノ二輕罪囚十分ノ三  
 一 再入者ニハ重罪囚十分ノ一輕罪囚十分ノ二  
 但再入者ニシテ刑期一年以上ヲ經過シ作業ニ勉勵スルトキハ初入者ノ例ニ準スルコトヲ得  
 第四十六條 免役日ニ於テ囚人ヲ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ  
 第四十七條 屏禁處罰中ハ工錢ヲ給與セズ  
 第四十八條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月十日以内ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第四十九條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人及刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ  
通常服ト就役服ト別ツヘシ但本島人及清國人ニアリテハ通常服ニ限リ本島ノ製法ニ準シ上衣  
及袴ヲ貸與ス

外國人<sup>清國人ヲ除ク</sup>ニ貸與スル衣類ハ洋服ノ製ニ準ス

第五十條 在監人ニハ臥具トシテ各自ニ毛布ヲ貸與ス

第五十一條 懲治人及刑事被告人ノ著用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚損其他衛生上ニ害ア  
リト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十二條 在監人ノ衣服ノ外襟及毛布ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ記スヘシ

第五十三條 囚人ノ衣類及貸與ノ衣類雜具左ノ如シ

衣類

- 一 單衣
- 一 袷
- 一 縮入
- 一 襦袢
- 一 股引
- 一 袴

内地人婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與ス  
雜具

- 一 毛布
- 一 蚊蠅
- 一 莞藎
- 一 枕
- 一 帶
- 一 褌
- 一 手巾
- 一 雨具
- 一 冠物
- 一 履物
- 一 髮尾
- 一 髮尾 髷髮用
- 一 足布 纏足用

以上ノ外用紙ハ別ニ之ヲ給與ス其他必要アル場合ニ於テハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ其品目ヲ變更  
又ハ増減スルコトヲ得

第五十四條 病者ノ衣類雜具ハ醫師ノ意見ニ依リ典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第五十五條 療養ノ爲必要ナル飲食物ハ醫師ノ意見ニ依リ之ヲ給與スヘシ

第五十六條 囚人及懲治人ニシテ二圓以上ノ領置工錢ヲ有シ作業ニ勉勵シ行狀方正ナルトキハ其  
請ニ依リ工錢ヲ以テ食物購求ヲ許スコトヲ得但種類分量ハ典獄線メ制限ヲ設クヘシ

第五十七條 工錢ヲ以テ食物ヲ購求スルハ一月五回以下ニシテ一回金五錢ヲ超ユルコトヲ得ス但

購求費ハ前月分給與工錢ノ三分ノ一以内トス

第五十八條 食物ノ購求ハ懲罰中並處罰後一箇月ヲ經ルニアラサレハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第五章 衛生及死亡

第五十九條 監獄ハ常ニ清掃シ廁間並便器ハ度數ヲ定メテ掃除スヘシ

第六十條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニシ離隔消毒ヲ嚴格ニスヘシ

第六十一條 刑事被告人無定囚及分房ニ在ル囚人ハ毎日三十分以上監房外ニ於テ運動ヲ爲サシム

第六十二條 監獄ニハ體量器ヲ備ヘ置キ入出監ノ際、處罰前後、其他一箇年一回以上體重ヲ量ルヘシ

第六十三條 衣類臥具其他ノ物品ハ種質ニ由リ蒸氣其他適當ノ方法ヲ用非臭氣ヲ除キ蟲害ヲ防ク

ヘシ但病者ノ物品ハ特ニ注意ヲ施シ他物ト混同スヘカラズ

第六十四條 入浴ノ度數ハ作業ノ種類其他ノ狀況ニ依リ之ヲ定ム但毎年五月ヨリ十月マテハ三日

毎ニ一回十一月ヨリ四月マテハ五日毎ニ一回ヲ下ルヲ得ス

第六十五條 在監人ノ鬚髮ハ常ニ清潔ニ梳理セシムヘシ但衛生上若バ規律上必要ト認メタルトキハ之ヲ剃削スルコトヲ得

第六十六條 髮ヲ短薙セサル者ノ監房ニハ木梳ヲ備ヘ置クヘシ

第六十七條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴密ニスヘシ若在監人中傳染病者アルトキハ直

ニ離隔室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ狀況ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ヘ申報シ且其旨ヲ辨務署ニ通知スヘシ

第六十八條 傳染病流行ノ際ハ飲食食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得

第六十九條 傳染病流行地ヲ發シ若ハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ

者ト離隔シ其攜帶スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十條 危篤ノ病者アルトキハ直ニ親屬ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ尙其旨ヲ法院ニ通知スヘシ

第七十一條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ法院ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其法院

ニ申報スヘシ

七十二條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ依リ病症及其因由並死亡ノ年月日時ヲ死亡帳

ニ記載スヘシ若變死シタルトキハ醫師ノ檢察ニ依リ死亡ノ因由及其年月日場所死狀等ヲ詳記ス

ヘシ

第七十三條 死者ノ親屬若ハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ死亡帳ニ證明セシ

ムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標

ヲ建ツヘシ

第七十四條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第七十五條 死亡者ノ領置貨物アルトキハ親屬ニ下付ス

親屬遠地ニ在リテ直接ニ物品ノ下付ヲ受クルコト能ハサル場合ニアリテハ其意思ヲ聞キ本人ノ費用ヲ以テ物品ヲ送付シ又ハ其物品ヲ公賣シテ其代金ヲ送付スルコトヲ得

第七十六條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第七十七條 在監人ヨリ發スル信書ハ一定ノ書信紙ヲ用井シメ典獄之ヲ封緘發送スルモノトシ郵便稅ハ自辨トス但郵便端書ヲ用井シムルモ妨ナシ  
官司ノ訊問ニ依テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ

第七十八條 囚人ヨリ發スル信書ハ一定ノ日時ニ於テ認メシムヘシ但要急ノモノハ此限ニアラス  
第七十九條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ其氏名身分住所職業及事由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノトス  
接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及他監ニ押送以前又ハ第八十二條ノ場合ハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得  
辯護人トノ接見ハ前項ノ限ニアラス

第八十條 接見ヲ許シタル者若接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ姿貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

第八十一條 接見ノ際在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會フヘシ

第八十二條 病者トノ接見ハ危篤ノ際ニ限り病監ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得  
第八十三條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時マデノ間トス但前條ノ場合ハ此限ニアラス

第七章 差入品

第八十四條 刑事被告人及懲治人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒煙草及阿片ヲ除キ監獄内ニ於テ炊烹ヲ要セサルモノニシテ一日三回一八一食ノ量ニ限ル

第八十五條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ検査スヘシ但飲食物ノ検査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第八十六條 検査ノ爲解纏シタル衣類臥具ニシテ差入ヲ許スモノハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第八十七條 免齒閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣類家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨及教育

第八十八條 教誨ハ免役日日曜日又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十九條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九十條 幼年囚懲治人ノ教育ハ小學程度ニ依リ修身讀書算術地理歷史習字體操其他必要ナル學科ヲ授クルモノトス

第九章 賞譽

第九十一條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用井上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ縫著スルモノトス

第九十二條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

- 一 衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス
- 二 書信ハ一箇月ニ一通之ヲ爲スコトヲ許ス
- 三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタシムルコトアルヘシ
- 四 賞表一箇ヲ得タル者ニハ菜ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回金二錢ヲ超ユルコトヲ得ス
- 五 定役囚ノ工錢ハ左ノ例ニ依リ給與スルモノトス
  - 賞表一箇ヲ得タル重罪囚ニハ十分ノ三輕罪囚ニハ十分ノ四其二箇ヲ得タル重罪囚ニハ十分ノ四輕罪囚ニハ十分ノ五其三箇ヲ得タル重罪囚ニハ十分ノ五輕罪囚ニハ十分ノ六ヲ給ス

第九十三條 在監人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金五十錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニアラス

- 一 在監人ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ
  - 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
  - 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ
- 刑事被告人ニ係ルトキハ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該判官ニ通知スヘシ

第十章 懲罰

第九十四條 在監人中犯則者アルトキハ其取調中他ノ者ト隔離シ置クヘシ

第九十五條 懲罰ヲ受ケタル者ハ其罰期終ルモ監房ヲ別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得

第九十六條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スヘシ

但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス

第九十七條 兩脚ニ施錠ノ者改悛ノ狀顯ハレ其施錠期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ錠ハ免除スルコトヲ得

第九十八條 施錠ノ者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施錠期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其錠ヲ免除スルコトヲ得

第九十九條 假ニ錠ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施錠期限ニ算入スヘカラス

第一百條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若ハ看守長時々其動靜ヲ視察シ教誨師醫師ヲシテ之ヲ訪問セシムヘシ

第一百一條 此細則ニ於テ典獄ニ屬セシメタル職務ハ廳監獄署ニアリテハ監獄署長タル看守長之ヲ行フ

○臺灣總督府令第三百三十三號

營業ノ爲永久ノ目的ヲ以テ多數ノ労働者ヲ備切リ之ヲ使役スル者ハ労働者組合ヲ設ケ其取締ヲ爲スヘシ但其使役スル労働者十人以下ノ場合ハ此限ニアラス

組合ニ關シテハ明治三十二年七月府令第七十五號労働者取締規則ヲ適用ス

第一項ノ労働者ニシテ労働者取締規則ニ係ル組合ニ加入スルトキハ本令ヲ適用セス

本令ハ明治三十三年一月二日ヨリ施行ス

明治三十三年十二月二十六日

臺灣總督男爵兒玉源太郎



○臺灣總督府令第三百二十四號

明治三十三年二月 府令第十號中「一日金二錢五厘」ヲ「一日金三錢」ニ改ム  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

〔參照〕

○臺灣總督府令第三百二十五號  
明治三十三年三月 府令第十號ハ在監人菜代ノ件ナリ

○臺灣總督府令第三百二十五號  
明治三十三年七月 府令第五十五號臺灣總督府醫學校生徒給與規則中左ノ通改正ス  
臺灣總督男爵兒玉源太郎

第三條第二項中「生徒ニ」ヲ下ニ「往復」ノ二字ヲ加フ  
第十條中「此規則施行ノ際給費生ヲ命シタル生徒ニ限リ」ヲ「新ニ募集シタル生徒ニ給費生ヲ命シタルトキハ」ニ改ム

〔參照〕

臺灣總督府令第五十五號臺灣總督府醫學校生徒給與規則(明治三十三年七月十八日官報)抄録  
第三條第二項  
生徒ニ六里以外ノ地ニ修學ヲ命シタルトキハ一人ニ付一日金一圓五十錢以下ノ特別手當ヲ支給ス  
第十條 此規則施行ノ際給費生ヲ命シタル生徒ニ限リ特ニ二十五圓以下ノ學費ヲ一時支給スルコトヲ得

○臺灣總督府令第三百二十六號  
明治三十一年六月 府令第三十二號ハ自今之ヲ廢止ス  
臺灣總督男爵兒玉源太郎  
明治三十一年十二月二十九日

〔參照〕

○臺灣總督府令第三百二十七號  
明治三十一年八月 府令第三十二號ハ訴訟代人ノ檢定ヲ毎年二回執行スルノ件ナリ

○臺灣總督府令第三百二十七號  
明治三十三年十一月 府令第二百五號憲兵警察區ノ區域中左ノ通改正ス  
臺灣總督男爵兒玉源太郎  
明治三十三年十二月三十日

警察區	區	堡	里	街	庄	社	名
嘉義憲兵警察區	柴頭港堡、大樺榔東下堡、鹿仔草堡、大樺榔西堡、白額潭堡、龍紋潭堡、大坵田西堡、萬松堡						追加ス
嘉義警察區	港西中里ノ内(牛份仔庄、茄苳仔庄、舊港厝庄、新港厝庄、仕誠庄、高朗々庄、西瓜園庄、鹽埔庄、新爲庄)						追加ス
高丹憲兵警察區	港西中里ノ内(蕃薯寮憲兵警察區ヲ除ク外一圓)小琉球島一圓						追加ス

法令全書

訓令

○大藏省訓令第一號

明治二十六年<sup>十一月</sup>十一日 大藏省訓令第四十二號諸收入收納取扱規程第三條中北海道廳鐵道書記各驛主席者トアルヲ北海道廳所管鐵道各驛主席官吏ト改ム

明治三十三年一月七日

大藏大臣 伯耆松方正義

○海軍省訓令第一號

明治二十二年海軍省訓令第十一號ヲ廢ス

明治三十三年一月七日

海軍一般 北海道廳 府縣  
海軍大臣 山本權兵衛

〔參照〕

明治二十二年<sup>十一月</sup>三日 海軍省訓令第十一號ハ從僕刺夫刺死死亡者ハ戍列刺病ニ罹ルトキ取扱方ノ件ナリ

○司法省訓令第一號

民事統計年表樣式中左ノ通改正追加ス

明治三十三年一月二十七日

司法大臣 清浦奎吾

(△印ハ就モ朱書)

正改 民事總計表

大 審 院

明治三十三年一月 訓令 大藏省第一號 海軍省第一號 司法省第一號

部別	再取 原狀回復 訴訟	抗 其他 訴訟	審告										訴訟區別	舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決
			上											
			特 別 訴訟	為 證 書 訴訟	證 書 訴訟	人 事 訴訟	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件		
第一 部													舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決	
第二 部													舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決	
合計													舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決	

民事總計表

某控訴院

部別	再取 原狀回復 訴訟	抗 其他 訴訟	審告										訴訟區別	舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決
			上											
			特 別 訴訟	為 證 書 訴訟	證 書 訴訟	人 事 訴訟	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件	親 子 關係 事件		
第一 部													舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決	
第二 部													舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決	
合計													舊 受 新 受 合 計 既 決 未 決	

正改民事總計表															某地方裁判所
第一節															
訴訟區別	受	新	受	合	計	既	決	未	決	既	決	未	決	既	
訴訟區別	受	新	受	合	計	既	決	未	決	既	決	未	決	既	
通商訴訟															
爲替訴訟															
假押假處分															
特別訴訟															
婚姻事件															
親子關係事件															
親屬人廢除事件															
同居事件															
禁治產事件															
準禁治產事件															
失踪事件															
通商訴訟															
爲替訴訟															
其他民事訴訟															
其他民事訴訟															
合計															

部別	再取	再取	再取	再取	再取	再取	再取	再取	再取
第一民事部									
第二民事部									
合計									

地方裁判所ニ於テ取扱タル非訟事件ハ區裁判所非訟事件統計年表様式ニ依リ別表ヲ調製スヘシ

確定日附事件統計年表

某地方裁判所

登記所及公證人役場	確定日附	確定日附	確定日附	確定日附	確定日附	確定日附	確定日附	確定日附	確定日附
某區裁判所									
某區裁判所									
某區裁判所									
公證人某役場									
合計									